モバイル調査システム
でかちょう

『出簡調』

-管理設定マニュアル-

株式会社マプコン

目次

1. 管理設定マニュアルについて 3
2. 導入の手順 4
2.1. インストール 4
2.2. ライセンスプロテクト装置のドライバーインストール 7
3. 調査項目などを設定する 8
3.1. 定義ファイル 8
3.2. 定義ファイルの作成(『設定管理ツール』) 9
3.3. 定義ファイルの解説 13
3.3.1. レイヤー情報の設定方法 13
3.3.2. 描画シンボルの設定方法 14
3.3.3. 凡例の設定方法 15
3.3.4. 属性表示色の設定方法 16
3.3.5. 調査項目の設定方法 17
3.3.6. 調査員情報の設定方法 27
3.3.7. メモ作図シンボルの設定方法 28
4. 調査用プロジェクトを作成する 29
4.1. 『新規プロジェクト生成ツール』の起動 29
4.2. 『新規プロジェクト生成ツール』 32
4.3. 『出簡調』プロジェクトのフォルダ構成 33
5. 『出簡調』の環境設定を行う 34
5.1. 『管理ツール』の起動 34
5.1.1. 「管理 1」パネル 35
5.1.2. 「管理 2」パネル 37
5.1.3. 「管理 3」パネル 39
5.2. 『管理ツール』補足 42
5.2.1. スプラッシュウィンドウについて 42
6. 起動オプションと ini ファイル 43
6.1. 起動オプション 43
6.2. Dekacho.ini ファイル 45
7. メニューをカスタマイズする 51
7.1. 記述方法 51
7.2. ボタン番号及びボタンの並びについて 52
7.3. ポップアップメニューの使用 53
7.4. クイックメニュー 54
7.5. システム制御コマンド 55
7.6. コメント 57
7.7. 100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー 58
7.8. 300 番台エリアで使用可能なメニュー 67
8. PC-MAPPING 連携機能 69
8.1. 『出簡調』プロジェクトの構成 69
8.2. NAV(PC-MAPPING レイヤーデータ)のポイント内部属性との対応関係 71
8.3. 『出簡調』プロジェクトに地図データを追加する 72
8.4. 『出簡調』プロジェクトをマージする 75
8.5. 『出簡調』プロジェクトをエリアごとに作成する 77
8.6. 『出簡調』プロジェクトの設定を変更する 80
8.6.1. 必須入力項目の設定 80
8.6.2. 初期表示領域の設定 80
8.6.3. UID の初期値の設定 81
8.6.4. UID リスト背景色の設定(UID 部分の色を設定する) 82
8.6.5. 属性リストボックスの背景色の設定 83
8.6.6. ポイント描画キーの設定 84

8.6.7. コンパス・センターマーカーの設定 84
8.6.8. 調査項目の設定 85
8.7. PC-MAPPING との連携（オプション） 97
8.7.1. AttrDisp コマンドオプション 97
8.7.2. AttrDisp オプションの組み合わせ 98
8.7.3. UID を見出し項目を変更する 101
8.7.4. 現地写真フォルダ名を変更する 102
8.7.5. 調査対象物を面として扱う 103
8.7.6. 背景レイヤーのポリゴンから属性を転記する 105
8.7.7. 属性検索時の絞り込み表示 106
8.7.8. 属性検索対象フィールドの制御 109
8.7.9. 背景レイヤー（調査レイヤー以外）を属性検索する 110
8.7.10. 背景レイヤーの属性をツールチップで表示する（クイック属性照会） 111
8.8. PC-MAPPING との連携（スクリプト） 113
8.8.1. 設定方法 113
8.8.2. メッセージボックスを表示する（入力値チェック） 114
8.8.3. 調査結果入力欄をグレーアウトする 116
8.8.4. 調査結果入力欄の背景色を変更する（入力値チェック） 117
8.8.5. 写真への情報シートの貼り込み機能 118
9. システム要件 121
10. お問合せについて 122
改訂履歴 123

1. 管理設定マニュアルについて

- ダイアログボックスは、[]記号で表示します。
  例：[**GPS 設定**]ダイアログボックス

- メニューは、[]記号で表示します。
  例：[**調査員設定**]メニュー

- アプリケーションは、『』記号で表示します。
  例：『**新規プロジェクト生成ツール**』

- 参照は、『』記号で表示します
  例：『**1.導入マニュアルについて**』

- ダイアログボックスのメニュー、チェックボックス、ラジオボタンは、「」記号で表示します。
  例：「**起動時に開くプロジェクトに設定する**」**チェックボックス**

- ボタンは、【】記号で表示します。
  例：【**現在地**】ボタン

- ファイル名は下線で表示します。
  例：ini ファイル（Dekacho.ini）

- タブレット用として、タップ、ロングタップ等の表現をしています。デスクトップの場合はそれぞれ対応した用語に変換してください。

※メニュー名、ボタン名はカスタマイズ可能なため、マニュアルと実際のメニュー名、ボタン名とが異なる場合があります。

2. 導入の手順

『出簡調』をご利用いただくには、4つのステップで調査を行うための設定をします。

ステップ1: 調査項目や調査員設定の定義ファイルの作成

調査項目や調査員、調査対象物の表示色の定義をテキスト形式で作成します。
定義ファイルの作成方法は、『3.調査項目などを設定する』をご参照ください。

ステップ2: 新規プロジェクト生成ツールによる調査用プロジェクトの作成

ステップ1で作成した定義ファイルを元に、調査用プロジェクトを作成します。
調査用プロジェクトの作成方法は、『4.調査用プロジェクトを作成する』をご参照ください。

ステップ3: 管理ツールによる『出簡調』の環境設定

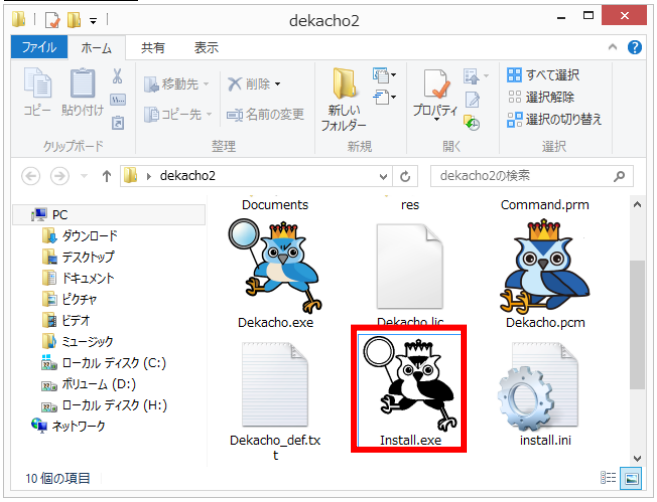
GPS データの受信設定や、使用する調査用プロジェクト等の環境設定を行います。
環境設定方法は、『5.出簡調の環境設定を行う』をご参照ください。

ステップ4: メニューのカスタマイズ

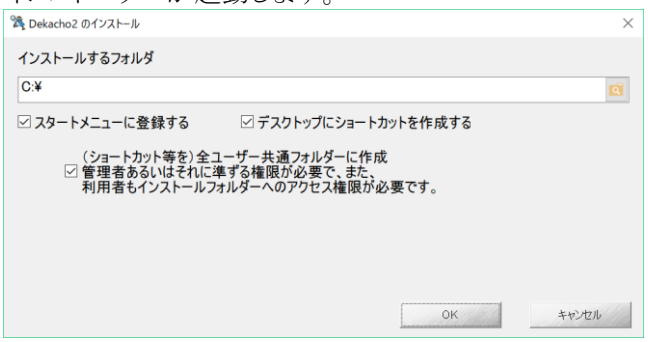
『出簡調』は調査内容や使用方法に応じて、メニューをカスタマイズすることが可能です。
標準のメニューをカスタマイズする場合は、『7.メニューをカスタマイズする』をご参照ください。

2.1. インストール

『出簡調』をインストールします。
Install.exe をダブルタップし、インストーラーを起動します。



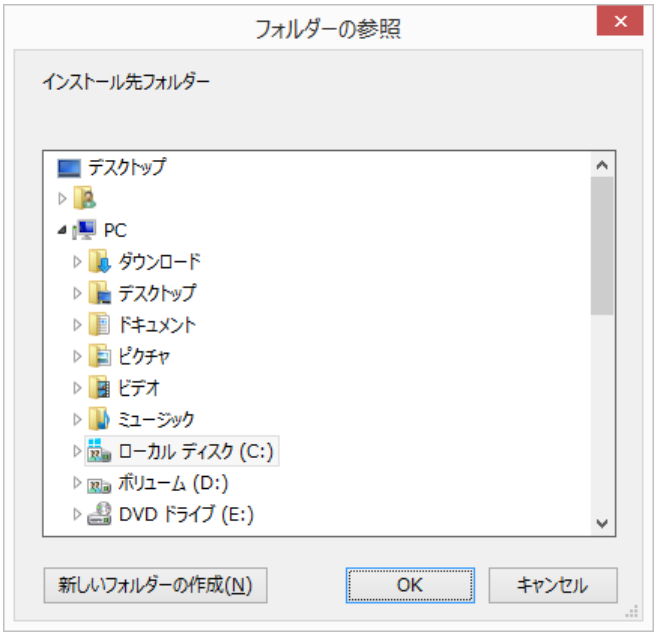
インストーラーが起動します。



インストールするフォルダ

『出簡調』のインストール先を指定します。

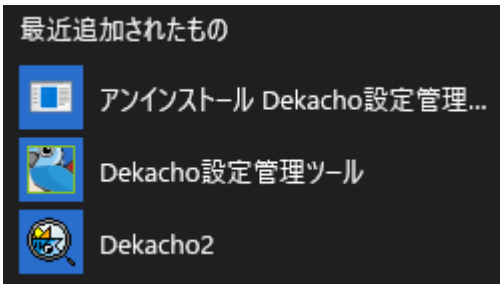
ボタンをタップすると、[フォルダの参照]ダイアログボックスが表示されます。



指定した場所以降に「Dekacho2」フォルダが自動生成されます。

「スタートメニューに登録する」チェックボックス

チェックボックスが ON の場合、スタートメニューに『出簡調』を登録します。

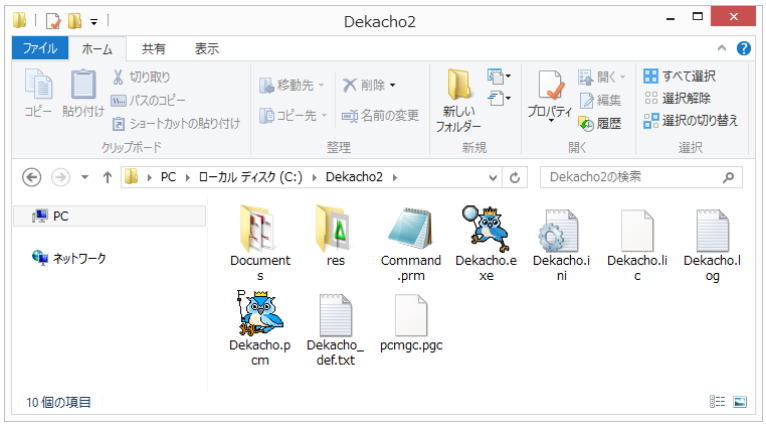


「デスクトップにショートカットを作成する」チェックボックス

チェックボックスが ON の場合、デスクトップに『出簡調』および設定ツールのショートカットが作成されます。

「(ショートカット等を)全ユーザー共通フォルダに作成」チェックボックス
チェックボックスが ON の場合、スタートメニューおよびショートカットを全ユーザー共通のフォルダに作成します。

【OK】ボタンをタップすると、『出簡調』がインストールされます。



■インストールフォルダについて

Dekacho.exe
『出簡調』の実行ファイルです。

Dekacho.pcm
『出簡調』用プロジェクトを生成する場合に、元となるプロジェクトファイルです。
『4.調査用プロジェクトを作成する』で使用します。

Dekacho.ini
『出簡調』の設定ファイルです。
設定可能な内容は、『6.2.Dekacho.ini ファイル』をご参照ください。

Dekacho.lic
『出簡調』のライセンスファイルです。

Dekacho.log
『出簡調』のログファイルです。GPS データの受信結果等が出力されます。

Dekacho_def.txt
『出簡調』の標準の調査項目定義ファイルです。ご利用用途にあわせて調査項目を編集して使用します。編集方法は、『3.調査項目などを設定する』をご参照ください。

Command.prm
『出簡調』のメニュー設定ファイルです。ご利用用途にあわせてメニューをカスタマイズして使用します。カスタマイズ方法は、『7.メニューをカスタマイズする』をご参照ください。

Pcmgc.pgc
住所検索用のジオコーディングデータベースです。

「res」フォルダ
調査ポイントの表示等にご使用いただけるシンボル集です。

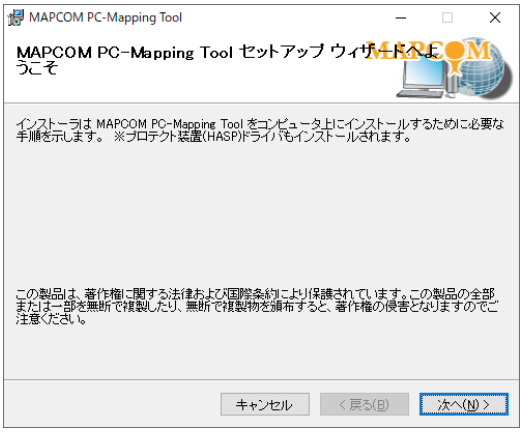
「Document」フォルダ
『出簡調』の取扱説明書および管理設定マニュアルを格納しているフォルダです。

2.2. ライセンスプロテクト装置のドライバーインストール

『出簡調』には、プロテクト処理が施されています。ライセンス認証方式に応じたプロテクト装置またはライセンスファイルがないとアプリケーションを起動することはできません。

認証方式がライセンスプロテクト装置（USB タイプ、以下 HASP）の場合、HASP のタイプによっては、以下の手順でドライバーをインストールしてください。
※HASP が認識しない場合は、ドライバーのインストールが必要です。
※HASP がドライバーレスタイプの場合、以下の操作は必要ありません。
※HASP 以外の認証方式（ネット認証、プロテクトレス）の場合、以下の操作は必要ありません。

① セットアップ DVD¥PcmTool.x32¥PcmTool.x32.msi をダブルクリックし、インストーラーを起動します。
するとセットアップウィザードが表示されますので、**【次へ】**ボタンをクリックします。
※このインストーラーに、64 ビット、32 ビットの区別はありません。



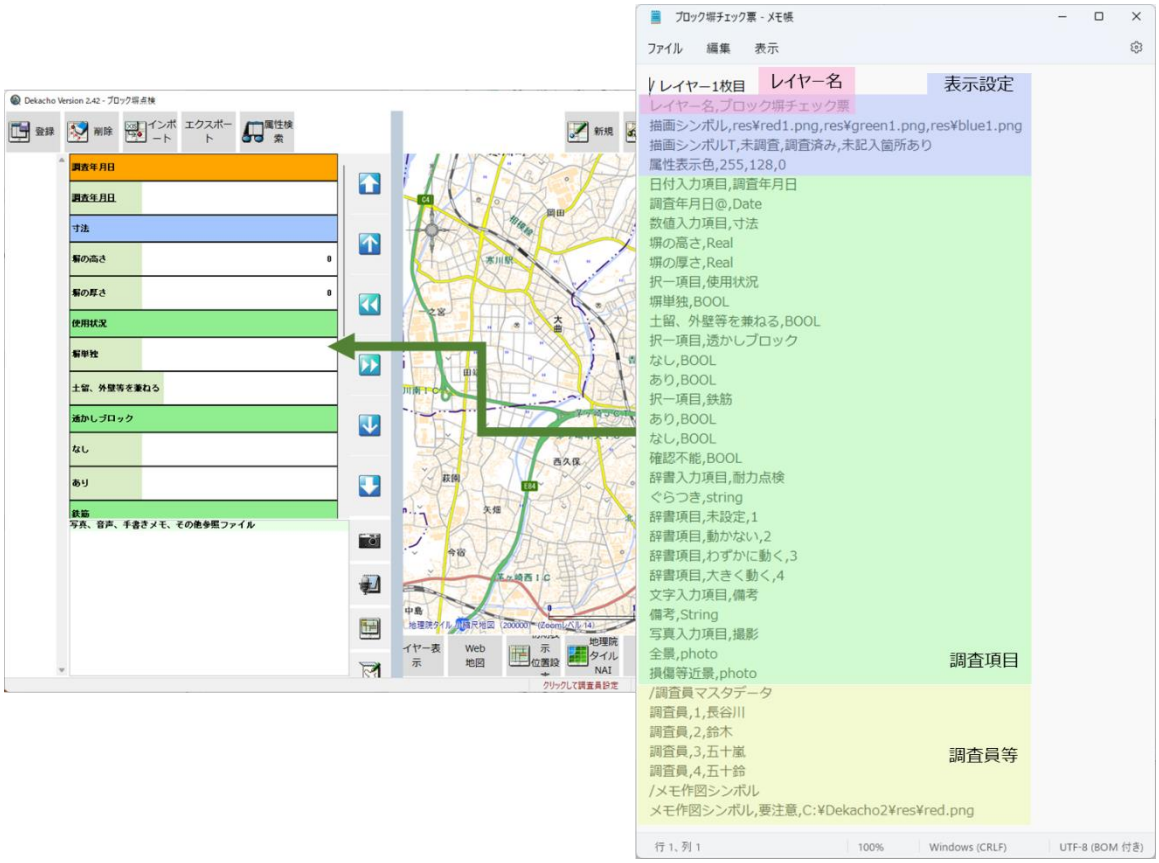
以降の操作は、「PcmTool.x32.インストールガイド.pdf」をご参照ください。

② HASP ドライバーは、①の msi ではなく、コマンドプロンプト等で手動インストールすることも可能です。
ドライバーファイルは、セットアップ DVD¥haspdinst.exe です。

操作方法は、以下ヒント集をご参照ください。
《PC-MAPPING ヒント集>その他>プロテクタ装置のインストールについて》
https://www.mapcom.co.jp/support/hint/other/hint8.htm

3. 調査項目などを設定する

出簡調で使用する調査用のデータ(調査用プロジェクト)を作成するためには、2つの手順が必要です。はじめに調査項目を設定します。



3.1. 定義ファイル

事前に調査項目等を設定する「定義ファイル」をテキスト形式で作成します。
作成の方法は『3.2 定義ファイルの作成』をご参照ください。

定義ファイル設定可能項目

レイヤー情報等	
レイヤー情報(複数レイヤー対応)	凡例(20 種類まで指定可能)
描画シンボル(未調査、調査済、調査済(属性入力不十分))	属性表示色
調査員マスタテーブル	メモ作図シンボル

調査項目	
択一選択(1 項目=1 行)	数値(整数、長整数、実数)
択一選択(辞書引き)	日付・時刻(日付時刻、日付)
複数選択(1 項目=1 行)	色
文字	リレーション(ファイル名/写真)

設定項目に関する詳細は『3.3 定義ファイルの解説』をご参照ください。

> **ヒント:サンプルダウンロード**
> 各種業務の調査項目が設定されたサンプルは、出簡調特設サイトよりダウンロードできます。

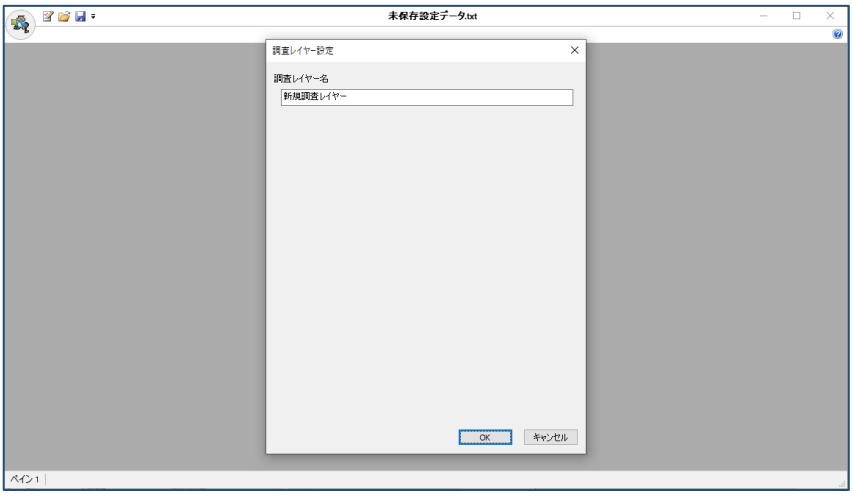
3.2. 定義ファイルの作成(『設定管理ツール』)

『出簡調設定管理ツール』(DekaSettingsManager.exe)を起動し、定義ファイルを作成します。テキストエディタで作成することも可能です。

※タブレットで使用するなど、画面サイズが小さい場合は、DekaSettingsManager.ini で表示モードを変更できます。

① 『出簡調設定管理ツール』を起動します。

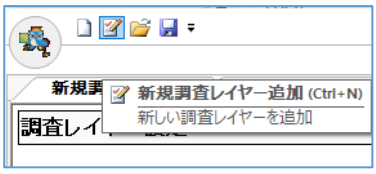
② 下図のように新規作成モードで起動します。



新規に作成する場合

調査レイヤー名(調査票のタイトル)を入れて、調査項目の設定に進みます。

※2つ以上レイヤーを追加する場合は左上メニュー「新規調査レイヤーを追加」をクリックすると、タブが追加されます。



ファイルを編集する場合

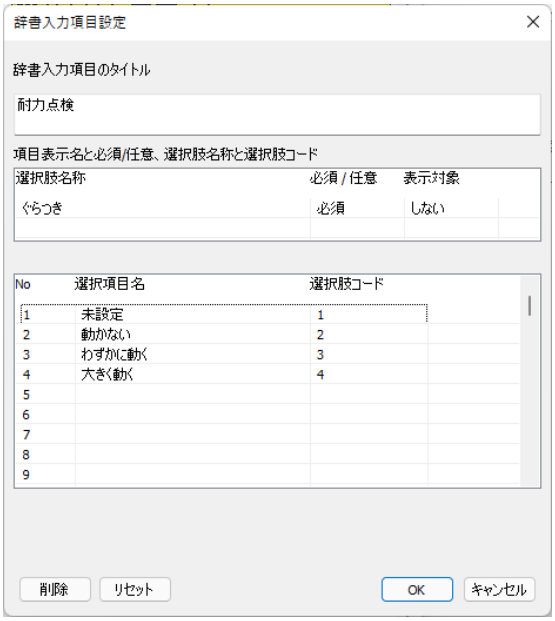
[キャンセル]し、左上のアイコンメニューもしくは アイコンからファイルを開いてください。

③ 調査項目を設定するには、[▼追加]を押すと、下図のように入力方式を選択するダイアログが開きます。

入力方式	
択一選択項目	択一の選択肢(1項目＝1行)
辞書入力項目	択一の選択肢(プルダウンリストを利用)
複数選択項目	複数選択可の選択肢
文字入力項目	文字入力フォーム
数値入力項目	数値入力フォーム(整数・長整数・実数)
日付入力項目	日付・時刻入力フォーム(日付時刻・日付・時刻)
色入力項目	カラーパレットからの色選択(択一)フォーム
文字入力項目 R	関連資料のファイル(ファイルパス)を登録
個別写真フィールド項目	1項目あたり1ファイルの写真・画像を登録 もしくは、この項目から撮影した写真を登録 (※ファイルパスが登録されます)

④ 入力方式を選択すると、下図のように入力項目を設定するダイアログが開きますので、選択肢を設定してください。

▼例:辞書入力項目



タイトルを入れ、必須入力の項目として設定します。

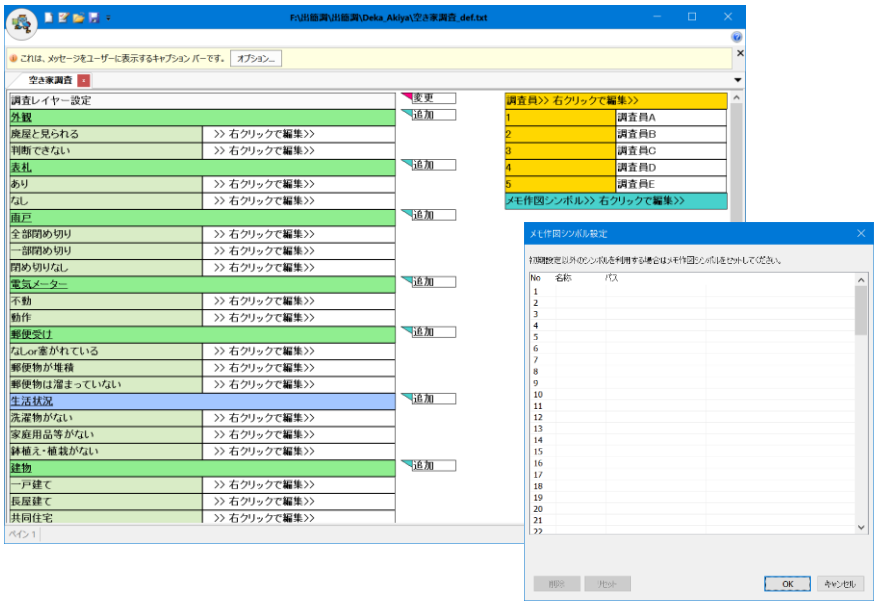
この入力方式の選択肢はコードが必要ですが、選択肢を入力すると、自動で附番されます。

手入力で変更することも可能です。

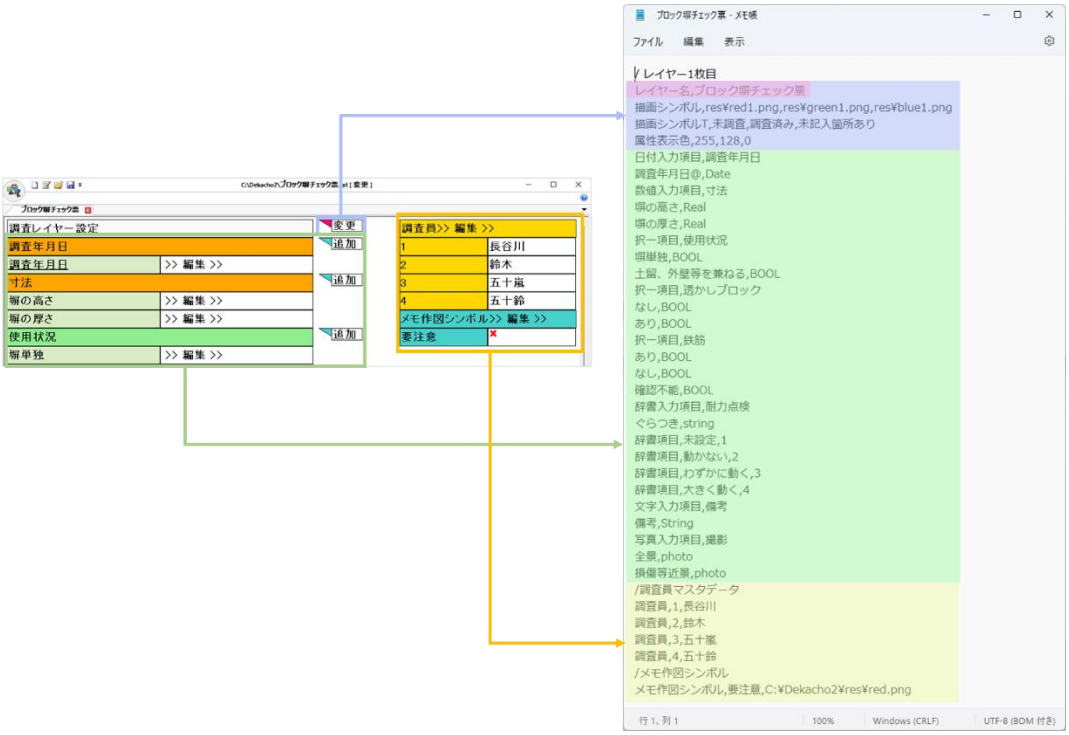
基本の設定	
項目タイトル	項目のタイトル
必須・任意	調査時に入力していない場合、「必須」にすることで警告メッセージを表示します
表示対象	地図上でこの項目に入力された文字を表示させたい場合に使用します ※文字入力項目、辞書入力項目のみ
調査項目	選択肢／入力フォームの項目名です

※入力方式によっては、上記以外の設定があります。

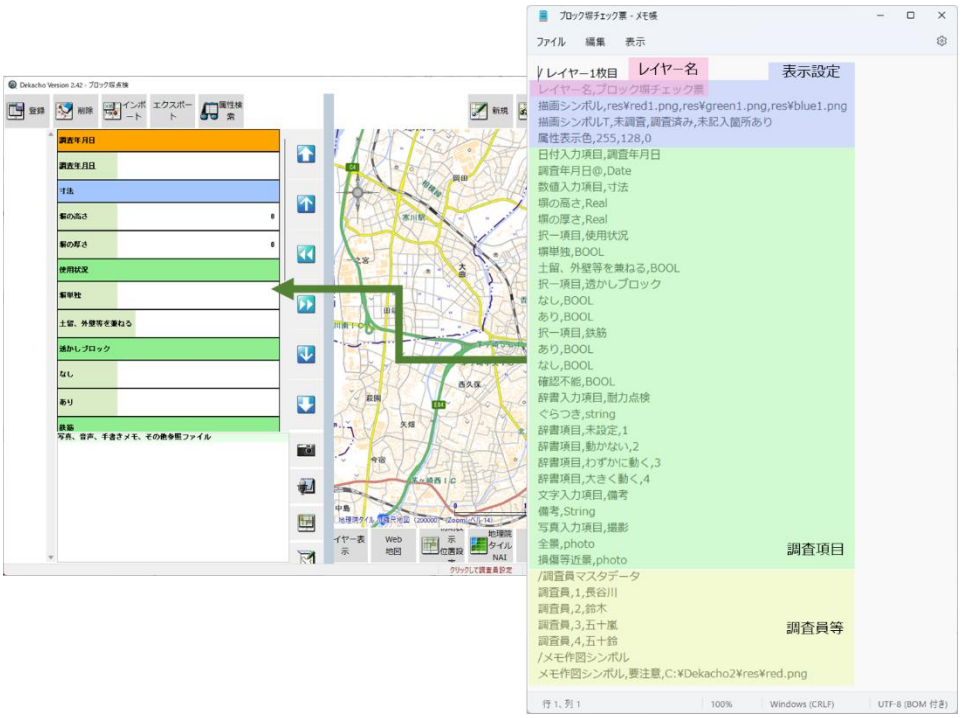
⑤ 同じ要領で調査項目・調査員リスト等を作成します。
※メモ作図シンボルの設定はデフォルトが登録されているため、必須ではありません。
設定する場合は、実際に出簡調を動作する環境でのファイルパスを入力してください。



⑥ すべての調査項目を設定したら、左上のアイコンから「名前を付けて保存」もしくは「上書き保存」で出簡調設定ファイル(*.txt)に保存します。
このファイルは以下のような内容になっています。



※テキストファイルについての詳細は『3.3.定義ファイルの解説』をご参照ください。
以上で、調査票の作成は終了です。出簡調では以下のように表示されます。



3.3. 定義ファイルの解説

設定した内容等の確認を行う場合や、定義ファイルの内容についてはこのセクションをご参照ください。

3.3.1. レイヤー情報の設定方法

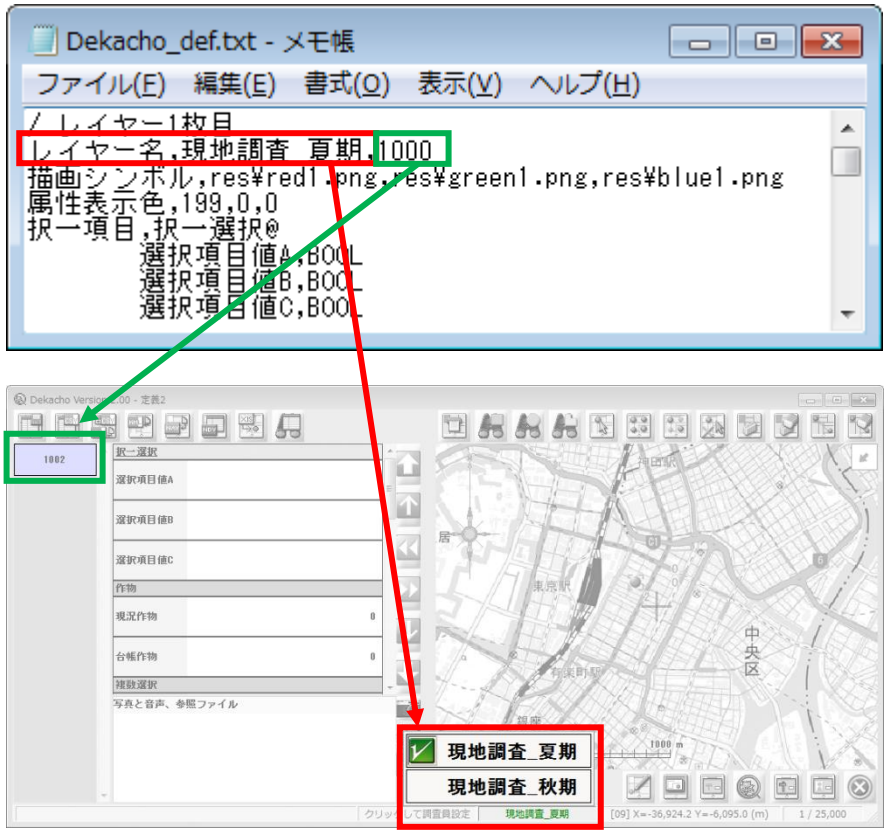
調査項目を管理するレイヤー情報を設定します。
調査名等をレイヤー名とすると調査項目の切り替えやデータ管理に便利です。

<u>記述方法</u>

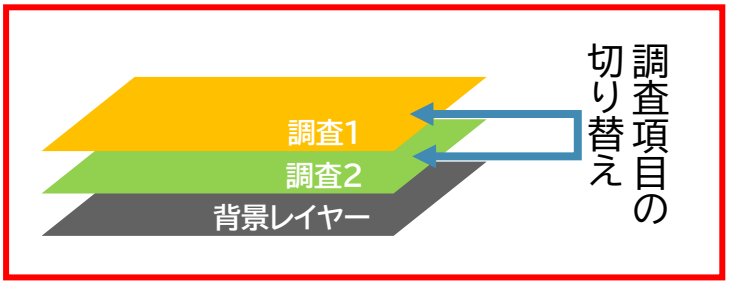
記述例: レイヤー名,現地調査_夏期,100000

記述内容	詳細
レイヤー名	レイヤー名を指定するキーワード(固定文字列)
現地調査_夏期	レイヤー名称 (全角 15 文字以内を推奨(全角 16 文字以上は見切れる))
100000	UID オフセット値 (新規プロジェクト生成ツールでの指定値と合算される) ※省略可能(記述は「レイヤー名,現地調査_夏期,」となる)

※レイヤー情報を記述しない場合はデフォルトの名称(Survey_1)となります。



『出簡調』では、複数の調査を1つのプロジェクトで管理することができます。レイヤーを切り替えることで、調査項目を切り替えます。レイヤー情報は、1つの調査につき1つ記述します。



レイヤー情報の設定1つにつき、1枚のレイヤーが作成されます。
同じ区域の調査で異なる項目の調査を行う場合にも1つのプロジェクトで管理することができます。

3.3.2. 描画シンボルの設定方法

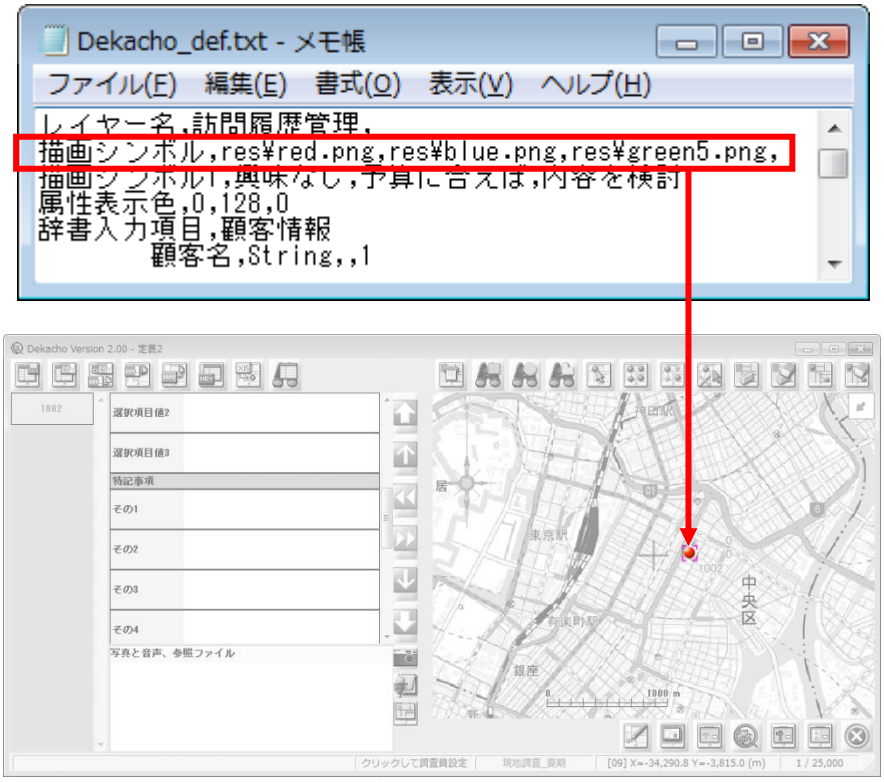
調査対象物の位置を地図上に表現するためのシンボルを設定します。
シンボルは調査対象物に登録された調査結果の状態によって変化させることができます。

記述方法

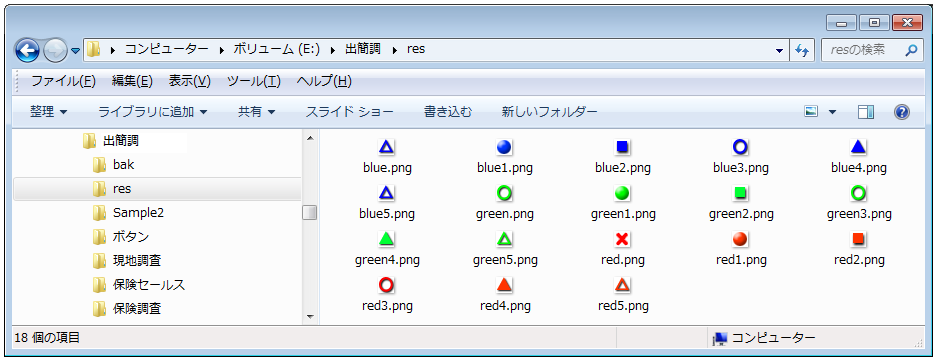
記述例： 描画シンボル,res¥red1.png,res¥green1.png,res¥blue1.png

記述内容	詳細
描画シンボル	描画シンボルを指定するキーワード（固定文字列）
res¥red1.png	未調査地点(※)のシンボルに使用する画像ファイル名 ※:辞書入力項目を描画キーに設定している場合は、辞書の 1 番目の項目
res¥green1.png	調査済み地点(※)のシンボルに使用する画像ファイル名 ※:辞書入力項目を描画キーに設定している場合は、辞書の 2 番目の項目
res¥blue1.png	調査済み地点（属性入力不十分）(※)のシンボルに使用する画像ファイル名 ※:辞書入力項目を描画キーに設定している場合は、辞書の 3 番目の項目

※凡例や描画キーの設定（『3.3.5.2.択一選択（辞書引き）』）をしない場合は、デフォルトの描画キー（未調査、調査済、調査済未記入箇所あり）で、ここで設定したシンボルを表示します。



※『出簡調』インストールフォルダ内のパス名で画像を切り替えます。



3.3.3. 凡例の設定方法

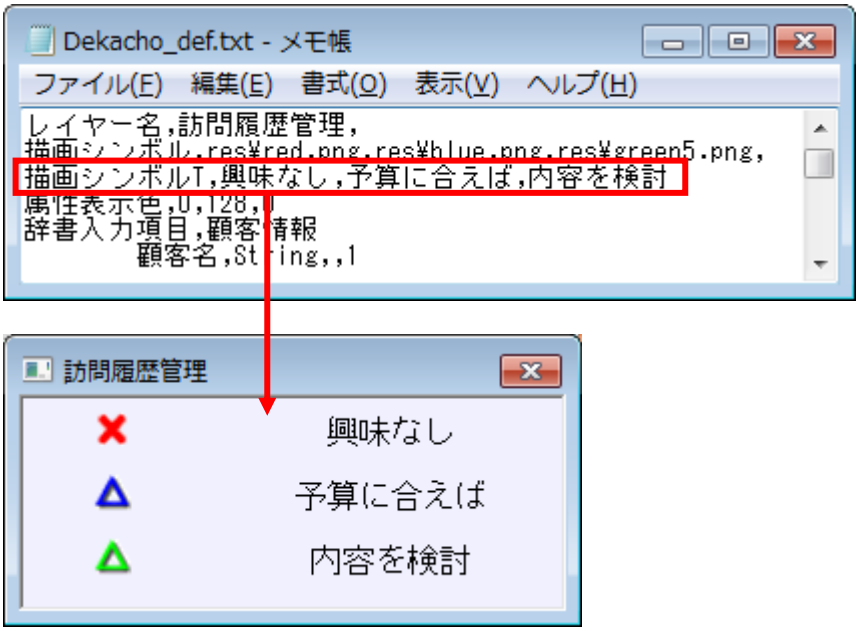
『3.3.2.描画シンボルの設定方法』で設定した描画シンボルの凡例を設定します。

記述方法

記述例: 描画シンボル T,興味なし,予算にあえば,内容を検討

記述内容	詳細
描画シンボル T	凡例を設定することを定義するキーワード(固定文字列)
興味なし	描画シンボルの 1 番目で定義したシンボルのキャプション
予算にあえば	描画シンボルの 2 番目で定義したシンボルのキャプション
内容を検討	描画シンボルの 3 番目で定義したシンボルのキャプション

※凡例を設定しない場合は、デフォルトの凡例(未調査、調査済、調査済未記入箇所あり)となります。



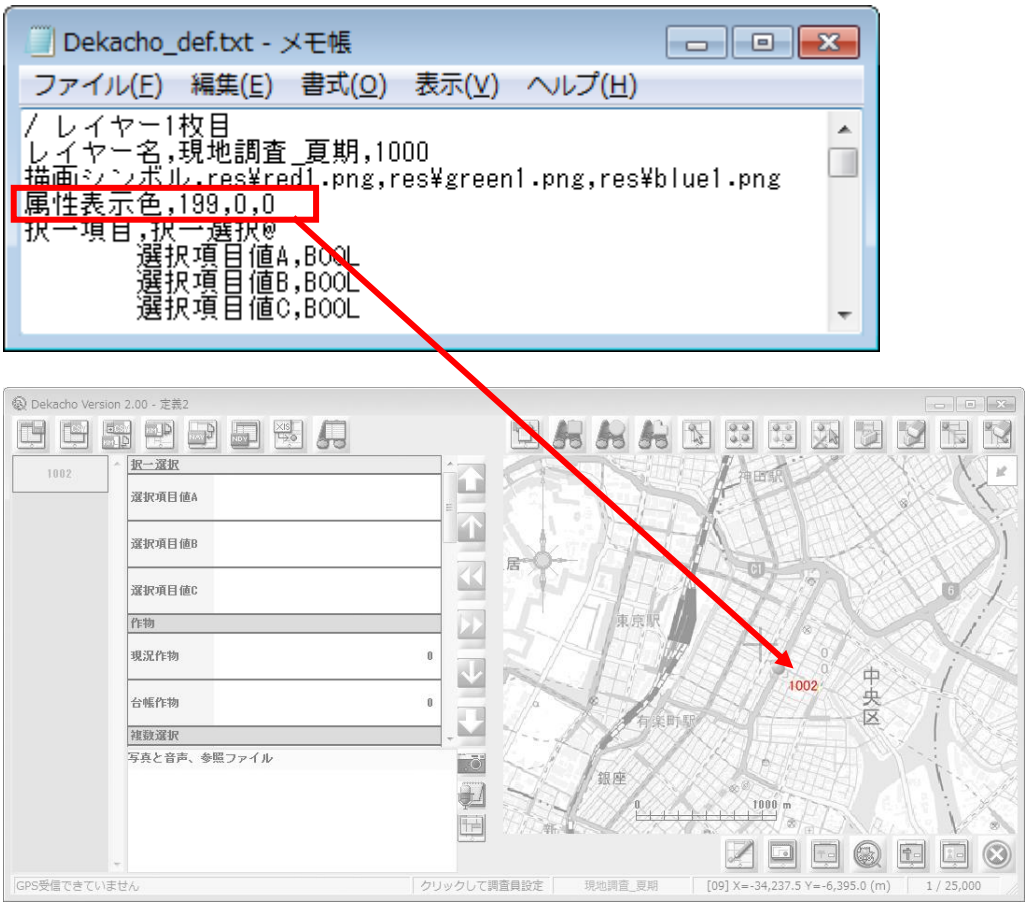
3.3.4. 属性表示色の設定方法

調査対象物の情報を地図上に表示する場合の表示色を設定します。

記述方法

記述例: 属性表示色,255,0,0

記述内容	詳細
属性表示色	属性表示色を指定するキーワード(固定文字列)
255	属性表示色の RGB の R 値(0~255)
0	属性表示色の RGB の G 値(0~255)
0	属性表示色の RGB の B 値(0~255)



3.3.5. 調査項目の設定方法

調査項目、選択肢は、以下の設定が可能です(設定した調査項目または選択肢に調査結果が保存されます)。

選択方法、入力	選択肢の設定方法	型の定義
択一選択	1 項目=1 行	BOOL 型のみ
択一選択	辞書引き	文字型のみ
複数選択	1 項目=1 行	BOOL 型のみ
文字入力	-	文字型のみ
数値入力(整数型、長整数型、実数型)	-	整数型、長整数型、実数型
日付・時刻入力	-	日付/時刻型
色入力	-	カラー型

使用できるデータ型

入力文字列	型名
Integer	整数型
LongInteger	長整数型
Real	実数型
String	文字型
Color	カラー型
DateTime	日付時刻型
Date	日付型
Time	時刻型
BOOL	ブール型

必須項目の指定

調査項目名の末尾に「@」を付与すると、当該調査項目を入力必須項目に設定することができます。生成される調査項目名からは「@」は除かれます。

■ 必須項目の指定ができる入力方法
- 択一項目
- 複数選択項目

※この場合、選択肢には「@」不要

■ 必須項目の指定ができない入力方法
(選択肢、入力欄単位で「@」を付与することで設定できます)
- 辞書入力項目
- 文字入力項目
- 日付入力項目
- 色入力項目
- 文字入力項目 R
- 写真入力項目

3.3.5.1. 択一選択（1 項目=1行）

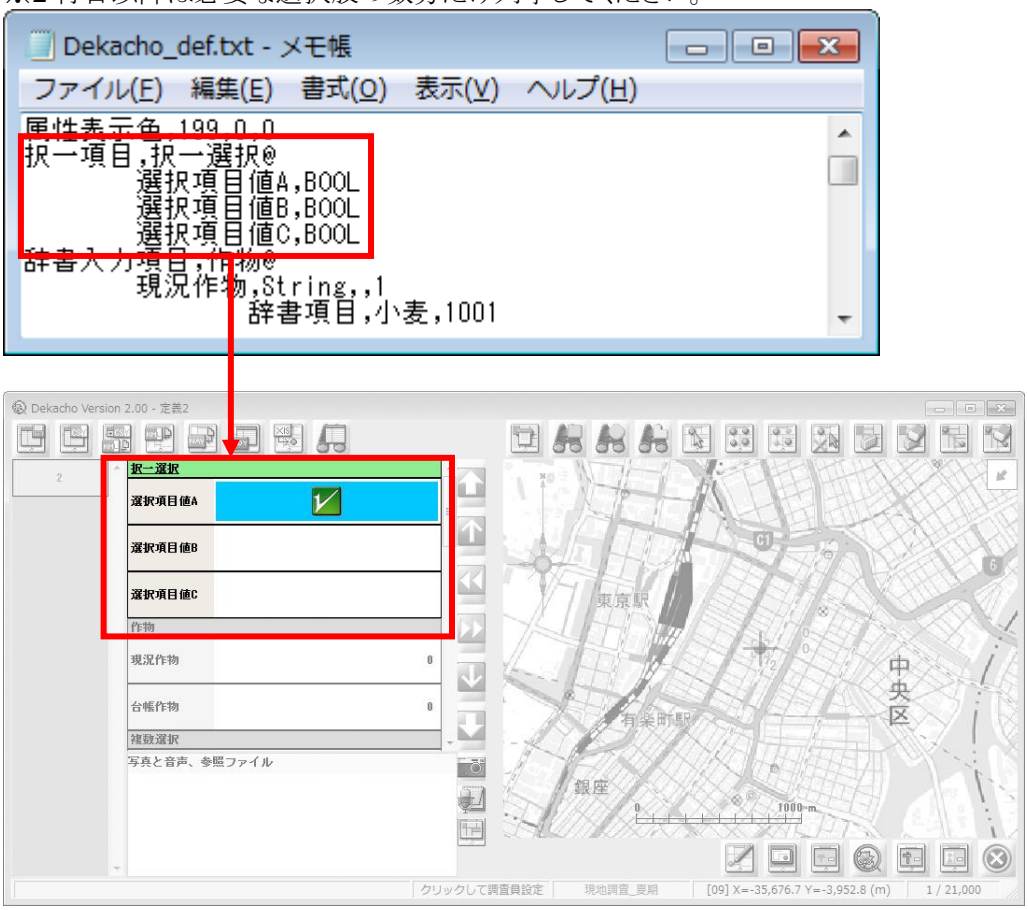
択一選択（1項目=1行）は、複数の選択肢のうち1つのみを選択することができます。選択肢1つにつき1行作成されます。
調査結果は、選択肢にチェックの ON/OFF の状態が保存されます。

記述方法

記述例： 択一項目,択一選択
選択項目値 A,BOOL
選択項目値 B,BOOL
選択項目値 C,BOOL

記述内容	行	詳細
択一項目	1 行目	択一選択項目（1 項目 1 フィールド）のキーワード（固定文字列）
択一選択	1 行目	択一選択項目のタイトル
選択項目 A	2 行目以降	選択項目名
BOOL	2 行目以降	選択項目の型（必ず BOOL 型を指定してください）

※2 行目以降は必要な選択肢の数分だけ列挙してください。



3.3.5.2. 択一選択(辞書引き)

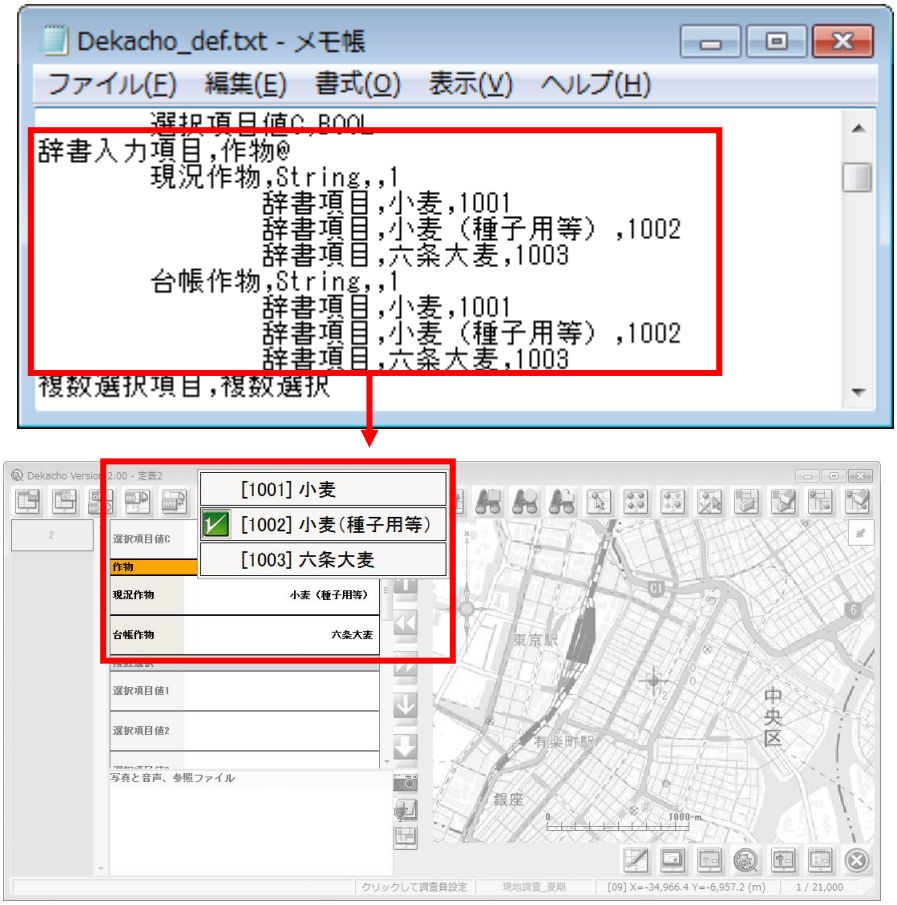
択一選択(辞書引き)は、複数の選択肢のうち1つのみを選択することができ、調査項目をタップすると選択肢が表示されます。調査項目1つにつき1行作成されます。入力結果を描画キーとして、調査対象物を描画することができます。
調査結果は、選択肢のコードまたは選択肢名称が保存されます。

記述方法

記述例: 辞書入力項目,作物@
作物名称,String
辞書項目,小麦,1001
辞書項目,小麦(種子用等),1002
・・・

記述内容	行	詳細
辞書入力項目	1 行目	択一選択項目(辞書引き)のキーワード(固定文字列)
作物@	1 行目	択一選択項目のタイトル ※「@」は必須項目の場合に末尾に入力してください。
作物名称	2 行目	項目表示名
String	2 行目	項目表示名の型(String を指定してください)
辞書項目	3 行目以降	選択肢コードテーブルのキーワード(固定文字列)
小麦	3 行目以降	選択肢名称
1001	3 行目以降	選択肢コード

※3 行目以降は必要な選択肢の数分だけ列挙してください。
※コードは整数型(-2147483648～+2147483647)の範囲で設定してください。
※「辞書項目」を「辞書項目 R」と設定することで、描画キーに設定することができます。
ただし、複数の辞書入力項目で「辞書項目 R」を設定した場合の動作は保障できません。



3.3.5.3. 複数選択（1 項目=1 行）

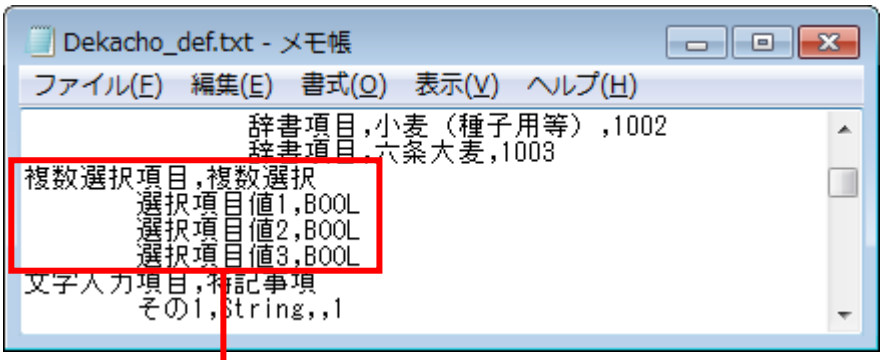
複数選択項目（1 項目=1 行）は、複数の選択肢を選択することができます。選択肢1つにつき1行作成されます。
調査結果は、選択肢にチェックの ON/OFF の状態が保存されます。

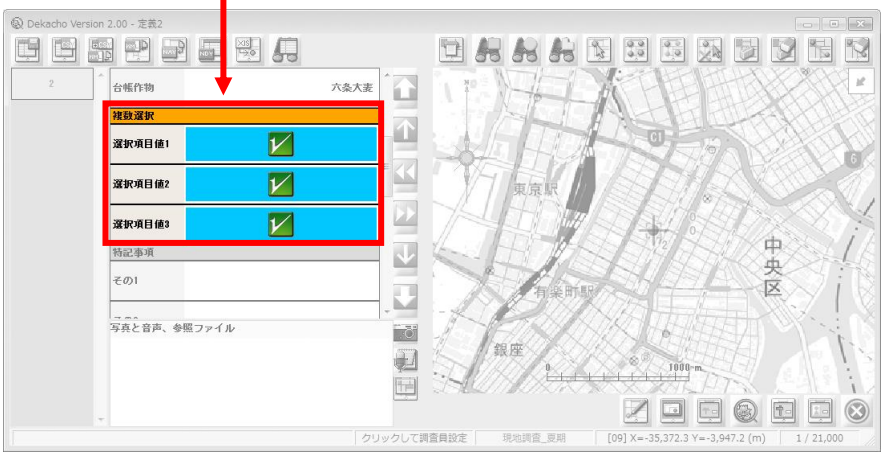
<u>記述方法</u>

記述例： 複数選択項目,複数選択
選択項目値 A,BOOL
選択項目値 B,BOOL
選択項目値 C,BOOL

記述内容	行	詳細
複数選択項目	1 行目	複数選択項目のキーワード（固定文字列）
択一選択	1 行目	複数選択項目のタイトル
選択項目値 A	2 行目以降	選択項目名
BOOL	2 行目以降	選択項目の型（必ず BOOL 型を指定してください）

※2 行目以降は必要な選択肢の数分だけ列挙してください。





3.3.5.4. 文字

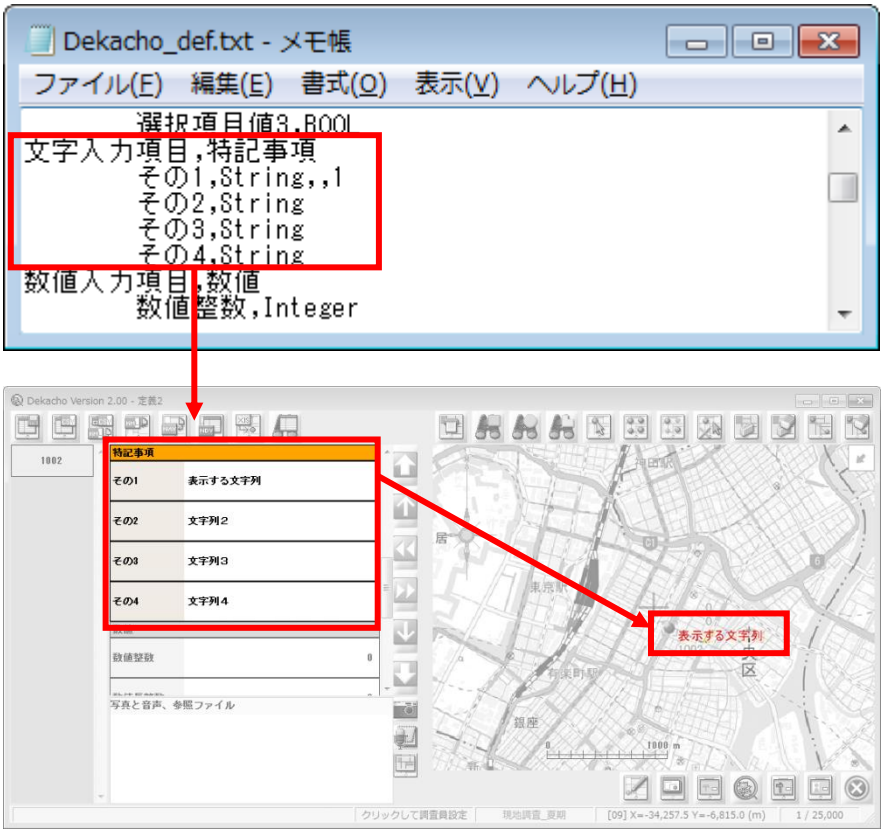
文字入力項目は、文字入力を行うことができます。入力結果を地図上に表示することが可能です。

記述方法

記述例： 文字入力項目,特記事項
その 1,String,▲,1
その 2,String
・・・

記述内容	行	詳細
文字入力項目	1 行目	文字入力項目のキーワード（固定文字列）
特記事項	1 行目	文字入力項目のタイトル
その 1	2 行目以降	項目名
String	2 行目以降	項目の型（必ず String 型を指定してください）
▲(▲は入力なし)	2 行目以降	未使用
1	2 行目以降	「1」を指定することで、地図上の画面表示で UID に加えて表示対象となります。

※2 行目以降は必要な入力項目の数分だけ列挙してください。



3.3.5.5. 数値（整数、長整数、実数）

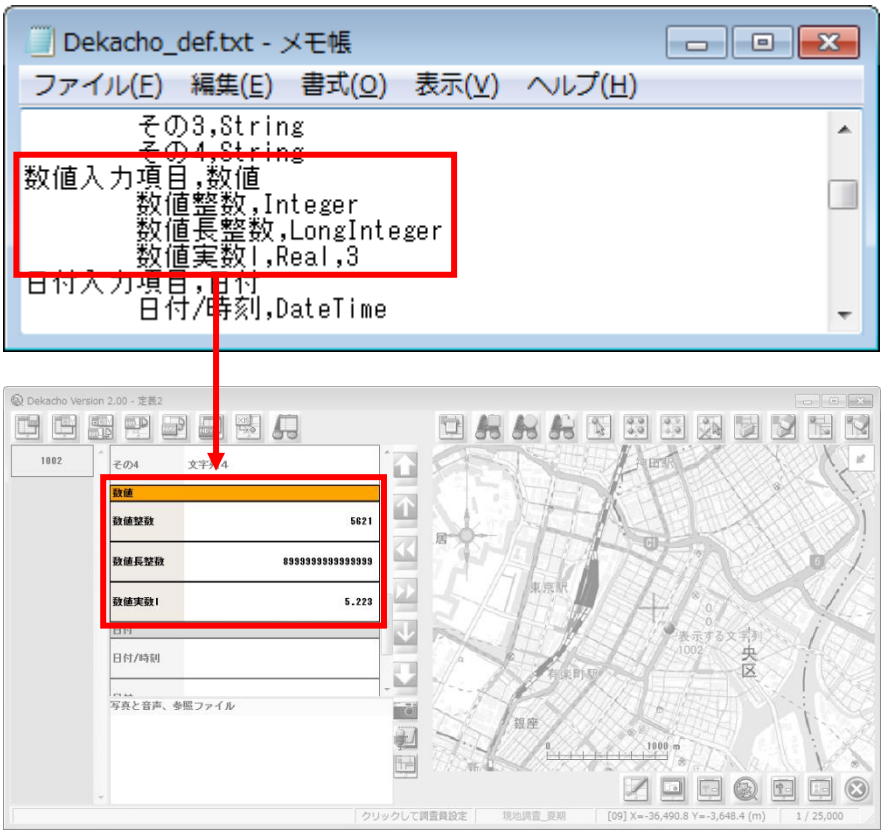
数値入力項目は、整数、長整数、実数を入力することができます。入力結果を地図上に表示することが可能です。

記述方法

記述例： 数値入力項目,個別入力項目
数値整数,Integer
数値長整数,LongInteger
数値実数,Real, 3,1

記述内容	行	詳細
数値入力項目	1 行目	数値入力項目のキーワード（固定文字列） ※「文字入力項目」で代用可能です。
個別入力項目	1 行目	数値入力項目のタイトル
数値整数	2 行目以降	数値入力項目名
Integer	2 行目以降	数値入力項目の型 （Integer、LongInteger、Real から指定してください）
3	2 行目以降	数値入力項目の型が「Real」の場合、少数桁数を指定してください。
1	2 行目以降	「1」を指定することで、地図上の画面表示で UID に加えて表示対象となります。

※2 行目以降は必要な選択肢の数分だけ列挙してください。



3.3.5.6. 日付・時刻

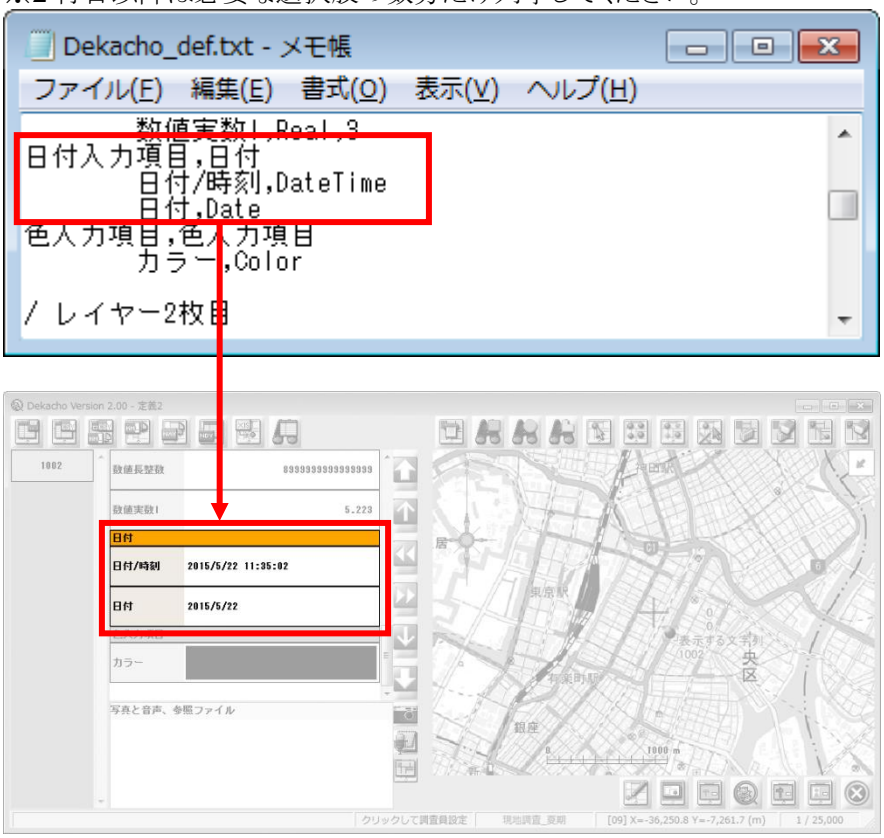
日付入力項目は、日付、日付時刻、時刻を入力することができます。
調査項目をタップすると、カレンダーが表示され入力補助を行います。

記述方法

記述例： 日付入力項目,個別入力項目
日付/時刻,DateTime
日付,Date

記述内容	行	詳細
日付入力項目	1 行目	日付入力項目のキーワード（固定文字列） ※「文字入力項目」で代用可能です。
個別入力項目	1 行目	日付入力項目のタイトル
日付/時刻	2 行目以降	日付入力項目名
DateTime	2 行目以降	データ型 （DateTime、Date、Time から指定してください）

※2 行目以降は必要な選択肢の数分だけ列挙してください。



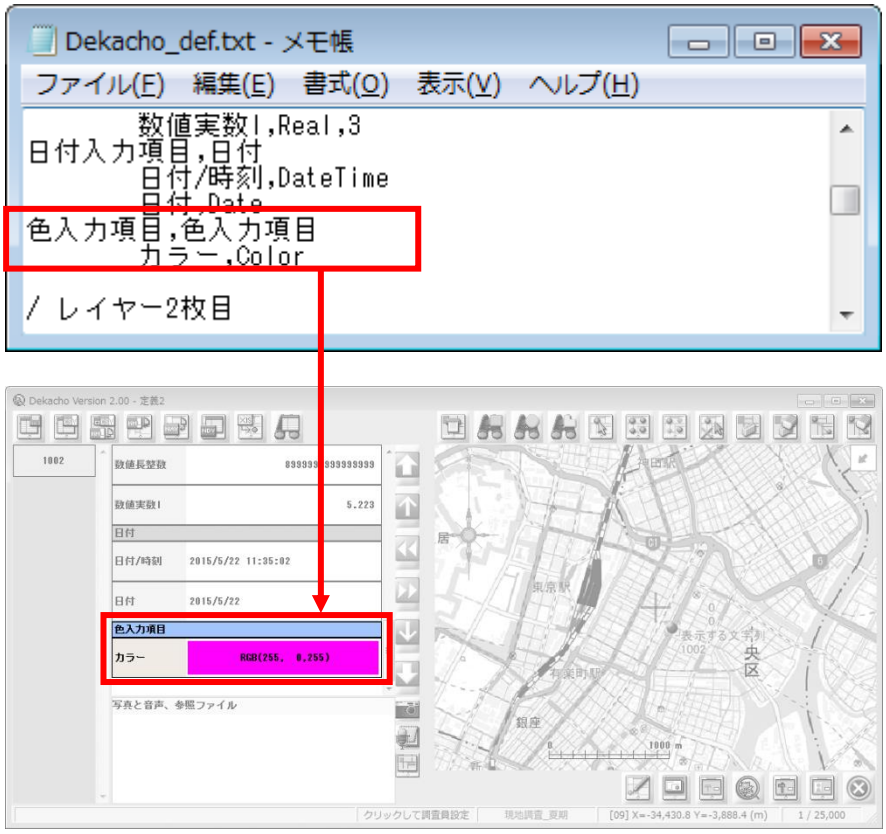
3.3.5.7. 色

色入力項目は色を入力することができます。
調査項目をタップするとカラーパレットが表示され、入力補助を行います。

記述方法

記述例： 色入力項目,個別入力項目
カラー,Color

記述内容	行	詳細
色入力項目	1 行目	色入力項目のキーワード（固定文字列） ※「文字入力項目」で代用可能です。
個別入力項目	1 行目	色入力項目のタイトル
カラー	2 行目以降	色入力項目名
Color	2 行目以降	色入力項目の型 （必ず Color を指定してください）



3.3.5.8. リレーション

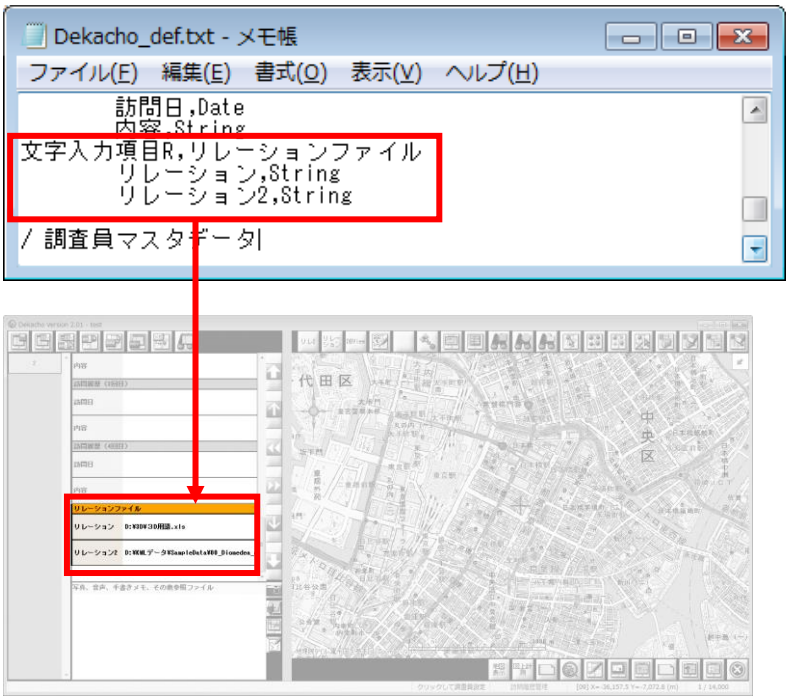
パス名を記入したフィールドをリレーションフィールドとして設定します。
リレーションフィールドでは、ファイルパスから直接他のアプリケーションを起動し、ファイルを開くことができます。

記述方法

記述例： 文字入力項目 R,リレーションファイル
その 1,String,
その 2,String
・・・

記述内容	行	詳細
文字入力項目 R	1 行目	リレーション項目のキーワード（固定文字列）
特記事項	1 行目	リレーション入力項目のタイトル
その 1	2 行目以降	項目名
String	2 行目以降	項目の型（必ず String 型を指定してください）

※2 行目以降は必要な入力項目の数分だけ列挙してください。



※ここで、入力したリレーションファイルを起動する場合は、DoRelation コマンドを利用してください。

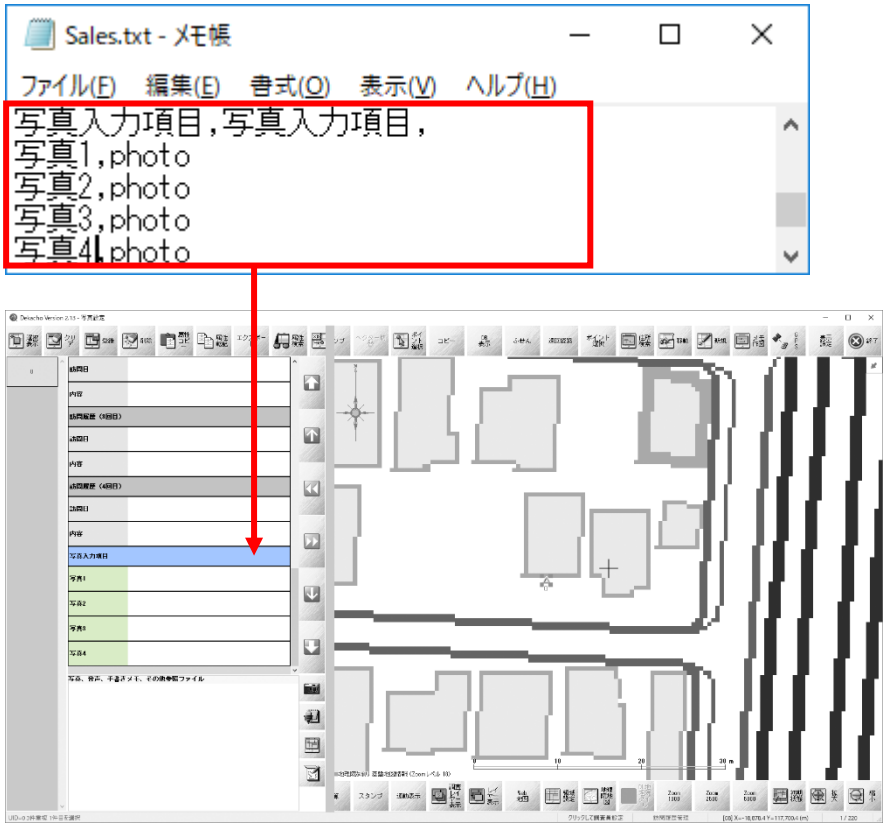
3.3.5.9. 個別写真（リレーション）

写真を個別に登録するフィールドを設定します。

記述方法

記述例： 写真入力項目,写真入力項目その 1,
写真 1,photo

記述内容	詳細
写真入力項目	個別写真フィールドを指定するキーワード（固定文字列）
写真入力項目その1	ヘッダー名（凡例名）
写真 1	フィールド名
photo	キーワード



※PC-MAPPING 上では、各フィールドが、「文字型」で、メモ欄に「@PHOTO@」が設定されています。
また、「リレーション」チェックボックスが On で設定されます。

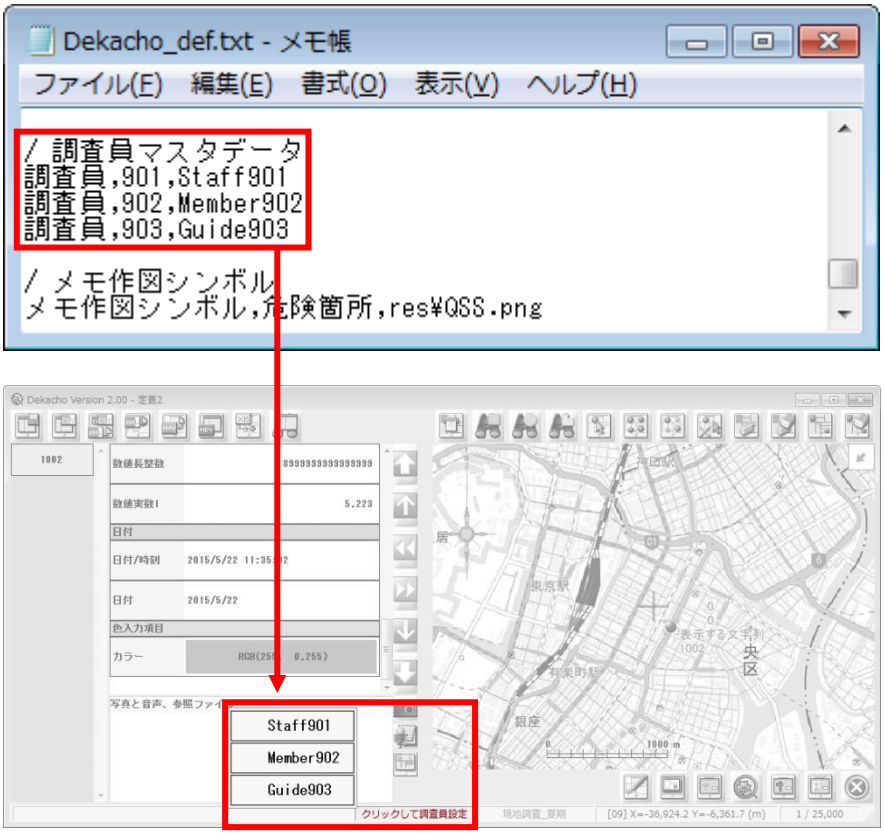
3.3.6. 調査員情報の設定方法

調査員リストを登録します。

記述方法

記述例: 調査員,901,Staff901

記述内容	詳細
調査員	調査員情報を指定するキーワード(固定文字列)
901	調査員コード
Staff901	調査員名



3.3.7. メモ作図シンボルの設定方法

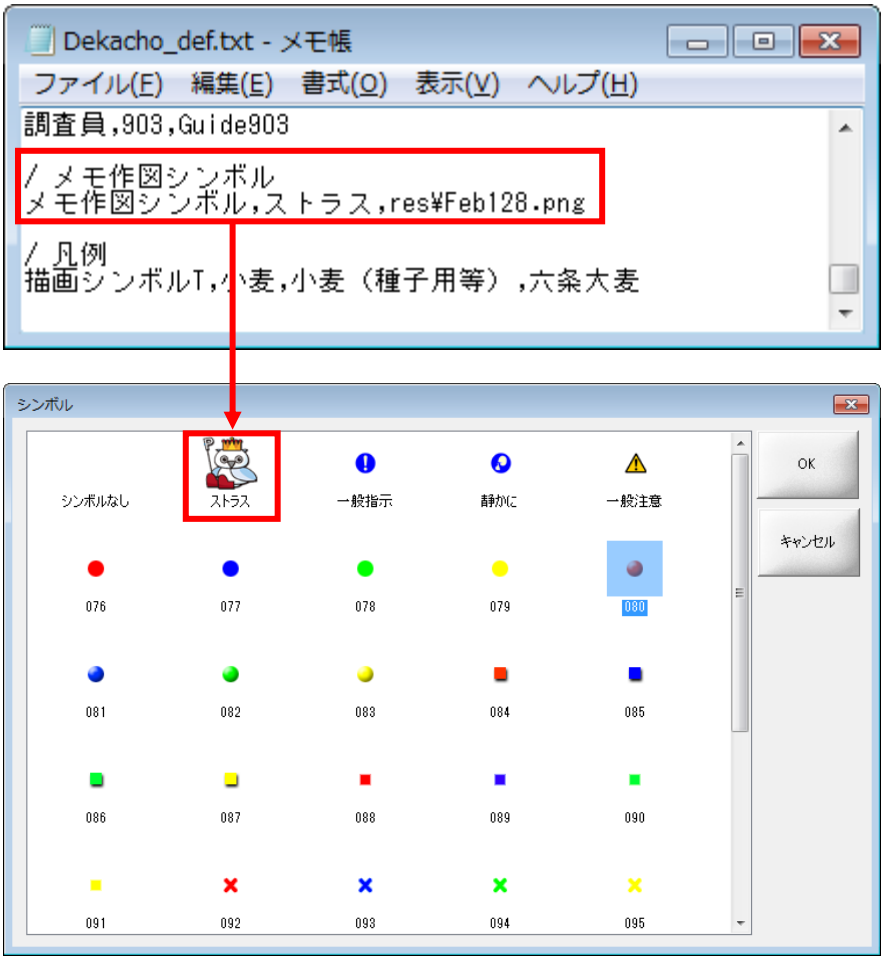
メモ作図のポイントに、独自のシンボルを追加します。
デフォルトでも登録されています。任意のシンボルを使用したい場合に追加してください。

記述方法

記述例： メモ作図シンボル,ストラス,res¥Feb128.png

記述内容	詳細
メモ作図シンボル	メモ作図シンボルを指定するキーワード（固定文字列）
ストラス	シンボルのキャプション（凡例名）
res¥Feb128.png	シンボルの画像ファイル名

※メモ作図シンボルは、プロジェクトに対して追加されます。



4. 調査用プロジェクトを作成する

『新規プロジェクト生成ツール』は『出簡調』で使用する調査用プロジェクトを生成するためのツールです。
『新規プロジェクト生成ツール』では以下の情報を元にプロジェクトの生成を行います。

- テキストデータによる調査項目、レイヤー等の定義ファイル
- 経緯度座標、直角座標系の座標系情報
- KML ファイルや地理院地図などによるデータ領域情報

4.1. 『新規プロジェクト生成ツール』の起動

『3.2.定義ファイルの作成』で作成した出簡調設定ファイル(定義ファイル)を元に、プロジェクトデータを生成します。
『新規プロジェクト生成ツール』では、調査項目の定義ファイルを指定するほか、座標系や背景地図の設定を行います。
※『出簡調』用に作成した既存プロジェクトを使用する場合は、この操作は不要です。

① 『2.1 インストール』で作成したショートカットを使用して、『新規プロジェクト生成ツール』を起動します。

② 『新規プロジェクト生成ツール』が起動します。

座標系①

生成するプロジェクトの座標系を設定します。設定できるのは経緯度座標系及び直角座標系(第 1 系から第 19 系まで)です。

編集された定義ファイル(テキスト形式) ②

『3.2.定義ファイルの作成』で作成した調査項目等を記述した出簡調設定ファイル(*.txt)を指定します。

プロジェクトファイルの保存先③

新規プロジェクト生成ツールで生成したプロジェクトファイル(*.pcm)を保存するパス、ファイル名を指定します。

データ領域④

プロジェクトの初期のデータ領域を指定します。既存の KML、KMZ ファイルを使用して領域を指定する場合には「データ領域指定 KML ファイル」を選択します。データ領域を示す URL によって領域を指定する場合には「データ領域指定 URL」を選択します。

1. **データ領域指定 KML ファイル**

   プロジェクトの初期のデータ領域を指定するための KML、KMZ ファイルを指定します。

2. **データ領域指定 URL**

   データ領域を指定するための URL を指定します。URL には地理院地図のほかに GoogleMap の URL も指定することができます。

   【地理院地図サイト参照】ボタン

   このボタンを押すことにより地理院地図のサイトを開くことができます。ここでデータ領域となる場所に移動して URL をクリップボード経由で「データ領域指定 URL」に貼り付けることによりデータ領域を指定することができます。

任意の座標の CAD データ・画像ファイルをベースにする⑫

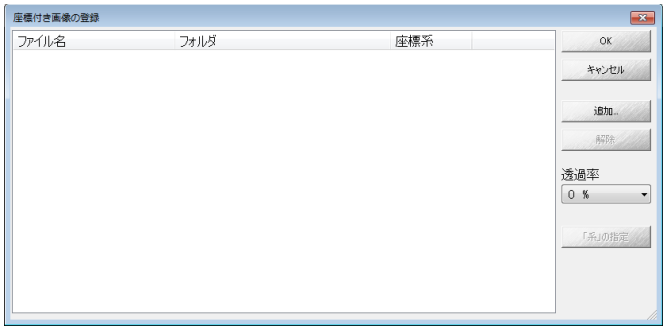
任意座標の CAD データ(DXF、SXF)や画像データ(Tiff、JPEG、PNG)を背景に指定することができます。

該当領域の地理院地図を予めダウンロードしておく⑤

データ領域で指定した該当領域の地理院地図を予めダウンロードしておき生成するプロジェクトに設定する場合にはチェックボックスを ON にします。
これにより該当領域の地理院地図のデータをローカルディスクに保存し、ネットワーク環境がない場合においても背景地図を表示することができます。

他の座標付画像データ(GeoTiff 等)を登録する⑥

既存の座標付画像データを背景として使用する場合にチェックボックスを ON にします。
登録可能な画像ファイルは GeoTiff、PC-MAPPING NAI、ワールドファイル付画像ファイル(JPEG 等)などです。
画像の登録は【>>】ボタンをタップすると表示される[**座標付き画像の登録**]ダイアログボックスで行います。



背景に使用する座標付画像ファイルを登録します。

【追加】ボタン

リストに画像ファイルを登録します。

【解除】ボタン

リストに登録されている画像ファイルをリストから解除します。解除する画像ファイルを選択して【解除】をタップします。複数ファイルの選択も可能です。

「透過率」

画像の透過率を指定します。複数の画像ファイルを背景として使用する場合で画像同士が重なり合う場合などに使用します。

【「系」の指定】ボタン

ワールドファイル付画像ファイルを指定し、座標系を直角座標系でプロジェクトを構成する場合に直角座標系の系(第 1 系から第 19 系までのいずれか)を指定します。

【OK】ボタン
登録を確定してダイアログボックスを閉じます。
【キャンセル】ボタン
登録を破棄してダイアログボックスを閉じます。

UID（調査対象物の通し番号）の開始番号⑦
UID（調査対象物の通し番号）に対して予め開始番号を指定しておく場合に値を指定します。例えば 1000 を指定した場合は 1001 から UID が付番されます。値を指定しなかった場合の開始番号は 1 からとなります。
プロジェクトを生成する際の UID の開始番号の指定はここで指定する場合とプロジェクトの定義ファイルで指定する場合の二通りの方法があります。
両方で値が指定された場合は合算された値が開始番号としてプロジェクトにセットされます。

起動時に開くプロジェクトに設定する⑧
生成したプロジェクトを『出簡調』起動時のプロジェクト（調査用データ）とする場合にチェックボックスを ON にします。

該当領域の道路中心線タイルを予めダウンロードしておく⑨
データ領域で指定した該当領域の道路中心線タイルを予めダウンロードしておき生成するプロジェクトに設定する場合にはチェックボックスを ON にします。
これにより該当領域の道路中心線タイルのデータをローカルディスクに保存し、ネットワーク環境がない場合においても道路中心線タイルを表示することができます。

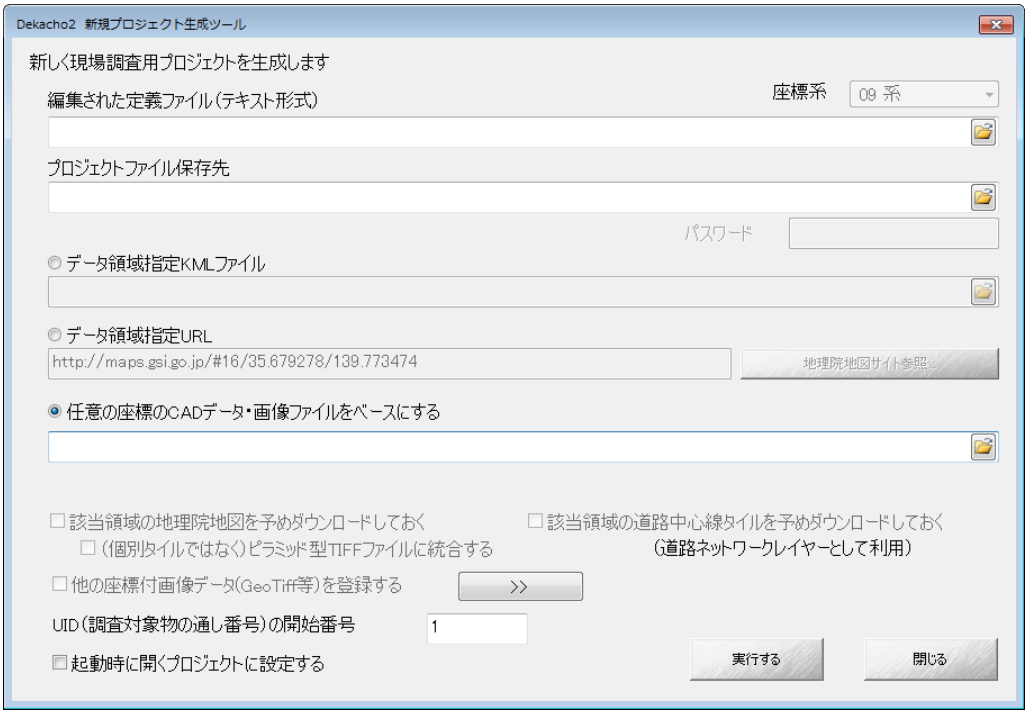
実行⑩
設定した内容に従い新規にプロジェクトを生成します。すでに同名のプロジェクトが存在する場合にはメッセージが表示されます。

閉じる⑪
新規プロジェクト生成ツールを終了します。

4.2. 『新規プロジェクト生成ツール』

『3.調査項目などを設定する』で作成した定義ファイルを元に、プロジェクトデータを生成します。
※『出簡調』用に作成した既存プロジェクトを使用する場合は、この操作は不要です。

① 『4.1.『新規プロジェクト生成ツール』の起動』に従い、『新規プロジェクト生成ツール』を起動します。

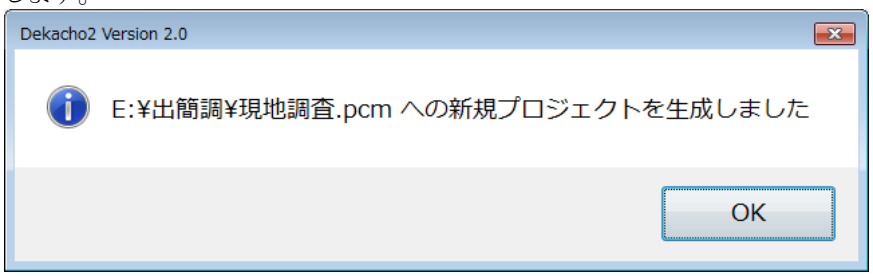


② 「編集された定義ファイル」に、『3.調査項目などを設定する』で作成した定義ファイルを指定してください。

③ 「座標系」に、作成するプロジェクトの座標系を指定してください。

④ プロジェクトの初期のデータ領域を「データ領域指定 KML ファイル」ラジオボタン、「データ領域指定 URL」ラジオボタンから選択してください。

⑤ 各チェックボックスは、『4.1.『新規プロジェクト生成ツール』の起動』を参照して、設定を行ってください。
設定後、【実行する】ボタンをタップすると新規プロジェクトを作成し、メッセージボックスを表示します。



メッセージボックスは【OK】ボタンをタップして閉じてください。

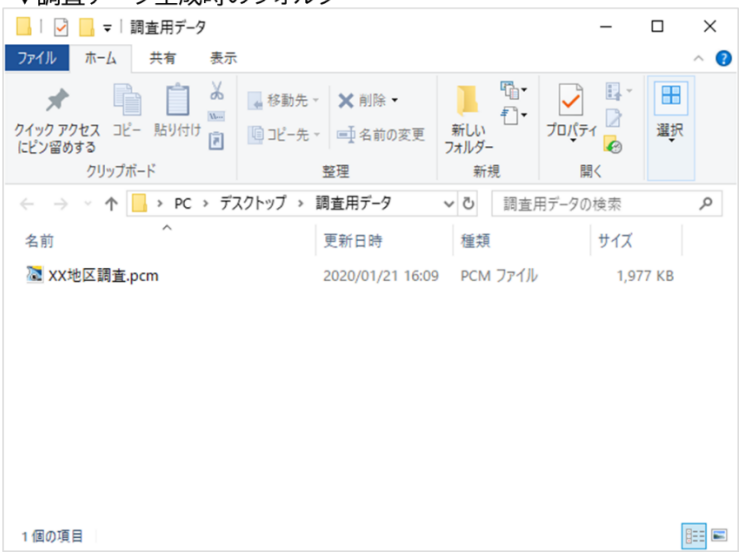
『新規プロジェクト生成ツール』は、【閉じる】ボタンで閉じてください。

4.3. 『出簡調』プロジェクトのフォルダ構成

『出簡調』で使用するプロジェクトのフォルダ構成です。

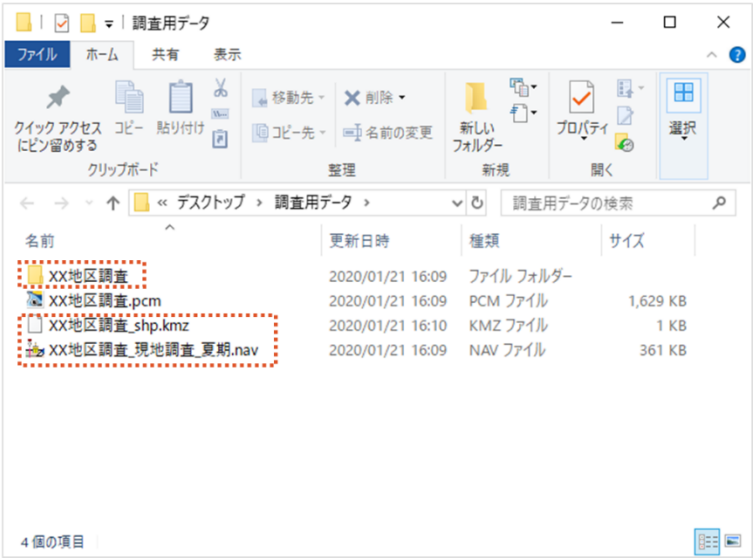
- 『出簡調』プロジェクト』生成時は、生成したプロジェクト(*.pcm)ファイルのみが格納されています。

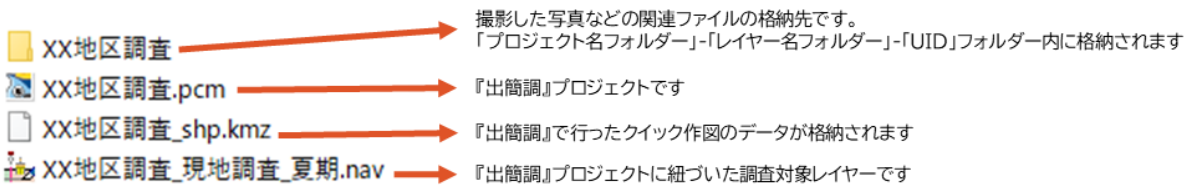
▼調査データ生成時のフォルダ



- 出簡調で入力、撮影等を行うと、同じ階層に調査用プロジェクトが蓄積されます。
  そのため、フォルダ単位で扱うことが重要です。

▼出簡調で入力・撮影等を行った状態のフォルダ





5. 『出簡調』の環境設定を行う

『管理ツール』は『出簡調』の環境設定を行うためのツールです。
この『管理ツール』では以下の設定を行うことができます。

- 『出簡調』で開くプロジェクトの指定
- アプリケーションのウィンドウの設定
- GPS 機器に関する設定
- カメラに関する設定
- 道路ネットワークデータ(数値地図(国土基本情報))のインポート

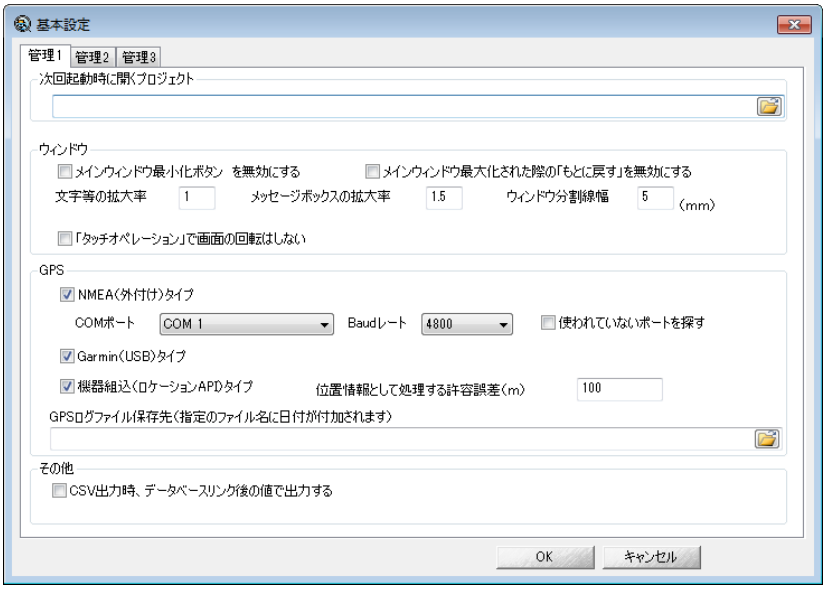
5.1. 『管理ツール』の起動

『管理ツール』の起動は、ショートカットから起動するほか、『出簡調』起動アイコンに起動オプションとして「-Kanri」を付けて起動することができます。
また、『出簡調』のメニューの「Kanri」コマンドでも起動することもできます。
『出簡調』の中から起動した場合、設定された情報の反映は即時に反映されるものと次回起動時に反映されるものとがあります。
起動オプションについては、『6.1.起動オプション』をご参照ください。
コマンドについては、『7.メニューをカスタマイズする』をご参照ください。

① 『2.1.インストール』で作成したショートカットを使用して、『管理ツール』を起動します。

Dekacho2 管理ツールをダブルタップします。

② 『管理ツール』が起動します。



各タブ共通ボタン

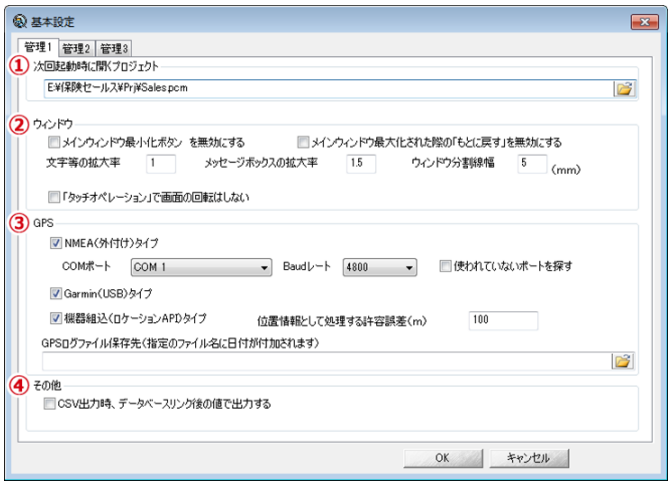
【OK】ボタン

設定した内容を適用します。設定した内容は『出簡調』を次回起動した際に反映されます。
『出簡調』の中から起動した場合は、設定項目により即時反映されるものと次回起動時に反映されるものとがあります。

【キャンセル】ボタン

変更された設定を破棄して管理ツールを終わります。

5.1.1. 「管理 1」パネル



次回起動時に開くプロジェクト①

『出簡調』起動時に読み込むプロジェクトファイルを指定します。
『出簡調』起動中にメニューから設定した場合には、次回起動時に指定したプロジェクトが読み込まれます。

ウィンドウ②

「メインウィンドウ最小化ボタンを無効にする」チェックボックス

ON の場合、『出簡調』のアプリケーションウィンドウの最小化ボタンを無効化します。
無効化するとアプリケーションウィンドウの最小化を抑制することができます。不用意に最小化したくないときなどに設定してください。
OFF の場合、最小化ボタンを有効化します。

「メインウィンドウ最大化された際の「もとに戻す」を無効にする」チェックボックス

ON の場合、『出簡調』のアプリケーションウィンドウの元に戻す(縮小)ボタンを無効化します。
無効化するとアプリケーションウィンドウの最大化からの元に戻す動作を抑制することができます。不用意に縮小したくないときなどに設定してください。
OFF の場合、元に戻す(縮小)ボタンを有効化します。

「文字等の拡大率」テキストボックス

メニューの文字や属性ペインの文字の拡大率を数値で設定してください。
ディスプレイの大きさ、解像度等に応じて 1～1.5 位の値を設定してください。
初期値は 1(Windows の規定値)です。

「メッセージボックスの拡大率」テキストボックス

『出簡調』で表示されるメッセージの文字の拡大率を数値で設定してください。
1 が Windows の規定値です。ディスプレイの大きさ、解像度等に応じて 1～1.5 位の値を設定してください。初期値は 1.5 です。

「ウィンドウ分割線幅」テキストボックス

地図ペインと属性ペインとを分割する線の幅をミリ単位で設定してください。
この分割線は地図ペインと属性ペインとの間にあり左右に移動することにより表示領域の割合を変更することができます。
この分割線の幅を太くすれば指でのタッチ操作でも簡単に移動することができます。初期値は 10mm です。

「「タッチオペレーション」で画面の回転はしない」チェックボックス

ON の場合、タッチオペレーション時の画面の回転を抑制します。
OFF の場合、タッチオペレーションによる回転を行うことができます。

GPS③

「NMEA(外付け)タイプ」チェックボックス

USB で接続するものや Bluetooth で接続するタイプの GPS 機器を接続して使用するときに ON にしてください。(HOLUX m-241 等)タブレット本体に内蔵されている GPS 機器でも、ロケーション API による制御でないタイプの機器の場合も ON にしてください(Panasonic TOUGHPAD 等)。

『出簡調』で GPS が機能していないと思われる場合で接続した GPS 機器が正常に機能しているかどうかの確認は各メーカーから提供されているアプリケーション等を使用して確認してください。

「COM ポート」プルダウン

GPS 機器が使用する COM ポートを選択します。手動で選択するか「使われていないポートを探す」チェックボックスを ON にして、ポートを選択します。Bluetooth で接続している場合においても COM ポートをエミュレートして接続するため COM ポートを選択してください。

どの COM ポートが使用可能かは Windows のデバイスマネージャー等で確認してください。

「Baud レート」プルダウン

COM ポートの通信速度を選択してください。通信速度がわからないときは 4800 から順に設定して『出簡調』で GPS が受信できるかどうかを確認してください。

「使われていないポートを探す」チェックボックス

GPS 機器がどの COM ポートを使用しているかわからないときに ON にしてください。ON の時、使われていない COM ポートを探しますが、機器構成等によっては時間がかかることがあります。

「Garmin(USB)タイプ」チェックボックス

Garmin(ガーミン)社の GPS 機器を USB で接続して使用するときに ON にしてください。

「機器組込(ロケーション API)タイプ」チェックボックス

タブレット本体にセンサーとして組み込まれたロケーション API の GPS 機器を使用するときに ON にしてください。

Windows のセンサーとして GPS 機器が認識されているかどうかの確認は Windows のデバイスマネージャーで行ってください。また、センサーが正常に機能しているかどうかの確認は Microsoft 社から提供されている Windows Driver Kit(WDK8)に含まれる Sensor Diagnostic Tool 等で行ってください。

「位置情報として処理する許容誤差(m)」テキストボックス

位置情報として処理を行う誤差範囲をメートル単位で指定してください。この値を超えた位置情報は処理されず無視されます。初期値は 100m です。

ロケーション API による位置情報の取得の場合には GPS 以外のセンサーによっても位置情報を取得されるため、場所、状況によっては誤差が大きくなるケースもあります。

「GPS ログファイル保存先(指定のファイル名に日付が付加されます)」テキストボックス

取得した位置情報を格納するログファイルの保存先のパス、ファイル名を指定してください。ログファイルは一日ごとに作成され指定したファイル名に日付を付加したファイル名として保存されます。

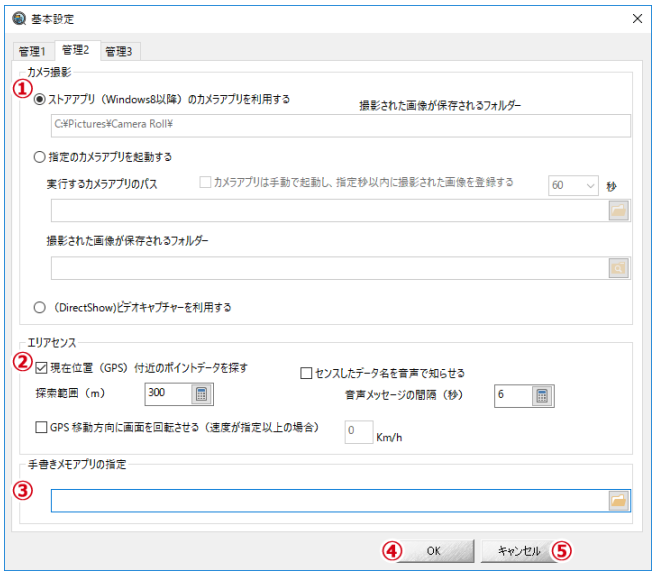
その他④

「CSV 出力時、データベースリンク後の値で出力する」チェックボックス

CSV ファイルとして出力する際に、辞書入力項目として設定された調査項目を選択肢コードではなく選択肢名称で出力する場合には ON にしてください。

選択肢コードのままで出力する場合には OFF にしてください。

5.1.2.「管理 2」パネル



<u>カメラ撮影①</u>

「ストアアプリ（Windows8 以降）のカメラアプリを利用する」ラジオボタン（推奨）

Windows10 で標準搭載されているストアアプリのカメラを利用して撮影を行う場合にはこちらを選択してください。

「撮影された画像が保存されるフォルダ」には、カメラアプリが指定するフォルダが自動で表示されます。

「指定のカメラアプリを起動する」ラジオボタン

各メーカーから提供されているカメラアプリケーションを利用して撮影を行う場合にはこちらを選択してください。

<u>「実行するカメラアプリのパス」テキストボックス</u>

各メーカーから提供されているカメラアプリケーションの実行ファイルのパスを指定してください。

例:DELL Webcam の場合　C:¥Program Files（x86）¥Dell Webcam¥Dell Webcam Central¥WebcamDell2.exe

<u>「カメラアプリは手動で起動し、指定秒以内に撮影された画像を登録する」チェックボックス</u>

ON の時、特段の処理は行わずに、「撮影された画像が保存されるフォルダ」で指定するフォルダに画像が追加されるのを待って、登録します。この時、登録する画像は、カメラボタンをタップした時間から指定した秒数さかのぼり、指定秒数以内に保存されたものです。タブレット等と連携するワイヤレスデジカメ等を想定しています。

<u>「撮影された画像が保存されるフォルダ」テキストボックス</u>

各メーカーから提供されているカメラアプリケーションが撮影したデータを格納するフォルダのパスを指定してください。

例:DELL Webcam の場合　C:¥Users¥Staff¥Documents¥Dell WebCam Central¥スナップ写真¥

「（DirectShow）ビデオキャプチャーを利用する」ラジオボタン

DirectShowAPI を使用した『出簡調』独自のカメラ機能を利用して撮影を行う場合にはこちらを選択してください。

※ドライバーにより、画像が乱れることがあります。この場合は他のカメラを選択してください。

エリアセンス②

「現在位置（GPS）付近のポイントデータを探す」チェックボックス

現在地付近のポイントが検索され、該当する最も近いポイントがステータスバーに表示されます。

「探索範囲（m）」テキストボックス

ポイントを探索する範囲を m 単位でテキストボックスに入力してください。

「センスしたデータ名を音声で知らせる」チェックボックス

最も近いポイントがステータスバーに表示されると同時に、音声で通知します。

「音声メッセージの間隔（秒）」テキストボックス

音声通知を読み上げる間隔を秒単位でテキストボックスに入力してください。

「GPS 移動方向に画面を回転させる（速度が指定以上の場合）」チェックボックス

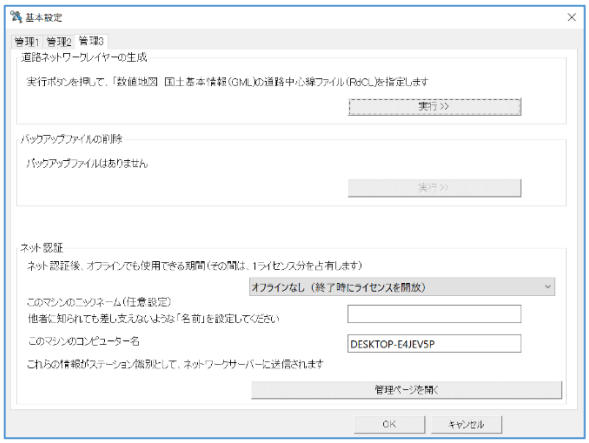
ON の場合、GPS で測位した1つ前の位置と現在の位置を比較し、その移動方向で地図を回転表示します。

ただし、移動速度がテキストボックスに指定した速度（Km/h）以上の場合に限定しており、移動速度が指定した速度以下の場合は回転しません。

手書きメモアプリの指定②

テキストボックスに指定したアプリケーションを、手書きメモ起動時のアプリケーションとして起動します。

5.1.3.「管理 3」パネル



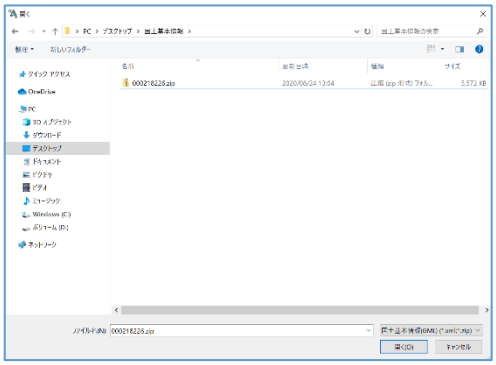
道路ネットワークレイヤーの生成

セールスマン巡回や距離計測を行うための道路ネットワークデータを生成します。
指定できる道路ネットワークデータは「数値地図 国土基本情報(GML)」の道路中心線ファイル(RdCL)です。

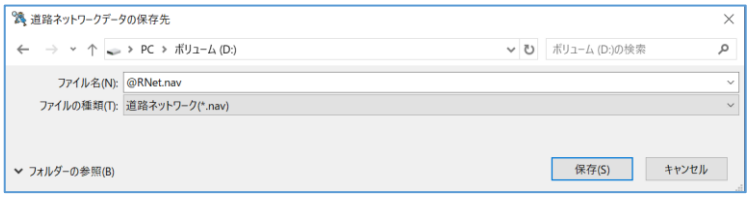
道路ネットワークデータの指定

1. **【実行】**ボタンをタップしてください。

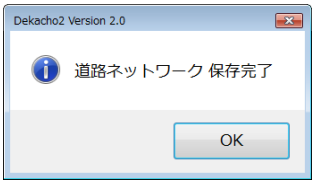
2. [**開く**]ダイアログボックスが表示されます。
国土基本情報(GML)の道路中心線ファイル(RdCL)を指定して**【開く】**ボタンをタップしてください。ZIP ファイルを直接指定することも可能です。



3. [**道路ネットワークデータの保存先**]ダイアログボックスが表示されます。
保存先を指定して**【保存】**ボタンをタップしてください。
道路ネットワークデータの保存先は、『出簡調』で起動するプロジェクトファイルと同じフォルダを指定します。また、ファイル名は「@RNet.nav」とします。



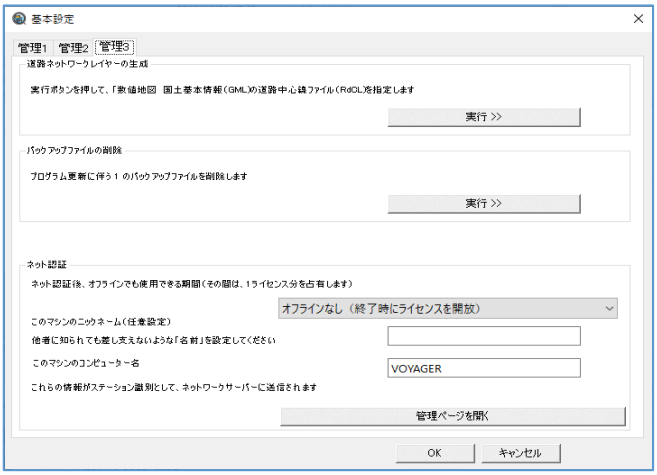
4. 生成した道路ネットワークレイヤーが指定されたフォルダに保存され、メッセージボックスが表示されます。



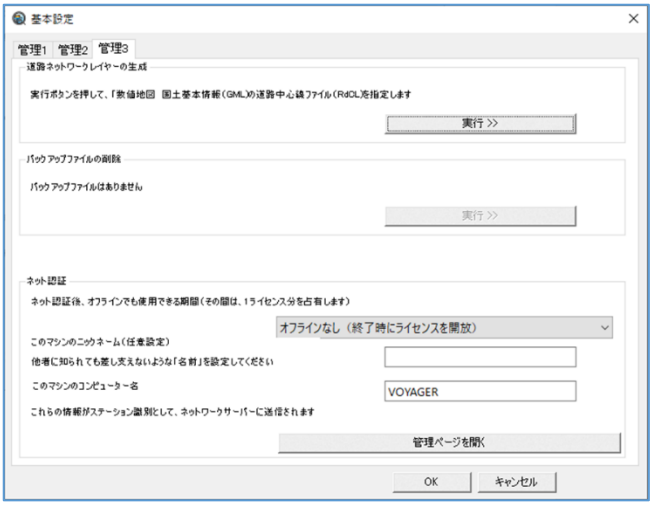
バックアップファイルの削除

プログラム更新時に自動的に保存されるバックアップファイルを削除します。
バックアップファイルが存在する場合に、【実行】ボタンが有効になります。
バックアップファイルは、『出簡調』インストールフォルダ内に「bak」フォルダが自動生成され格納されています。

1. 【実行】ボタンをタップすると、ただちにバックアップファイルを削除します。



実行前



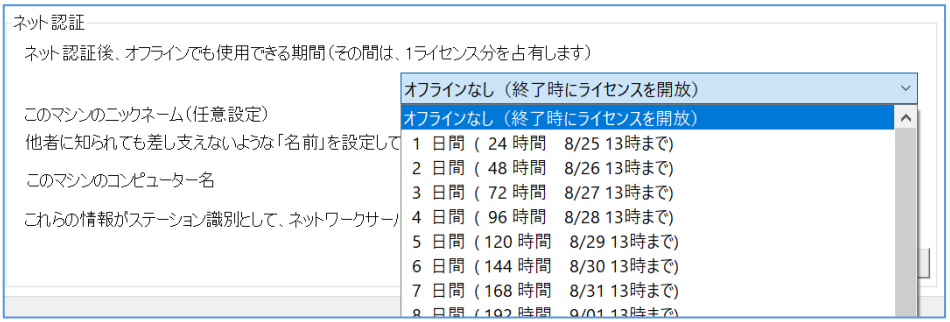
実行後

ネット認証

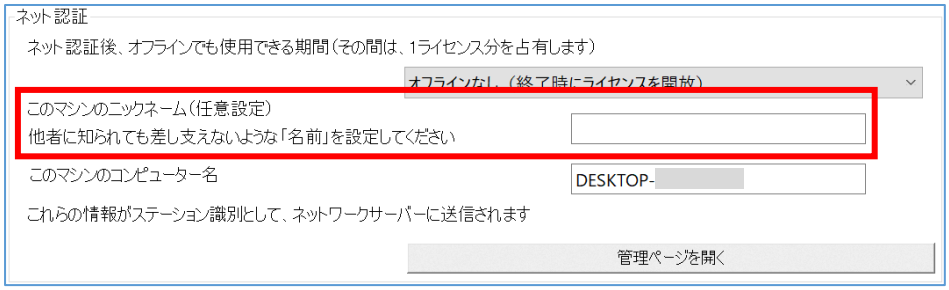
※ネット認証をご利用いただくには、ライセンス認証方式変更のお届けが必要です。
詳細は弊社までお問い合わせください。

事前に期間を設定しておくことにより、ネット認証後にオフラインでもライセンスが認証できるように設定することができます。その期間中は、1ライセンス分を占有します。

1. 「ネット認証後、オフラインでも使用できる期間」のプルダウンボックスから、任意の期間（1～31日間）を設定します。

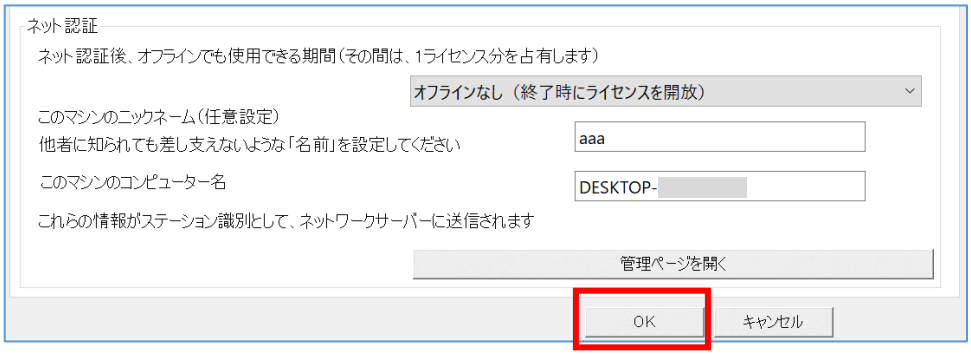


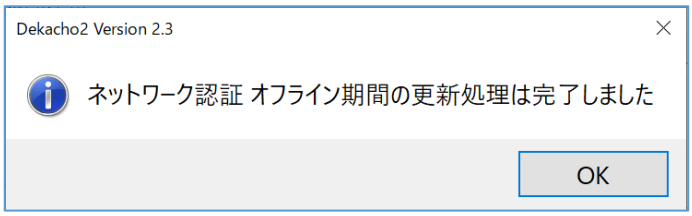
2. 「このマシンのニックネーム（任意設定）」を入力します。他者に知られても差し支えないような名前を設定するようにしてください。
「このマシンのコンピューター名」はデフォルトで入力されています。



3. 【管理ページを開く】ボタンをタップすると、「MAPCOM Network License Manager」が開き、ライセンス状況を確認することができます。

4. 【OK】ボタンをタップすると、以下のようなダイアログボックスが表示され、設定が完了したことが確認できます。



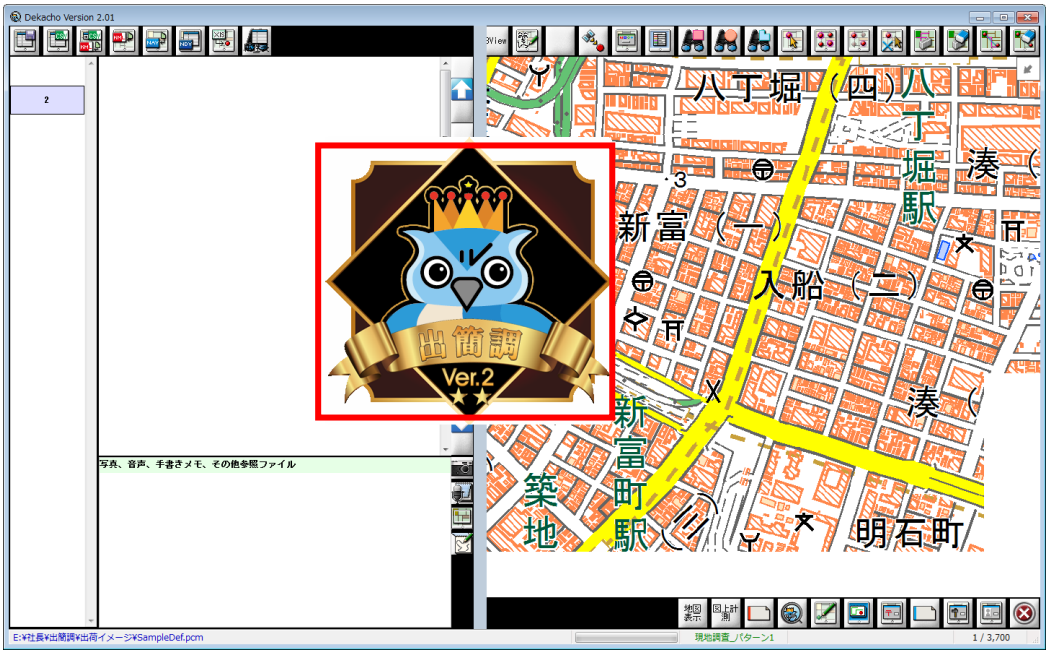


5.2. 『管理ツール』補足

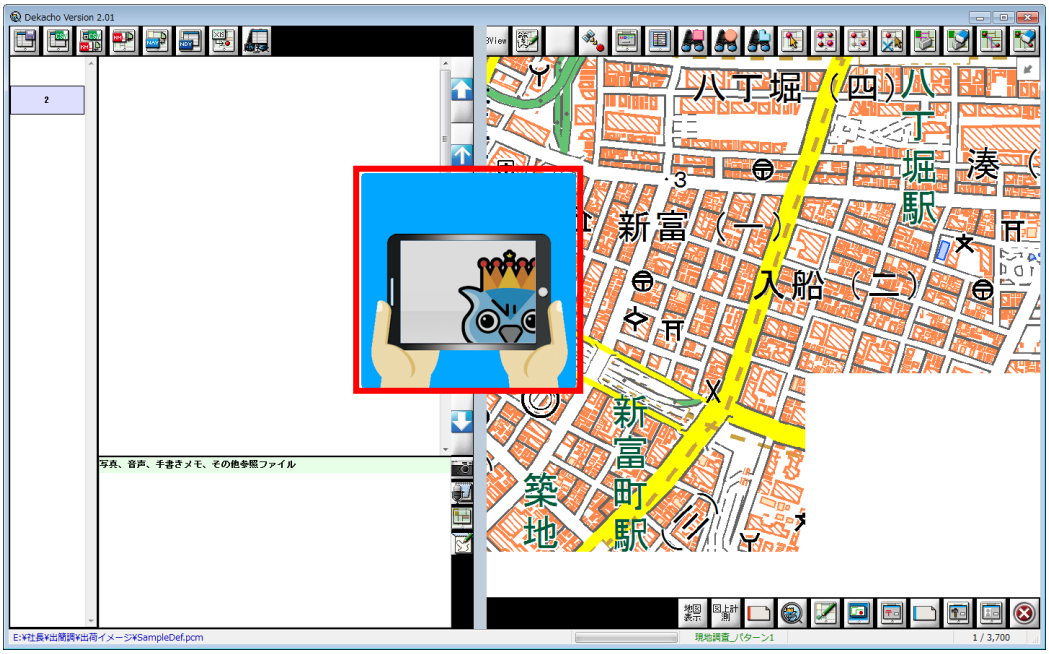
5.2.1. スプラッシュウィンドウについて

Dekacho.exe と同じフォルダ内に Dekacho.png が存在した場合は、通常の起動イメージより優先してスプラッシュウィンドウとして表示します。

変更前



変更後



6. 起動オプションと ini ファイル

6.1. 起動オプション

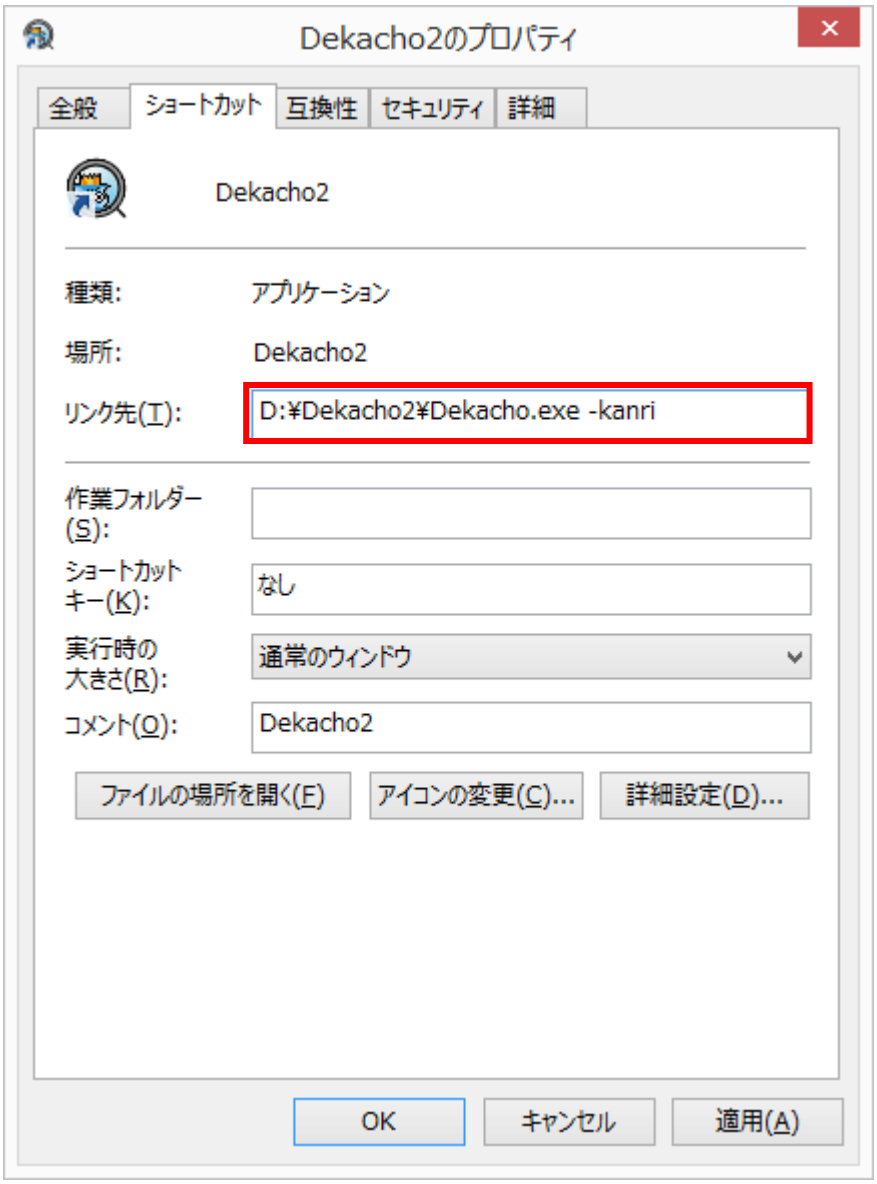
『出簡調』は、起動オプションを指定して起動することで、環境設定を行うツールとして起動したり、あらかじめ調査ごとに設定した環境を指定して起動したりすることができます。
『出簡調』の起動オプションは下記の通りです。

起動オプション	内容
なし	通常起動
-NoSplash	起動時にスプラッシュウィンドウを表示しないで起動
-Prmdir	環境設定ファイル群のフォルダを指定して起動
-NewPrj	新規プロジェクト生成ツールとして起動
-Kanri	管理ツールとして起動
-MrgPrj	プロジェクト統合ツールとして起動
-Ro	閲覧モードで起動
-UpdatePrj	既存のプロジェクトに対して、プロジェクト生成用の定義ファイルを指定して、調査項目を追加する ※ただし、同一の調査項目タイトルおよび選択項目を追加することはできません。

① 起動オプションを設定します。
『出簡調』起動アイコンをコピーします。コピーした起動アイコンをロングタップし、ポップアップメニューを表示します。
[プロパティ]を選択してください。

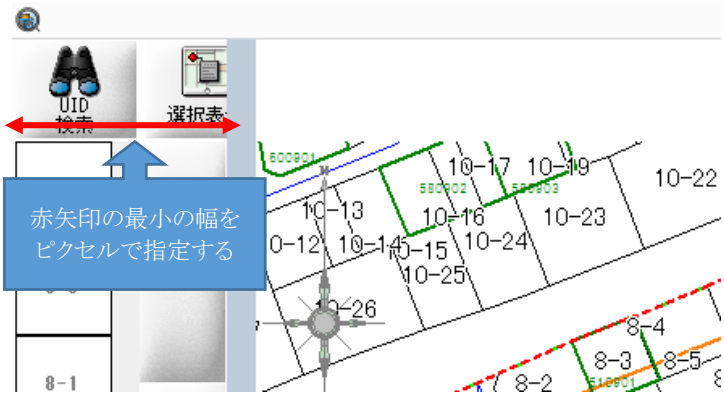
② ［Dekacho.exe のプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。
リンク先の Dekacho.exe の最後に**半角スペースと指定したい起動オプションを**入力して【OK】ボタンをタップしてください。

起動オプション「-Kanri」を指定する場合の例

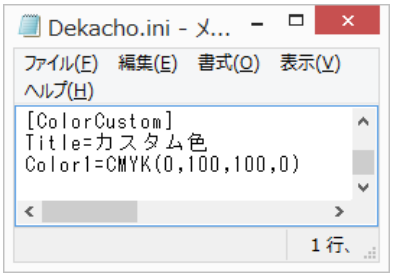
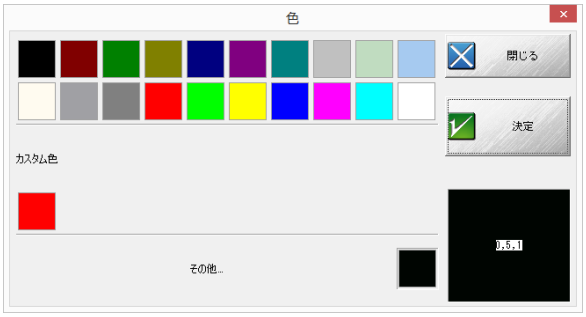


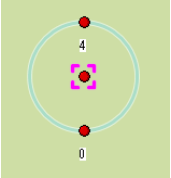
6.2. Dekacho.ini ファイル

『出簡調』の設定ファイル「Dekacho.ini」では、さらに詳細な設定を行うことができます。
設定可能な項目は下記の通りです。

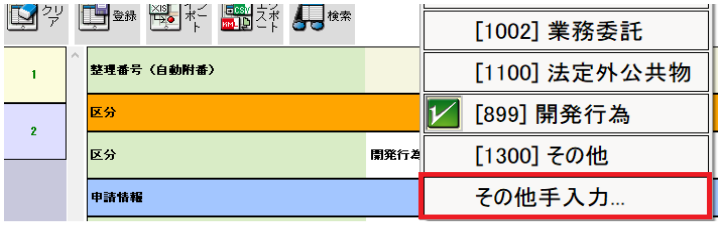
項目	設定内容
[APP]セクション	
Project	使用するプロジェクトファイル
CsvDic	CSV 出力の際、データベースリンクされている値の出力方法 0:リンク前の値 1:リンク後の値
CameraNoDateTime	撮影した写真ファイルに対して、日付時刻をファイル名に加える 0:ファイル名に日付け時刻を加える(デフォルト) 1:ファイル名に日付け時刻を加えない
DpiMul	ウィンドウ全体の文字、ダイアログ等のサイズを設定する 指定する値は Windows 設定値を 1 として比率を指定する。 《記述例》 デフォルトより小さくしたい場合 DpiMul=0.8 デフォルトより大きくしたい場合 DpiMul=1.5
FontFace	『出簡調』で利用するフォント 指定がない場合は、MS ゴシック 《記述例》 FontFace=メイリオ
HandMemo	デフォルトで、 "%ProgramW6432%¥¥Windows Journal¥¥Journal.exe" を起動する。Handmemo="プログラムパス名"で、プログラムパス名を変更することで、起動プログラムを指定可能 管理ツール「管理 2」で指定されたアプリを起動する 《記述例》 Handmemo="%ProgramW6432%¥¥Windows Journal¥¥Journal.exe"
MinSS	属性ウィンドウ表示幅の最小サイズを指定する(単位:ピクセル) デフォルトは 100 ピクセル 《記述例》 MinSS=100 
InitViewMode	起動時の地図表示位置を設定する 0:前回起動時に選択した調査対象ポイントを中心に表示する 1:コマンド「ZoomInit」で設定した初期表示位置を表示する (『7.7.100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』参照)
DelayedUpdate	データ更新ごとのファイル保存を抑制する。

	1:コマンド「AttachAttr(登録ボタン)」実行時ではなく、出簡調終了時、もしくは、コマンド「DoUpdate」を実行するときにファイル保存する ※登録ごとに保存するため、データが大きい場合、1 データごとの保存に時間がかかりすぎる場合に有効です。そのため万一の場合に入力データが失われるリスクがあります。
[MapCtrlView]セクション	
EnablePaintCancel Button	描画中にキャンセルボタンウィンドウが表示され、マウスボタン押下で、描画を中断する。 0:キャンセルボタン表示なし 1:キャンセルボタン表示 ff
Gesture	ジェスチャー動作設定(下の設定の組み合わせ(設定値は合計値を指定する)) 1:ズーム機能のみ動作 2:パン(移動)機能のみ動作 4:回転機能のみ動作 128:従来の移動モード
LButtonFlag	タブレット使用時、画面スクロールで移動時にタップした個所のポイントを選択されてしまう現象に対応。 8:強制画面移動モード この場合、選択する調査対象物の UID を「UID リストボックス」からタップ、または、コマンド「SelPnt」を利用する必要あり
ZoomMode	ドラッグして表示領域移動する場合、再描画しながら移動する 1:再描画しないで移動する 2:再描画しながら移動する
MAttr	同一座標に複数あるポイントの掴み分け([PcmTrackMAttr]セクション「RR」を参照) 0:掴み分け用の円を表示しない 1:掴み分け用の円を表示する
[GPSCTRL]セクション	
LogFile	GPS ログファイルの出力先(DekachoGPS.log に日付が付加される)
Serial	外付けタイプの GPS を使用する 0:使用しない 1:使用する
Garmin	ガーミンタイプの GPS を使用する 0:使用しない 1:使用する
LocAPI	機器組込みによるロケーション API を使用する 0:使用しない 1:使用する
Port	外付けタイプの GPS を使用した場合の COM ポート番号
BaudRate	外付けタイプの GPS を使用した場合のボーレート
MinErrorRadial	組込み機器による GPS 受信時の許容誤差(m)。 これを超えた場合は受信とはみなされない
[GPSMarker]セクション	
CoreSize	GPS マーカーの中心円の半径(mm)
MaxSize	GPS マーカーの誤差円の最大半径(mm)
[NewPrjDlg]セクション	
DefPath	新規プロジェクト生成用定義ファイル(テキスト形式)
TargetPath	生成プロジェクトファイル保存先、ファイル名
KML	データ領域指定 KML ファイル

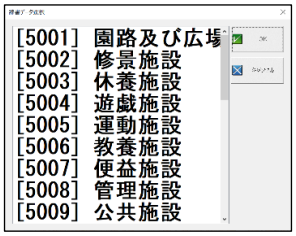
AutoPrj	起動時に開くプロジェクトに設定する 0:設定しない 1:設定する
Kei	経緯度座標、直角座標の設定 0:経緯度座標 1～19:直角座標系
UID	UID の開始番号(新規プロジェクト生成ツールによる指定値と新規プロジェクト定義ファイルによる指定値との合算)
MapURL	データ領域指定 URL(地理院地図による指定)
Radio	データ領域指定方法 0:KML による指定 1:地理院地図 URL による指定
Wai	該当領域の地理院地図を予めダウンロードしておく 0:ダウンロードしない 1:ダウンロードする
TMAX	ダウンロードする地理院タイル数
[NewPrjDlg]セクション	
DefPath	新規プロジェクト生成用定義ファイル(テキスト形式)
TargetPath	生成プロジェクトファイル保存先、ファイル名
[ColorCustom]セクション	
Title	カスタム色を表示する場合のタイトル
ColorN	カスタム色を指定する N は 1 以上の整数で、連続した値を指定する 色は、RGB または CMYK で指定可能 《記述例》 RGB 指定の場合 Color1=RGB(255,255,0) CMYK 指定の場合 Color1=CMYK(0,100,100,0)  
[FindByAttrMDlg]セクション	
MaxList	属性検索において、リストの数が指定した値以内の場合に、検索値をリストアップする。デフォルトは“1000”となる。 MaxList で指定した数以上のリストになる場合は、リストアップされな

	い。 《記述例》 MaxList=1000
[HxGdi]セクション	
AntiAliasFont	属性表示時の文字のアンチエイリアス効果を使用する 0:使用しない 1:使用する(デフォルト)
[DekachoDlg]セクション	
DbPaneMode	ボタンの動作モードを指定する 0:一定の幅で属性画面の表示幅を増減する 1:ボタンをタップで属性画面の表示幅を[App]セクションの MinSS で設定した幅(最小の幅)にする ボタンをタップで[DekachoDlg]セクションの DbPanePer で設定した画面比率で属性画面を表示する。
DbPanePer	[DekachoDlg]セクションの DbPaneMode=1 の場合、ボタンをタップして表示する属性画面の幅を指定する。 幅は全画面からの比率(1.0~99.9)で指定可能
[PcmTrackMAttr]セクション	
RR=N	同一座標に複数あるポイントの掴み分け  重複ポイントを指定した場合、指定した数値の円が表示され、円上のポイントから選択できる。 円以外をタップした場合は、選択キャンセル。 N=掴み分けの際の円の基本半径ピクセル値
[DbListWnd]セクション	
AreaFixLayerChanged=1	レイヤーを変更した際、変更前の表示領域が保持される。 未設定の場合、変更後レイヤーで最後に選択されたポイントを中心とした表示領域となる。
CloseGroup=0	項目名をクリックすると、グループの折りたたみ展開をトグルする(@のついた項目(入力フィールド)対象) 0:使用しない(デフォルト) 1:使用する 項目リストごとに個別で折りたたみ展開の設定をする場合、PC-MAPPING で調査レイヤーポイント**内部属性**のキーリストで「項目リスト名=1」のように設定する。 《設定例》 キー:@@正面道路 値:1

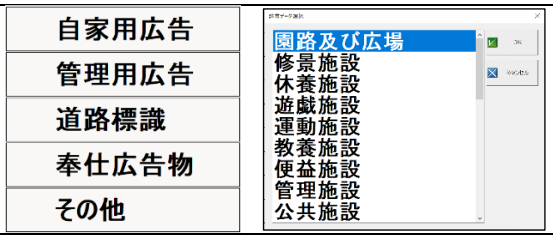
<table>
<tr><td></td><td>
</td></tr>
<tr><td>DicOther=0</td><td>辞書入力項目を設定している場合に、選択肢に表示される「その他手入力…」を抑制する
0:「その他手入力…」を表示しない（デフォルト）
1:「その他手入力…」を表示する

《設定例》
 

※なお、「その他手入力」で入力できる文字はデータ型に依存します。
定義ファイルからデータを作成した場合、入力できるのは数値のみとなり、文字入力を行いたい場合は、PC-MAPPING 上で文字型としてください。</td></tr>
<tr><td>DicHideKey=0</td><td>辞書入力項目を設定している場合に、調査項目（辞書入力項目）の ID を非表示にする
0:ID を表示する（デフォルト）
1:ID を表示しない

※辞書入力項目は、項目数が 1~24 の時はプルダウン方式、25 以上の時はダイアログウィンドウ方式で表示される。
▼プルダウン方式 ▼ダイアログウィンドウ方式


《設定例》</td></tr>
</table>

	
PackSharp=0	項目名をクリックすると、グループの折りたたみ展開をトグルする(#のついた項目(表示のみのフィールド)対象) 0:使用しない(デフォルト) 1:使用する 項目リストごとに個別で折りたたみ展開の設定をする場合、PC-MAPPING で調査レイヤーポイント**内部属性**のキーリストで「項目リスト名=1」のように設定する。 《設定例》 キー:@@正面道路 値:1
[DKShapeMenuDlg]セクション	
Sym	メモ作図のポイントを表示するシンボルのデフォルトの設定を変更する 《記述例》 Sym=81 ※デフォルトにしたいアイコンのレンジを設定します。 レンジの設定は PC-MAPPING にて確認します。

7. メニューをカスタマイズする

メニュー設定ファイル Command.prm で、『出簡調』に表示するボタンをカスタマイズします。
このデータはテキストファイルなので、メモ帳などで編集してください。

> **ヒント：サンプルダウンロード**
> 3種類のカスタムされたメニュー定義ファイルは、出簡調特設サイトよりダウンロードが可能です。
> 「メニュー定義ファイルサンプル」からダウンロードしてお使いください。

7.1. 記述方法

以下のように設定を行ってください。

記述方法

105,メモ,Sakuzu,40,,作図メニューを表示

カラム	例文	詳細
1	105	ボタン番号（表示するエリアに応じて 100 番台、200 番台、300 番台を使用する）
2	メモ	ボタン表示名（「¥n」を挿入することにより改行可能）
3	Sakuzu	コマンド文字列
4	40 または 任意のファイル名	ボタンアイコンイメージファイル名 『出簡調』標準のアイコンに関しては ID のみの指定でアイコンイメージを表示させることが可能 ユーザー独自のイメージを表示したい場合は、ファイルの保存先とファイル名（*.png）を記述
5	（記述なし）	チェックボックスフラグ チェックボックスに対応していないコマンドの場合、記述なし チェックボックスに対応しているコマンド（※）の場合、「1」でチェックボックススタイル ON
6	作図メニューを表示	ツールチップ文字列

※チェックボックススタイルを適用可能なコマンド

- AttrDisp
- DispCJ
- DispSakuzu
- DispWai
- DispWaiLayer
- DispWaLineSlot
- MapView
- MovePnt
- NewPnt
- PalWnd
- ZoomCenter

※詳細は各コマンド説明を参照してください。

7.2. ボタン番号及びボタンの並びについて

ボタン番号は 100 番台、200 番台、300 番台それぞれ 150、250、350 まで付番することができます。
それ以上の番号を指定した場合にはボタンは表示されません。
ボタンはボタン番号の順で並びます（定義ファイルの順ではありません）。

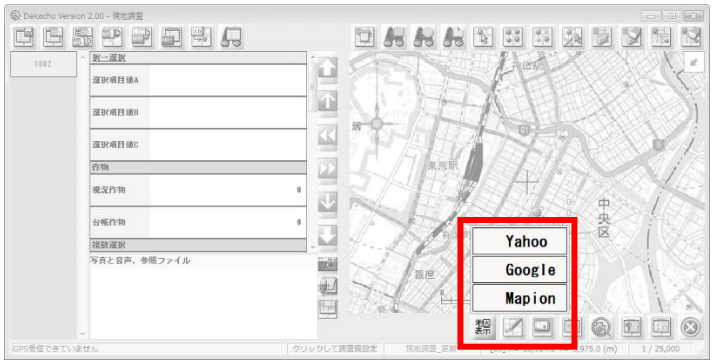
7.3. ポップアップメニューの使用

ポップアップメニューを設定することができます。

記述例

217,地図¥n 表示,nop,MapMenu.png
217,Yahoo,MapView Yahoo,,1
217,Google,MapView Google,,1
217,Mapion,MapView Mapion,,1

1 行目:表示するボタンのタイトルを指定してください(コマンドは「nop」を指定)。
2 行目:1 行目と同じボタン番号でコマンドを記述してください。
※2 行目以降に必要な分だけコマンドを同じボタン番号で記述してください。



7.4. クイックメニュー

クイックメニューを設定することができます。
ポップアップとは異なり、実行後独立したメニューとして表示されます。

記述例

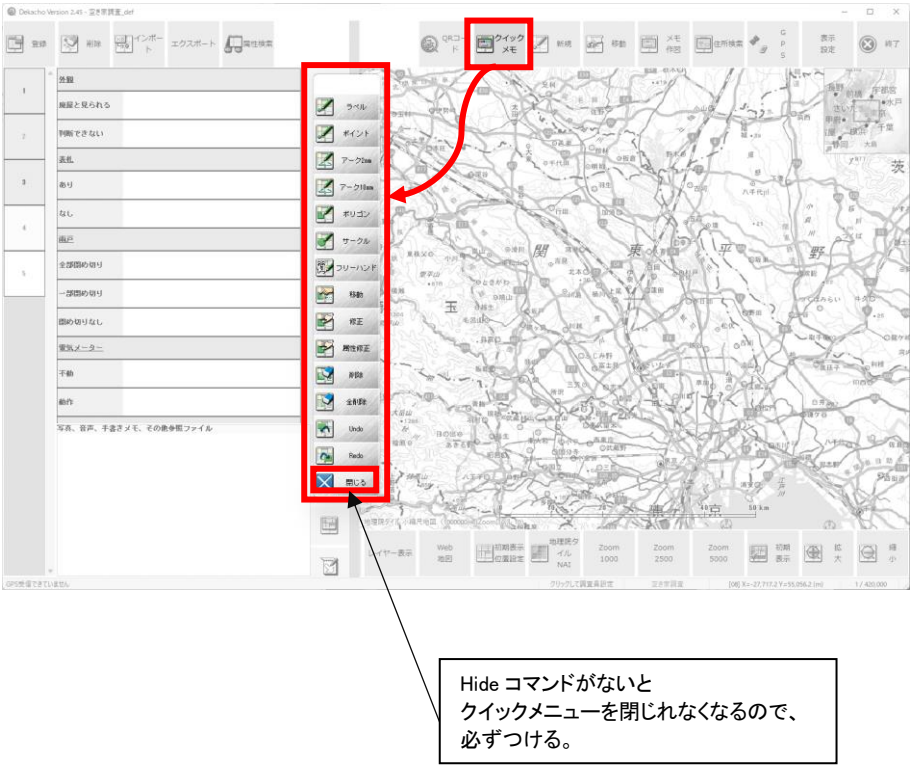
113,作図,QuickMenu 96 48,
113,ポイント作図,SakuzuTrack 1 100 4 00FF0000 3 "ラベル" "説明",
113,ライン作図,SakuzuTrack 2 00FF0000 5 "ラベル" "説明",
113,ポリゴン作図,SakuzuTrack 3 00FF0000 5 8000FF00 "ラベル" "説明",
113,サークル作図,SakuzuTrack 4 00FF0000 5 8000FF00 "ラベル" "説明",
113,閉じる,Hide,

1 行目 :クイックメニューの定義の開始

113	ボタン番号
作図	ボタン表示文字
QuickMenu△96△48	クイックメニューのボタンを横 96×縦 48 ピクセルで表示する。 ※△は、半角スペース

2 行目 :1 行目と同じボタン番号でコマンドを記述
最終行:クイックメニューの定義の終了(メニューを閉じるコマンド)

※2 行目以降に必要な分だけコマンドを同じボタン番号で記述し、最終行に Hide コマンドを記述する
※モーダレスダイアログに類似したウィンドウを開いて、指定のコマンド数分のボタンを表示する。
※クイックメニューは 300 番台エリアでは使用不可



7.5. システム制御コマンド

以下のコマンドはシステム制御コマンドです。

コマンド	説明	書式	規定値
@ButtonSize	メニューボタンのサイズ	ButtonSize,横ピクセル数,縦ピクセル数 例:@ButtonSize,40,40	60×40
@ItemHeight	属性表示のリストの高さ	ItemHeight,高さピクセル数, 例:@ItemHeight,50,	28
@UidWidth	UID リストの幅	UidWidth,幅ピクセル数, 例:@UidWidth,120,	指定サイズが 0 の場合はボタンサイズの横ピクセル数が適用される
@Separator	セパレーター		
@None	この行のメニューはスキップされる		
@ButtonAlign,1	メニューボタンのアイコンイメージに対してボタン名称を下側に表示する(デフォルトはアイコンイメージに対して右側に表示される)	例:@ButtonAlign,1	
@終了コード	Close メニューを実行した際に終了コードの入力を求め 10 秒以内に設定されている終了コードを入力しないとシステムを終了することはできない。コードは半角英数で指定する。	例:@終了コード,admin 赤文字が終了コードとなる。	
@スプリットバー色	ウィンドウ分割線の色を指定する。	デフォルト色は Windows インアクティブ時のタイトルカラーとなる。 例:@スプリットバー色, #FFA000	
@択一項目タイトル色	属性リストボックスの択一項目のタイトル背景色	例:@択一項目タイトル色,90ee90	
@複数選択タイトル色	属性リストボックスの複数項目のタイトル背景色	例:@複数選択タイトル色,00a5ff	
@入力項目タイトル色	属性リストボックスの入力項目のタイトル背景色	例:@入力項目タイトル色,ffc6a3	
@参照項目タイトル色	属性リストボックスの参照項目のタイトル背景色	例:@参照項目タイトル色,8585ef	
@項目名色	属性リストボックスの項目名の色	例:@項目名色,e4ebf0	

@項目背景色	属性リストボックスの項目背景色	例:@項目背景色,ffffff	
@メインウィンドウ背景色	『出簡調』アプリメインウィンドウの背景色	何も指定しない場合は、FFFFFF(Windowsのウィンドウ背景色) 例:@メインウィンドウ背景色,#dcdcdc	
@リスト背景色	属性リストの背景色	例:@リスト背景色,#ffffff	
@リスト2背景色	写真等ファイルリストボックスの背景色	例:@リスト2背景色,#ffffff	
@ButtonStyle	ボタンのスタイル	0:ノイズ 1:十字シェード 2:水平シェード 3:垂直シェード 4:水平バンプ 5:垂直バンプ 6:ソフトバンプ 7:ハードバンプ 8:メタリック -1:シェードなし 例:@ButtonStyle,-1	指定がない場合は8:メタリック
@ButtonColor	「@ButtonStyle,-1」のとき、ボタンの背景色が変更される。 ※後方参照はできないので、通常のボタン定義が終わった後に記述すること	@ButtonColor,(ボタン番号),(マウスがボタン上のときの背景色),(マウスがボタン外のときの背景色),(マウスがボタン上のときの文字色),(マウスがボタン外のときの文字色),(ボタンのフォント),(ボタンのフォントサイズ) ボタンID501~504の時は、スクロールボタン、 ボタンID505~507の時はカメラボタンに適用する。 ボタンID999の時フォントフェイスとサイズがデフォルトサイズになる。 ※カラー設定はマウス使用時のみ有効。 タッチ操作では指定しても無効となる 例: @ButtonColor,121,007D7D7D,FFA000,000000,FF0000,メイリオ,10 カメラボタンの非表示 @ButtonColor,505,F0C0FF,E0A0E0,FF0000,000000,off	指定がない場合は、Windowsでの設定値
@ID背景色	UIDリストの背景色	例:@ID背景色,#FF7777	
@ID項目背景色	UIDリストの項目名背景色	例:@ID項目背景色,#FFFF00	
@ID選択項目背景色	UIDリストの選択項目背景色	例:@ID選択項目背景色,#00FFFF	
@ID一部入力済背景色	UIDリストの一部入力済背景色	例:@ID一部入力済背景色,#0000FF	
@ID入力済背景色	UIDリストの入力済背景色	例:@ID入力済背景色,#00FF00	
@ID未入力文字色	UIDリストの未入力箇所の文字色	例:@ID未入力文字色,#F0FF00	
@ID一部入力済	UIDリストの一部	例:@ID一部入力済文字色,#FFFF00	

文字色	入力済の文字色		
@ID 入力済文字色	UID リストの入力済文字色	例：@ID 入力済文字色,#FFFFFF	
@リスト 3 背景色	Excel でインポートした参照フィールド（$付きのフィールド）背景色 未入力の場合は、RGB(255,255,204)	例：@リスト 3 背景色,#00FF00	

※@ButtonSize、@ItemHeight に 10 未満の値を指定した場合にはエラーメッセージを表示する

色の設定について

RGB カラー設定（16 進数）で、「BBGGRR」の形式もしくは、「#RRGGBB」で入力する

7.6. コメント

以下の文字はコメントとして解釈されます。

・/（行頭）
・#（行頭）
・空行

7.7. 100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー

ID は、規定ボタンイメージの番号となります。空白の場合は、対応ボタンイメージはありません。
※△は、半角スペース

コマンド	説明	標準アイコン	ID
AddrJump	住所検索ダイアログボックスの表示		36
AttrDisp	地図上での UID(と設定にあれば属性)の表示・非表示 (☑チェックボックスによるトグル) AttrDisp△para1△para2△para3 para1:-f/-b(省略可) -f=前景レイヤー時の属性表示/非表示に対して設定する -b=背景レイヤー時の属性表示/非表示に対して設定する 省略時=前景/背景 両方の属性表示/非表示に対して設定 para2:-on/-off(省略可) -on=属性を表示する -off=属性を非表示にする para3: -SurveyLayer/-SurveyLayer1/-SurveyLayer0 (省略可) -SurveyLayer=全ての調査対象レイヤーに対して設定 -SurveuLayer1=現在アクティブな調査対象レイヤーに対して設定 -SurveyLayer0=現在アクティブではない調査対象レイヤーに対して設定 省略時=調査対象レイヤーに限定せず、全てのレイヤーに対してポイントの属性表示/非表示を設定する ※AttrDisp コマンドオプション「-SurveyLayer」がある場合とない場合の動作の違いについては、『8.7.1.AttrDisp コマンドオプション』、『8.7.2.AttrDisp コマンドオプションの組み合わせ』を参照		29
AutoCameraBoard	情報シート自動貼り込み機能 AutoCameraBoard△para1 para1:ON/OFF ON=一度貼り付けた情報シートの位置を記憶して以降の写真撮影時も同じ位置に情報シートを張り付ける。 OFF=自動貼り込み機能を OFF にする。		
CalcSum	指定したフィールドの計算 CalcSum△para1 para1:フィールド名 選択状態のポイントの指定フィールドの計算を行う。 数値の場合は指定したフィールドに設定されている数値と、その合計、Bool 型の場合は、ON＝1、OFF＝0 とした値と、その合計を別ダイアログボックスに表示する。		
CheckUpdate	最新版の検索		37
CopyUpdate	その時点でプロジェクトのあるフォルダーとその下位のフォルダーで更新されたファイルのみが、指定の保存先にコピーされる(ネットワークドライブも指定可能)。 例:CopyUpdate△E:¥現場 A01		
ClearSel	FindByAttr、FindByArea、FindByCir、FindByRect、FindByCSV での領域検索による選択領域を解除する		96

Close	システムを終了する		28
DbView	調査ポイントの情報をリスト表示する		122
DbView2	属性画面に属性一覧を表示する		128
DispCJ	背景の地理院地図の表示・非表示 (☑チェックボックスによるトグル)		60
DispMode	PC-MAPPING にて作成されたプロジェクトに関して、指定の表示モードに変更する("DispMode△表示モード名称"で指定) ※指定の表示モードへ変更するだけなので元へ戻すには元の表示モードを別途コマンドで指定する		
DispModeCheck	スケールバーの表示・非表示 -ScaleBar△On=表示 -ScaleBar△Off=非表示 -ScaleBar△Toggle=チェックボックスによるトグル		
DispSakuzu	メモ作図機能によって作図されたデータの表示・非表示 (☑チェックボックスによるトグル)		61
DispSel	SelectPnt で選択されたポイントの表示・非表示を制御する DispSel△1=選択されたポイントのみ表示する DispSel△0=選択されたポイントのみの表示を解除する		94
DispWai	背景の広域イメージの表示・非表示 (☑チェックボックスによるトグル) -on=表示 ON -off=表示 OFF -Alpha△(透過レベル 0-100)=透過度を設定		62
DispWaiLayer	指定の広域イメージレイヤーを表示・非表示 (☑チェックボックスによるトグル) ＜レイヤーの指定＞ DispWaiLayer△(広域イメージの 0 からの順番号) DispWaiLayer△-byName△(レベル名) ※-byName によるレベル名での表示レイヤーの指定の場合は、必ず DispWaiLayer の直後で指定してください。 -on=表示 ON -off=表示 OFF -Alpha△(透過レベル:0～100)=透過度を設定 例①: 広域イメージレベル1番目、レイヤータイトル「航空写真」を表示する。 DispWaiLayer△0△-on,,1,航空写真を表示 例②: 広域イメージレベル1番目、レイヤータイトル「航空写真」の表示/非表示を切り替える(トグル)。 DispWaiLayer△0,,1,航空写真を表示 DispWaiLayer△-byName△航空写真,,1,航空写真を表示		
DispWaLineSlot	指定の広域ベクターレイヤーを表示・非表示 (☑チェックボックスによるトグル) (「DispWaLineSlot△(広域ベクターの 0 からの順番号)」で指定) -on=表示 ON -off=表示 OFF		

	-Alpha△(透過レベル:0～100)=透過度を設定		
DoCamera	設定したカメラを起動する(カメラボタンと同じ動作となる)		
DoRelation	「文字入力項目 R」に設定されているファイルを一括でリレーション起動する DoRelation△フィールド名 で、指定のフィールドのリンクのみリレーション起動する		125
DoUpdate	明示的にファイル保存処理を実行する ※ini ファイル「DelayedUpdate」が有効の場合、出簡調終了時もしくはこのコマンドを実行時にファイル保存を行う		
Exec	指定の Exe ファイルを実行する Exec△(実行する Exe ファイル名)のように記述する		
FindByArea	多角形指定による領域検索を行う -NoHide=選択されたポイント以外も表示する。 ※この時、画面左側に表示される「UID」は、絞り込み表示されない。 ポイントが選択したもののみ表示:UID も選択したもののみ表示 ポイントが選択したもの以外も表示:UID も選択したもの以外も表示		92
FindByAttr	調査レイヤーの内部属性を検索して、該当するポイントのみを選択して、表示対象とする。 ID リストにも該当するもののみが表示される。 BOOL 型のフィールに対する検索では 1 または 0 の指定で検索を行う。 FindByAttr△N:指定個数分の条件フィールドを設定可能(N:1～10) -AllField=参照フィールド(*付きのフィールド)も検索対象とする。 -Layer△“レイヤー名”:調査レイヤー以外の特定のレイヤーのポイントに対して属性検索する。 ※『8.7.9.背景レイヤー(調査レイヤー以外)を属性検索する』を参照 -Mode△(0|1) 0=すべての条件を満たすものを検索する 1=いずれかの条件を満たすものを検索する -NoHide=選択されたポイント以外も表示する。 ※この時、画面左側に表示される「UID」は、絞り込み表示されない。 ポイントが選択したもののみ表示:UID も選択したもののみ表示 ポイントが選択したもの以外も表示:UID も選択したもの以外も表示 -NoMark=選択状態にしないで、該当地物領域に画面移動する。 -Scale△500:検索後に表示する地図の縮尺分母を指定する(この場合 1/500) -Sel△(0|1) 0=全てに対して検索を行う(絞り込みしない) 1=絞り込み(現在選択されている中でさらに検索して絞り込む) -SField△(対象フィールドインデックス)		89

	0=対象外 1～=(フィールド番号指定)△(条件) 0=部分一致 1=厳密一致 2=大きい(＞) 3=小さい(＜) 4=先頭一致 5=末尾一致 6=厳密一致(ひらがなカタカナ 区別なし) 7=部分一致(1、2 バイト文字 区別なし) -OSKCheck△(0|1)=キーボード		
FindByCir	円形指定による領域検索を行う -NoHide=選択されたポイント以外も表示する。 ※この時、画面左側に表示される「UID」は、絞り込み表示されない。 ポイントが選択したもののみ表示:UID も選択したもののみ表示 ポイントが選択したもの以外も表示:UID も選択したもの以外も表示		91
FindByCSV	CSV で指定した値で調査対象物を検索し、選択状態にする -NoHide=選択されたポイント以外も表示する。 ※この時、画面左側に表示される「UID」は、絞り込み表示されない。 ポイントが選択したもののみ表示:UID も選択したもののみ表示 ポイントが選択したもの以外も表示:UID も選択したもの以外も表示		127
FindByRect	矩形指定による領域検索を行う -NoHide=選択されたポイント以外も表示する。 ※この時、画面左側に表示される「UID」は、絞り込み表示されない。 ポイントが選択したもののみ表示:UID も選択したもののみ表示 ポイントが選択したもの以外も表示:UID も選択したもの以外も表示		90
FullMap	全画面地図表示状態の切り替えを行う FullMap△0:地図の全画面表示を解除する FullMap△1:地図を全画面表示する FullMap:地図の全画面表示/全画面表示解除を切り替える		126
GoogleMaps	ブラウザによる地図の表示位置の GoogleMap での表示 GoogleMaps:GoogleMap による表示 GoogleMaps△yahoo:Yahoo による表示 GoogleMaps△bing:Bing による表示 GoogleMaps△mapion:Mapion による表示 GoogleMaps△osm:OSM による表示 GoogleMaps△stview:ストリートビューによる表示 -BarCode 表示エリアの位置を中心とし、各地図サイトでその位置を表示するための URL を 2 次元バーコードで表記したものをブラウザで表示する。 ※オフラインでもご利用頂けます。		

GpsLogClear	GPS ログの軌跡を消去する		81
GpsLogPlay	GPS ログをプレイバックする		82
GpsLogTrace	GPS ログの軌跡を表示する		80
GpsMenu	GPS メニューの表示 (GPS 受信中・受信不能状態のシンボル表示がデフォルトで行われる)※イメージの変更は行えません。		13 ※
GpsMonitor	GPS からの受信テキスト(ログファイルに相当)を専用のウィンドウに表示する		37
GpsPnt	GPS による現在地にポイント(調査対象物)を追加する GpsPnt△-Camera と指定することで、カメラを起動し、写真を撮った位置にポイントを追加する		103
GpsPos	GPS による現在地の表示		33
GpsUpdate	指定間隔で GPS 位置情報を更新する (「GpsUpdat△秒数」で指定)		
HandMemoExec	引数なしで、ini ファイルで指定したアプリを起動する。		
Hide	QuickMenu によるクイックメニューを閉じる		
HideUIDList	UID リストを非表示にする HideUIDList△0:表示 HideUIDList△1:非表示		
HusenCir	付箋を巡回表示する HusenCir△-Back で逆方向の巡回表示を行う HusenCir△-Y HusenCir△-G HusenCir△-R HusenCir△-B で、特定の色の付箋を巡回表示する。 Y=黄色、G=緑、R=赤、B=青 -Back の場合も同様		113 114
HusenCirClear	巡回により強調表示された付箋の強調状態を解除する		124
HusenClear	配置された付箋を削除する		106
HusenClearALL	全ての付箋を削除する HusenClearAll△-Y HusenClearAll△-G HusenClearAll△-R HusenClearAll△-B で、特定の色の付箋を削除する Y=黄色、G=緑、R=赤、B=青		111
HusenDisp	付箋の表示状態を切り替える HusenDisp△-Y HusenDisp△-G HusenDisp△-R HusenDisp△-B で、特定の色の付箋を非表示にする Y=黄色、G=緑、R=赤、B=青		112

HusenKML	付箋を KML ファイルに出力して GoogleEarth を起動する		118
HusenKanri	付箋管理用ダイアログを開く		121
HusenMove	配置された付箋を移動する		105
HusenPaste	クリップボードから画像をとりこんで、付箋として地図上に配置する HusenPaste△-Y HusenPaste△-G HusenPaste△-R HusenPaste△-B で特定の色の付箋が配置される Y=黄色、G＝緑、R＝赤、B＝青		110 115 116 117 104
HusenRedo	付箋処理を REDO する		108
HusenUndo	付箋処理を UNDO する		107
Kanri	管理メニューを表示する（管理ツールと同じもの） 【OK】ボタンをタップした場合、反映できるものについては即時反映する、起動時のプロジェクトについては次回起動時に反映される		38
LayerDisp	レイヤーの表示・非表示を行う（前景レイヤー（対象調査レイヤー）を選択することはできない） LayerDisp△-Multi レイヤーリストを表示して複数のレイヤーの表示状態を設定する場合に連続して表示/非表示の選択を可能にする。		63
MapView	デフォルトブラウザを起動し、各種地図を表示する （☑チェックボックスによるトグル） MapView△Bing：Bing 地図を表示する MapView△Google：Google 地図を表示する MapView△Mapon：Mapion 地図を表示する MapView△osm：OpenStreetMap を表示する MapView△Yahoo：Yahoo 地図を表示する MapView△StView：Google ストリートビューを表示する ※メインの地図表示領域とは非同期 ※メインの地図表示領域とは独立して拡大・縮小・移動を行うことができる		
MCompass	地磁気センサーがついたタブレットの場合、地磁気センサーの方角で、地図を回転する。		
MovePnt	既存のポイントの移動 （☑チェックボックスによる移動モードのトグル）		30
NewPnt	新規ポイント作成 （☑チェックボックスによる新規作成モードのトグル、ポイント追加が行われると自動的にモード解除） NewPnt△1：連続して新規ポイントを登録する NewPnt△-ask：ポイント追加時に確認メッセージを表示する NewPnt△-r：右ボタンまたはプレスアンドタップジェスチャーで 1 点入力となる（やめるには取り消しボタンまたは ESC キー）		47

nop	(デバッグ用、何もしない)		
PalWnd	凡例ウィンドウの表示・非表示 (☑チェックボックスによるトグル) アクティブレイヤーの凡例を表示する、凡例表示中にアクティブレイヤーを切り替えた場合には手動で閉じる		59
Print	画面のハードコピーを行う(Ctrl+P でも実行可)		97
QuickMenu	クイックメニューを定義、表示する QuickMenu△ボタンサイズ(横ピクセル数)△ボタンサイズ(縦ピクセル数)		
RangeOp	図上計測を行う		123
Route	2 点間距離計測 直線距離と(道路ネットワークあれば)路線距離を算出する		101
RouteClear	Route で生成されたルート線形図形をクリアーする		102
Sakuzu	クイックシェイプによる作図ダイアログの表示 ※「メモ作図」の情報は、『出簡調』終了時に、「(プロジェクト名)_shp.kmz」の命名法則で、KML 形式で保存されます。		40
SakuzuEdit	クイックシェイプによる作図図形の編集機能		
	SakuzuEdit△1:図形移動		41
	SakuzuEdit△2:図形情報修正 オプション SakuzuEdit△2△1:属性のみを修正		42
	SakuzuEdit△3:UNDO		43
	SakuzuEdit△4:REDO		44
	SakuzuEdit△5:図形削除		45
	SakuzuEdit△6:全図形削除		46
SakuzuTrack	クイックシェイプによる作図機能		
	SakuzuTrack△1:ポイント作図 SakuzuTrack 1△シンボルキャプション(凡例キャプション)△シンボルファクター△文字色△文字サイズファクター△ラベル(表示文字列)△説明		47
	SakuzuTrack△2:ライン作図 SakuzuTrack 2△線色△線幅△ラベル△説明		48
	SakuzuTrack △3:ポリゴン作図 SakuzuTrack△3△線色△線幅△塗色△ラベル△説明		49
	SakuzuTrack△4:サークル作図 SakuzuTrack△4△線色△線幅△塗色△ラベル△説明		50
	※文字色、線色、塗色は AABBGGRR の 16 進 6 桁で指定する(AA:アルファブレンド(00～FF) BB:Blue(00～FF) GG:Green(00～FF) RR:Red(00～FF)) ※線幅はピクセル単位(0 の場合はヘアラインで表示)		

<table>
<tr><td></td><td>SakuzuTrack△n△@dialog
最後に、@dialog を付加することで、作図後、属性設定などのダイアログを開く。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>SakuzuTrack△5:フリーハンド入力
SakuzuTrack△5△(前面線色)△(前面線幅)△(ラベル)△(付帯情報)△(背景線色)△(背景線幅)
例:
SakuzuTrack△5△7FFF0000△5△△"Name***"△"Desc******"△7FFFFFFF△9
線色は、AABBGGRR もしくは、#AARRGGBB で指定する(AA はアルファ指定)

透過率(アルファ)は以下を参照
<table>
<tr><th>透過率(濃度)</th><th>コード</th><th>透過率(濃度)</th><th>コード</th></tr>
<tr><td>透過なし</td><td>FF</td><td>約 50%</td><td>80</td></tr>
<tr><td>約 95%</td><td>F1</td><td>約 40%</td><td>64</td></tr>
<tr><td>約 90%</td><td>E4</td><td>約 30%</td><td>4B</td></tr>
<tr><td>約 80%</td><td>CB</td><td>約 20%</td><td>31</td></tr>
<tr><td>約 70%</td><td>B1</td><td>約 10%</td><td>17</td></tr>
<tr><td>約 60%</td><td>97</td><td>全透明</td><td>01</td></tr>
</table></td><td></td><td>119</td></tr>
<tr><td>SaveShapeAsShp</td><td>メモ作図した図形をシェープファイル形式で出力する。
(元プロジェクトフォルダーに「プロジェクト名+点(_1)、線(_3)、面(_5)」と要素毎のファイル単位で出力されます。)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>SearchAll</td><td>背景レイヤーを含めた全データの検索を行う</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>SelectPnt</td><td>ポイントを個別に選択、選択解除する</td><td></td><td>93</td></tr>
<tr><td>SelPnt</td><td>ポイントを選択し、該当の UID 属性情報を更新する</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>SlaveView</td><td>元プロジェクトと連動表示する元プロジェクト名_Slave.pcm を作成すると、二つのプロジェクトを出簡調上で並べて表示する。
例:A.pcm の場合、A_Slave.pcm が、連動プロジェクトとなる。
SlaveView△0:連動表示解除
SlaveView△1:2 画面連動表示(上下)
SlaveView△2:2 画面連動表示(左右)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Speech</td><td>設定でエリアセンス機能を On にした場合の、音声案内のあり/なし
1=あり
0=なし
(「Speech△1or0」で設定)
※イメージの変更は行えません。
トグルオプション
Speech,86,1,
音声案内ありの場合。ボタンをタップすると、OFF に切り替わる
Speech,87,1,
音声案内なしの場合。ボタンをタップすると、ON に切り替わる</td><td></td><td>86

87
※</td></tr>
<tr><td>StaffChange</td><td>調査員を変更する(ステータスバーと同じ機能)</td><td></td><td>39</td></tr>
<tr><td>Stamp</td><td>シンボル選択後、場所を指定して選択したシンボルを配置する。シンボルは、「@Dekacho」 描画パラメーターレンジ 10000 以上のもの。スタンプ画像は、RGB(255,255,255)が透過色固定</td><td></td><td>139</td></tr>
</table>

	であることに留意。描画パラメーターの透過色は無視される。 Stamp△-range△10001 数値部分を、該当描画パラメーターレンジに設定すると、ダイアログボックスを表示せずに指定したシンボルを配置する。 Stamp△-continue△-range△10001 で、連続して同じスタンプを配置する。		
StampCir	スタンプ巡回、StampCir△-Back で逆巡回		
SumEndFlg	「出簡調」での進捗管理項目（未調査、調査済み、調査済み（不完全））において、それぞれのポイント数を集計し、メッセージボックスに表示する		129
SurveyChange	対象調査レイヤーを変更する（ステータスバーと同じ機能）		32
SurveyDisp	非対象調査レイヤーの表示・非表示（対象レイヤーを制御することはできない） SurveyDisp△-Multi レイヤーリストを表示して複数のレイヤーの表示状態を設定する場合に連続して表示/非表示の選択を可能にする。		64
TSP	道路ネットワークデータを利用してのセールスマン巡回を行う。 巡回ルートはメモ作図のラインデータとして作図される。 作図された巡回ルートは次に TSP コマンドを実行した際に上書きされる。 道路ネットワークレイヤーは、『出簡調』プロジェクトと同じフォルダーに「@RNet.nav」として配置する。 コマンド実行時の表示中心位置が始終点となる。 ポイントからネットワークまでの検索は、しきい値 0.001 から始まり、見つからなければ 10 倍しながら、1000000.0 になるか、レイヤーの図郭横サイズまで順繰りに探していく。 およそ 1.5km でエラーとなる。		98
TspClear	TSP によって作図された巡回ルートを削除する		99
ViewSetInit	現在の表示領域を初期表示領域に設定する（初期表示領域を変更しても図郭は変更されない） ※ini ファイル「InitViewMode」が有効の場合、起動時の表示領域となる（『6.2. Dekacho.ini ファイル』参照）		51
ZoomCenter	地図の表示中心位置の移動 ZoomCenter△One：一度限りの動作 ZoomCenter,,1：続けて動作 （☑チェックボックスによるトグル）		52
ZoomFit	地図の全体表示 （ViewSetInit での初期表示領域の変更には連動しない）		53
ZoomInit	地図の初期領域表示		54
ZoomInStep	地図の拡大		55
ZoomOutStep	地図の縮小		56
ZoomRotate	画面の回転表示ダイアログボックスの表示（このメニューによりコンパス、センターマーカーの表示・非表示を設定可能）		57
ZoomScale	地図の縮尺指定による拡大縮小 （「ZoomScale△縮尺分母」で指定）		

7.8. 300 番台エリアで使用可能なメニュー

※△は、半角スペース

コマンド	説明	規定ボタン	番号
AttachAttr	入力された属性の保存(登録) AttachAttr△para1 -Validate:妥当性検査し、エラーがあればメッセージを出して登録させない -NoValidate:妥当性検査をしない (なし):妥当性検査し、エラーがあればメッセージを出して登録するかしないかを選択させる -NextRec:登録後、次のレコードへ移動 -CopyIniRec:登録したデータを新規ポイント作成(NewPnt)時の初期値に設定する ※ini ファイル「DelayedUpdate」が有効の場合、保存が抑制される。その場合、「DoUpdate」コマンド(『7.7.100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』参照)実行時、もしくは出簡調終了時に保存される。		65
ClearRec	入力されている属性をすべてクリアーする		66
ClearSel	※『7.7. 100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』参照		96
DelPnt	現在指定されているポイントを削除 削除されたポイントは、「レイヤー名_@@レイヤー名.nav」に移動します。PC-MAPPING で、レイヤーを確認できます。		67
DelUndo	DelPnt によって削除されたポイント復元 「レイヤー名_@@レイヤー名.nav」に移動したポイントを選択して元に戻します。PC-MAPPING で、レイヤーを確認できます。		68
FindByAttr	※『7.7. 100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』参照		89
FromPattern	マイパターンに登録されている属性情報を現在属性ペインに表示されている情報に登録する(上書き登録) フィールド属性(表示制御)で 「初期値非表示」になっている項目はコピーされない(「初期値非表示」は PC-MAPPING で設定)。 第 1～第 4 フィールドは 無条件にコピーされない		70
LoadExcel	現在の調査レイヤーに対して指定の Excel ファイルからジオコーディングしてポイントを追加する。 Excel ファイルの属性は「参照属性」として調査レイヤーに追加される。		88
Nop	(デバッグ用、何もしない)		

SaveCSV	入力されている全てのポイントの属性を CSV に保存 -asis：表示通り保存 -utf8：UTF8 で保存 -sel：選択レコードのみ -report：「出簡調 Excel ツール」（有償）で用いるコマンド。 出簡調で開いている調査データの CSV や写真フォルダを自動でセットし、このツールを起動する。 -def：「出簡調 Excel ツール」（有償）で用いるコマンド。 ポイントの属性情報を CSV およびシステム用ファイルに保存。 -dic△n ：n=1 辞書引き結果を出力 ：n=0 辞書引きではなく元データを出力 -Field△（フィールド名） 出力対象フィールド名を指定する。 複数列記可能。 1 つでも有効なフィールド名が指定されていれば、そのフィールドのみが出力される。 1つも有効なフィールド名がない場合は、すべてのフィールドが出力される。 ≪列記書き方≫ SaveCSV△-Field△Afield△-Field△Bfield		73
SaveCsvKml	入力されている全てのポイントの属性を CSV に、図形情報を KML に保存		74
SaveKml	入力されている全てのポイントの図形情報を KML に保存		75
SaveNav	入力されているポイントの図形情報 PC-MAPPING NAV 形式での保存		76
SaveNdv	入力されているポイントの属性を PC-MAPPING NDV 形式に保存（データはデータベースリンク（他フィールド参照）、計算フィールドは実体化したものが保存される）		77
SelDisp	ポイント表示メニューの表示		72
SetCameraFHD	ファイル名に指定文字列を付加する SetCameraFHD△（ファイル名に付加する文字列）△-do ※-do オプションを付けることで、ボタンクリック時にそのままカメラが起動 ※このコマンドを実行後、通常のカメラボタンで撮影すると、付加する文字列の情報が引き継がれるため、通常のカメラボタンを非表示にする設定が必要 Command.prm ファイルに以下の設定を追記する @ButtonColor,505,F0C0FF,E0A0E0,FF0000,000000,off ※505：カメラボタン、OFF：非表示		
ToPattern	現在属性ペインに表示されている情報をマイパターンに登録する		69
UidFind	UID 検索ダイアログボックスの表示		71

8. PC-MAPPING 連携機能

『出簡調』では、『PC-MAPPING HT』と同様にプロジェクト(*.pcm)としてデータを保存します。
プロジェクトを編集することで、

- 調査項目の変更
- 必須入力項目の変更
- 背景地図の変更
- 調査員の変更

等を行うことができます。
『出簡調』と GIS ソフト『PC-MAPPING HT』の連携を行うこともできます。

8.1. 『出簡調』プロジェクトの構成

『出簡調』で使用するプロジェクトの構成です。

プロジェクト

Dekacho.pcm をもとに作成します。
『3.調査項目等を設定する』で作成した定義ファイルを使用して『出簡調』プロジェクトを作成した場合、Dekacho.pcm に定義ファイルで定義された調査項目や調査員リストが登録され、指定のファイル名で保存されます。

レイヤー

必須となるレイヤーは下記の2つです。

レイヤー名	レイヤーの役割
@Dekacho	システム用レイヤーです。 このレイヤーは編集せず使用します。
(定義ファイルで定義したレイヤー名)	調査項目の設定や調査結果の保存を行うレイヤーです。 調査項目とその選択肢は、ポイント内部属性のフィールドとして定義されます。 調査結果は定義されたフィールドのレコード値として保存されます。 調査項目以外にシステムが利用する以下のフィールドは必須となります。 この値は変更しないでください。 • UID • EndFLG • StaffID • 担当者 • 更新日時 また、キーリストに下記2つのキーを登録することで調査レイヤーとして認識します。 • @SurveyLayer • @DispArrow

描画パラメーター

必須となる描画パラメーターは下記の2つです。

描画パラメーター名	描画パラメーターの役割
@Dekacho Survey	システム用描画パラメーターです。 ※デフォルトで置き換えるため変更は非推奨。描画を変更したい場合は、別名の描画パラメーターを作成しセットしてください。
（定義ファイルで定義したレイヤー名）の描画パラメーター	定義ファイルで定義した調査レイヤーに対応する描画パラメーターです。 「ポイント（ノード）描画パターン」を変更することで、『出簡調』のポイント表示シンボルを変更することができます。

属性データベース

必須となる属性データベースは下記の2つです。

属性データベース名	属性データベースの役割
M_Staff	調査員リストを登録する属性データベースです。 この属性データベースのレコードを編集することで、『出簡調』で担当調査員の選択肢を変更することができます。
@（調査項目名）@dic	属性データベースのタイトルとなる調査項目が『3.3.5.2.択一選択（辞書引き）』の場合、選択肢をレコードとして登録します。 レコードを編集することで、選択肢を変更できます。

また、下記の属性データベースは必須ではありませんが、使用することで色入力項目の色の選択肢を設定することができます。

属性データベース名	属性データベースの役割
Color	システム用属性データベースです。 色入力項目の色の選択肢をカスタマイズする場合、この属性データベースに色を登録するとカスタマイズ色として表示します。

プロジェクトキーリスト

必須となるプロジェクトキーリストは下記の3つです。

キー	キーの役割
Compass	システム用のキーです。 値が“1”の場合、『出簡調』でコンパスを表示します。
CenterMarker	システム用のキーです。 値が“1”の場合、『出簡調』でセンターマーカーを表示します。
@SurveyLayerIndex	起動時に調査対象とする調査レイヤーを管理します。 対象となる調査レイヤーの内部 ID が値として登録されます。 このキーは、調査レイヤーが複数存在する場合に必要です。

8.2. NAV（PC-MAPPING レイヤーデータ）のポイント内部属性との対応関係

『3.3.5.調査項目の設定方法』で設定した調査項目は、NAV（『PC-MAPPING HT』レイヤーデータ）のポイント内部属性に保存されます。

初期設定ファイル内文字列	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
辞書入力項目,現況作物,	@@現況作物
作物名称,	@作物名称
辞書項目,小麦,1001	「作物名称」フィールドの選択肢として、@現況作物@dic テーブルに「Code=1001」、「Value=小麦」のレコードを格納
択一項目,択一選択	@@@択一選択
選択項目値 A,BOOL	@選択項目値 A
複数選択項目,複数選択	@@複数選択
選択項目値 A,BOOL	@選択項目値 A
文字入力項目,特記事項	@@特記事項
その 1,String	@その 1
数値入力項目,個別入力項目	@@個別入力項目
数値 Int,Integer	@数値 Int
数値 Long,LongInteger	@数値 Long
数値 Real,Real	@数値 Real
色入力項目,色	@@色
カラー,Color	@カラー
日付入力項目,日付	@@日付
日付/時刻,DateTime	@日付/時刻
調査員,901,Staff901	「M_Staff」属性データベースに「901,Staff901」を格納

※赤文字は、固定文字列ではない任意の文字列
※青文字は、参照する任意の文字列

8.3. 『出簡調』プロジェクトに地図データを追加する

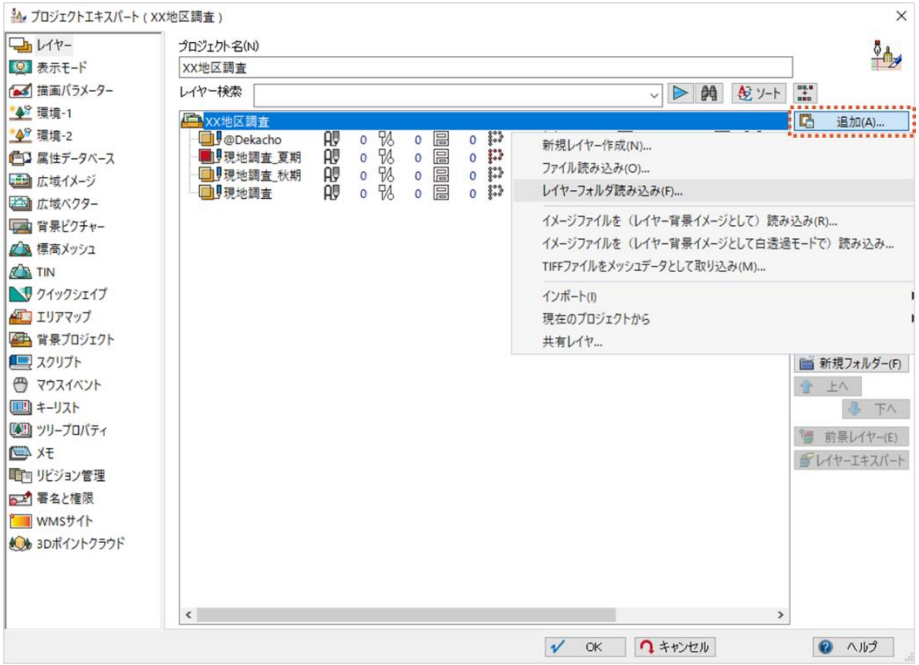
PC-MAPPING HT での操作

『出簡調』で使用するプロジェクトに対して、PC-MAPPING HT を用いて直接その他の地図データを取り込む手順について説明します。

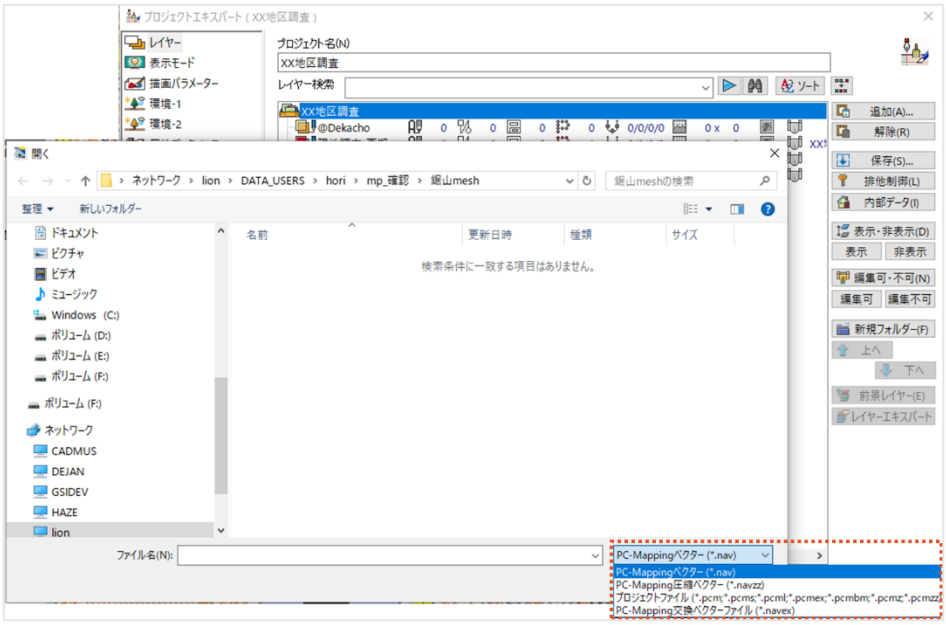
① 『3.調査項目などを設定する』で生成したプロジェクトファイルを PC-MAPPING HT で開きます。

② プロジェクトエキスパート「レイヤー」パネルを開きます。

③ 追加(A)... ボタンをクリックし、地図データを『出簡調』プロジェクトに追加します。
ここでは既存のプロジェクトデータから、地図データを読み込みます。
【ファイル読み込み】をクリックします。



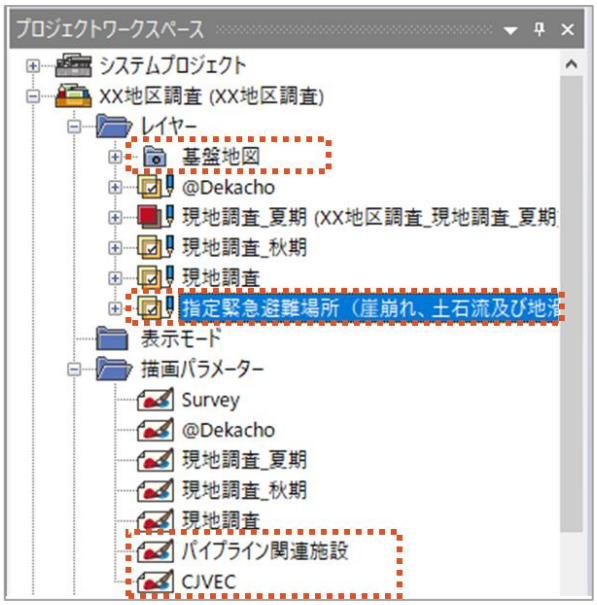
④ ファイルの種類をプロジェクトファイルに変更し、追加するプロジェクトデータを選択してください。



描画の設定や各種データベースのリンクがかかっているプロジェクトデータは、このメニュー

から実行することで、一緒に描画パラメーターや属性データベースを読み込みます。

⑤ プロジェクトワークスペースで、「基盤地図」レイヤーフォルダ、「指定緊急避難場所」レイヤー、描画パラメーターが取り込まれたことが確認できます。



⑥ 【上書き保存】を実行し、データの追加が完了します。
出簡調で開いて、表示されることを確認してください。

⑦ 以上のように、複数レイヤーを持たせる場合、『出簡調』においては、下図のイメージでレイヤーの表示・非表示を制御するコマンドをメニューに登録しておくことをお勧めいたします。

参照：『7.メニューをカスタマイズする』

コマンド：LayerDisp を実行した状態です。

レイヤーから追加できるメニューについては下記の通りです。

追加(A)... メニューについて
新規レイヤーの作成 ボタンを押すと、レイヤーの作成用のウィザードが開始されますので、レイヤー名と座標系の設定を行って下さい。 **ファイル読込み** 指定した PC-Mapping ベクターファイル(*.nav)、プロジェクトファイル(*.pcm/*.pcms)を開きます。 プロジェクトファイルを選択すると、そのプロジェクトファイルに登録されているレイヤー・描画パラメーター・属性データベースを読み込みます。 ボタンを押すと、[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択し、【OK】ボタンをクリックして下さい。 **レイヤーフォルダ読み込み** プロジェクトファイル(*.pcm)を指定して、プロジェクトのレイヤー全体を 1 つのフォルダ(タイトルは元のプロジェクトのタイトル)に取り込みます。 ボタンを押すと、[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択し、【OK】ボタンをクリックして下さい。 **イメージファイルを(レイヤー背景イメージとして)読み込み** [ファイルを開く]ダイアログボックスからイメージを指定します。 そのイメージに有効な座標情報(※ペーパー座標以外)があればその座標を反映して、なければイメージのサイズと解像度からペーパー座標を算出し、レイヤーの座標系として新規にレイヤーを作成、その背景イメージとして登録します。 **インポート** メニューにカーソルを移動すると、インポート可能な外部形式の一覧が表示されます。 **現在のプロジェクトから** 現在 PC-MAPPING 上で開かれている他のプロジェクト内のレイヤーを指定して取り込みます。

8.4. 『出簡調』プロジェクトをマージする

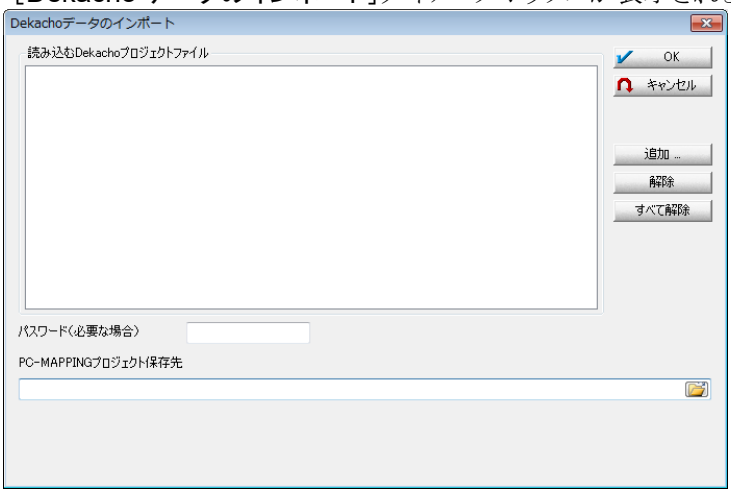
『出簡調』の複数のプロジェクトをマージし、1つのプロジェクトを作成します。

PC-MAPPING HT での操作

- PC-MAPPING HT ［拡張機能］-［出簡調 2 データインポート］（**コマンド**：DekachoImport）
  ※『出簡調』においても、類似の機能として『6.1.起動オプション』記載の通り、複数の『出簡調』プロジェクトをマージする「プロジェクト統合ツール」をご利用いただけます。

① ［**拡張機能**］-［**出簡調 2 データインポート**］メニュー（DekachoImport）を実行します。

② ［**Dekacho データのインポート**］ダイアログボックスが表示されます。



読み込む Dekacho プロジェクトファイル
【**追加**】ボタンにより指定されたプロジェクトファイルの一覧を表示します。

【追加】ボタン
【**追加**】ボタンをクリックすると、［**ファイルを開く**］ダイアログボックスが表示されます。
読み込むファイルを指定してください。ここで指定したファイルが、「**読み込む Dekacho プロジェクトファイル**」一覧に追加されます。

【解除】ボタン
「**読み込む Dekacho プロジェクトファイル**」一覧から解除するプロジェクトを選択後、【**解除**】ボタンをクリックすると、指定したプロジェクトが一覧から解除されます。

【すべて解除】ボタン
「**読み込む Dekacho プロジェクトファイル**」一覧に登録されているプロジェクトをすべて解除します。

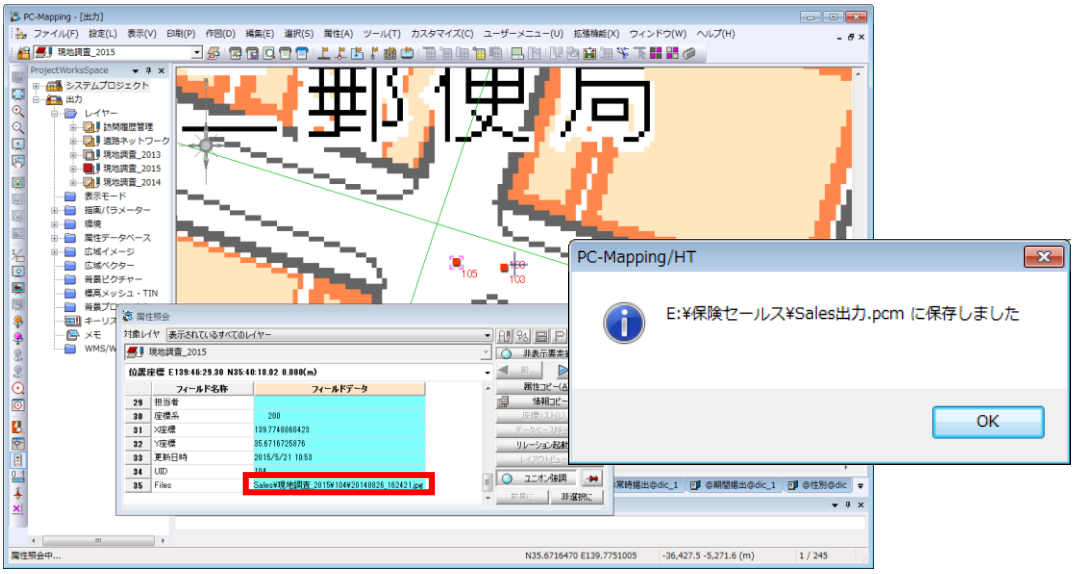
パスワード
プロジェクトにパスワードが設定されている場合、入力してください。

PC-MAPPING プロジェクト保存先
読み込んだファイルを保存するファイル名を設定してください。

【OK】ボタン
設定を反映してインポートを実行します。

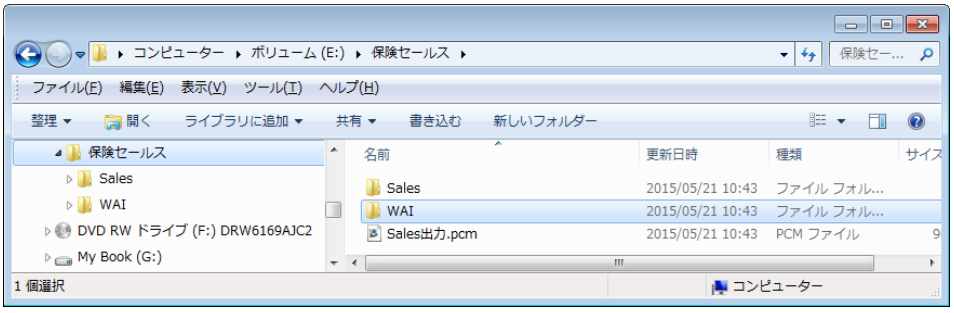
【キャンセル】ボタン
設定を破棄して、［**Dekacho データのインポート**］ダイアログボックスを閉じます。

③ 設定後【OK】ボタンをクリックすると、処理を実行し、プロジェクトデータを PC-MAPPING に取り込み、メッセージボックスを表示します。

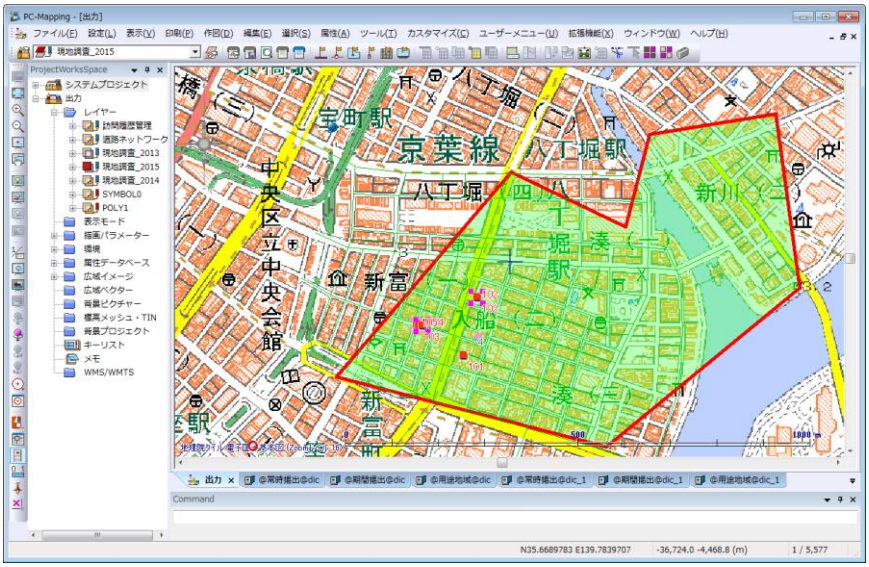


メニュー実行により生成されたプロジェクトには、調査レイヤーのポイント内部属性に「Files」フィールドが追加され、「Files」フィールドにパス名とファイル名を登録します。

④ 現地写真、画像、音声ファイル等が登録されている場合は、元プロジェクトの先頭に指定されるプロジェクト名のフォルダが作成され、元プロジェクトがあるフォルダの
(元プロジェクトと同名のフォルダ)¥(調査レイヤー名)
となるフォルダをコピーします(プロジェクト数分)。



⑤ 「メモ」作図の情報は、『出簡調』終了時に、「(プロジェクト名)_shp.kmz」の命名法則で、KML 形式で保存されています。
「メモ」作図情報を読み込む場合は、保存された KML データを、インポートして、レイヤーデータに変換してください。



8.5. 『出簡調』プロジェクトをエリアごとに作成する

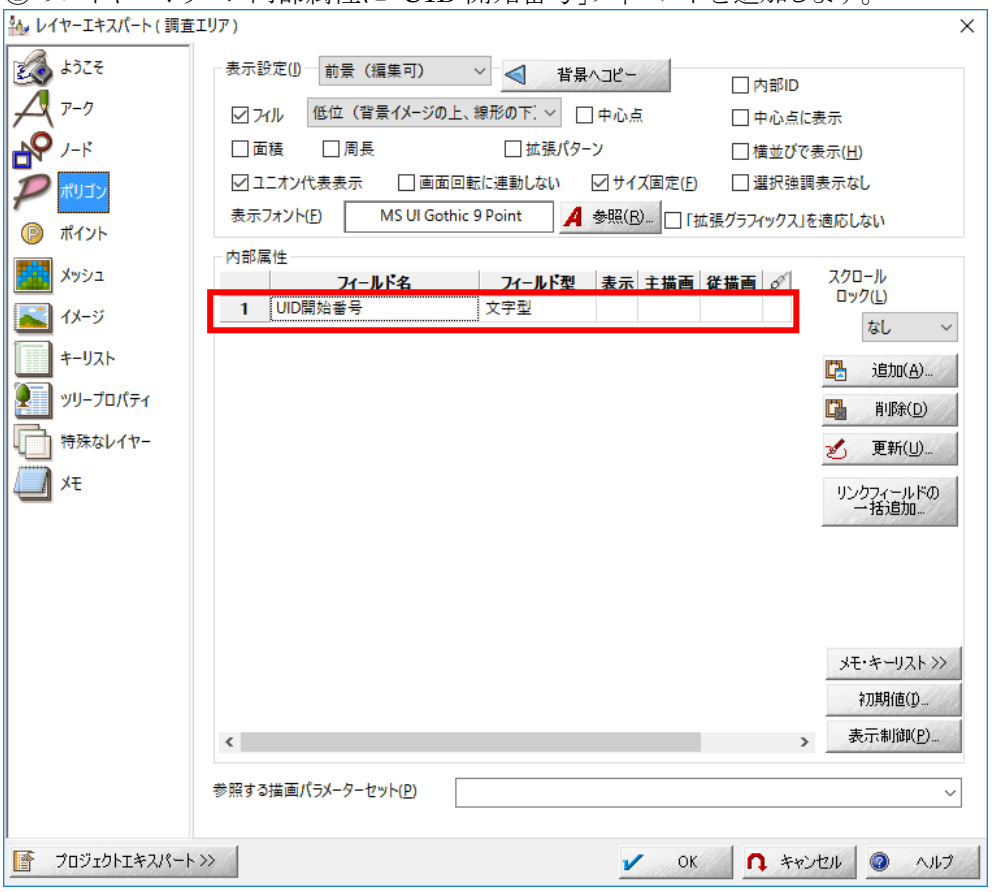
この機能は、現在アクティブなプロジェクトから、調査エリアごとに生成したポリゴン単位に『出簡調』プロジェクトを生成します。

PC-MAPPING HT での操作

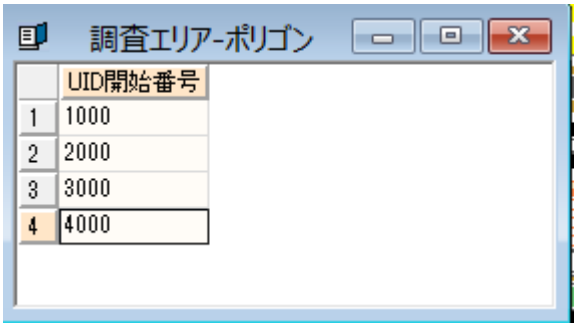
- PC-MAPPING HT[拡張機能]-[出簡調 2 プロジェクト生成](コマンド:DekachoPrj)

① 調査エリアを決定するポリゴンがあるレイヤーを前景にします。

② ①のレイヤーポリゴン内部属性に「UID 開始番号」フィールドを追加します。

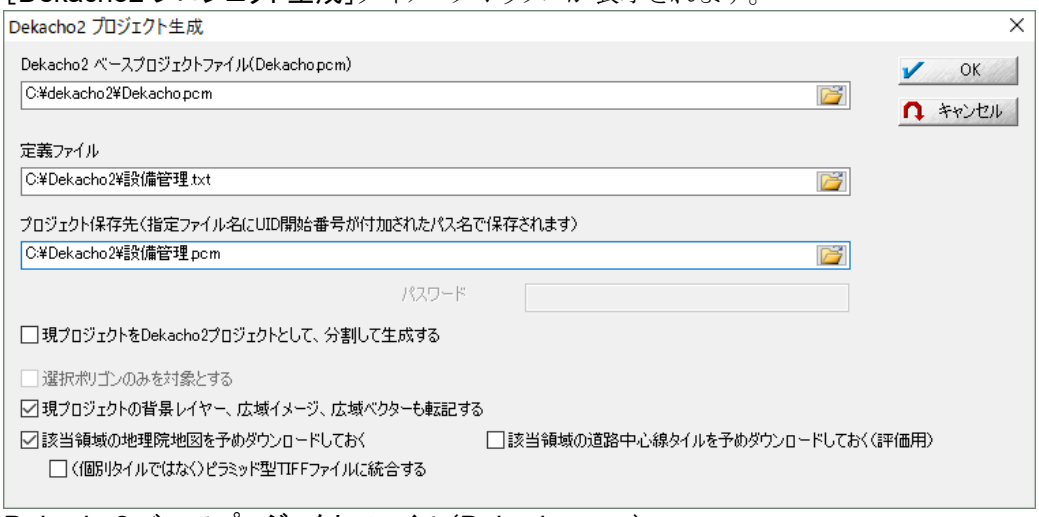


③ 「UID 開始番号」フィールドに値を入力します。
※UID 開始番号は整数値を指定します。「UID 開始番号」フィールドの値＋定義ファイルで指定した開始番号＋1 の値から UID が付与されます。



④ [拡張機能]-[出簡調 2 プロジェクト生成]メニュー(DekachoPrj)を実行します。

⑤ [Dekacho2 プロジェクト生成]ダイアログボックスが表示されます。



Dekacho2 ベースプロジェクトファイル(Dekacho.pcm)

指定した「Dekacho.pcm」に定義された設定を基にプロジェクトを生成します。
「Dekacho.pcm」から引き継がれる設定は、システム用設定です。古い「Dekacho.pcm」を使用して作成したプロジェクトでは、正常な動作を行えない場合があります。最新の「Dekacho.pcm」を指定してください。

定義ファイル

調査項目等を設定した定義ファイル(『3.調査項目などを設定する』で作成したファイル)を指定します。
元となるプロジェクトに既に定義ファイルで指定したレイヤーと同一タイトルのレイヤーがあれば、元のポイント内部属性フィールドタイトルに$を付けて、定義ファイルで指定した内部属性を追加します。
ただし、システムが利用する以下のフィールドと定義された属性フィールドタイトルに一致するフィールドはそのまま再利用されます。

・NoID
・EndFLG
・StaffID
・担当者
・更新日時

レイヤーのキーリストには、
@SurveyLayer
@DispArrow
の2つのキーが追加されます。

プロジェクト保存先(指定ファイル名に UID 開始番号が付加されたパス名で保存されます)

生成したプロジェクトの保存先を指定します。プロジェクトファイル名は、指定したファイル名に UID 開始番号が付加されたパス名で保存されます。

「現プロジェクトを Dekacho2 プロジェクトとして、分割して生成する」チェックボックス

前景レイヤーのポリゴンでアクティブなプロジェクトを分割します。
また、ポリゴン内部属性「UID 開始番号」フィールドの値を UID 開始番号としてプロジェクトに設定します。
※現地写真フォルダは付随しません。

「選択ポリゴンのみを対象とする」チェックボックス

チェックボックスが ON の場合、選択されたポリゴンのみを調査エリアとして『出簡調』プロジェクトを生成します。

「現プロジェクトの背景レイヤー、広域イメージ、広域ベクターも転記する」チェックボックス

現在のプロジェクトに登録されているレイヤーを背景レイヤーとして、また登録されている広域イメージ、広域ベクターを生成するプロジェクトに追加します。表示されているレイヤーのみが対象となります。
また、メニュー実行時の前景レイヤーは対象外となります。

「該当領域の地理院地図を予めダウンロードしておく」チェックボックス

チェックボックスが ON の場合、該当領域の地理院地図を予めダウンロードし、生成するプロジェクトに設定します。
これにより該当領域の地理院地図のデータをローカルディスクに保存し、ネットワーク環境がない場合においても背景地図を表示することができます。

「(個別タイルではなく)ピラミッド型TIFFファイルに統合する」チェックボックス

Dekacho2 プロジェクトの背景画像として 1 枚の TIFF ファイルのみで全領域、全ズームレベルを網羅させることができます。

「該当領域の道路中心線タイルを予めダウンロードしておく(評価用)」チェックボックス

チェックボックスが ON の場合、該当領域の道路中心線タイルを予めダウンロードし、生成するプロジェクトに設定します。
これにより該当領域の道路中心線タイルのデータをローカルディスクに保存し、ネットワーク環境がない場合においても背景地図を表示することができます。

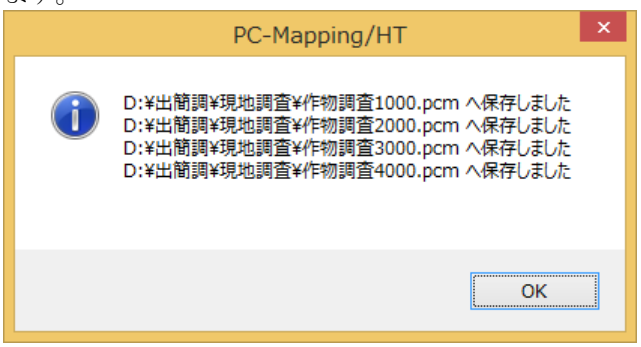
【OK】ボタン

設定した内容に従いプロジェクトを生成します。
すでに同名のプロジェクトが存在する場合にはメッセージが表示されます。

【キャンセル】ボタン

変更された設定を破棄してダイアログボックスを閉じます。

⑥ 設定後、【OK】ボタンをタップすると『出簡調』プロジェクトを生成し、メッセージボックスを表示します。



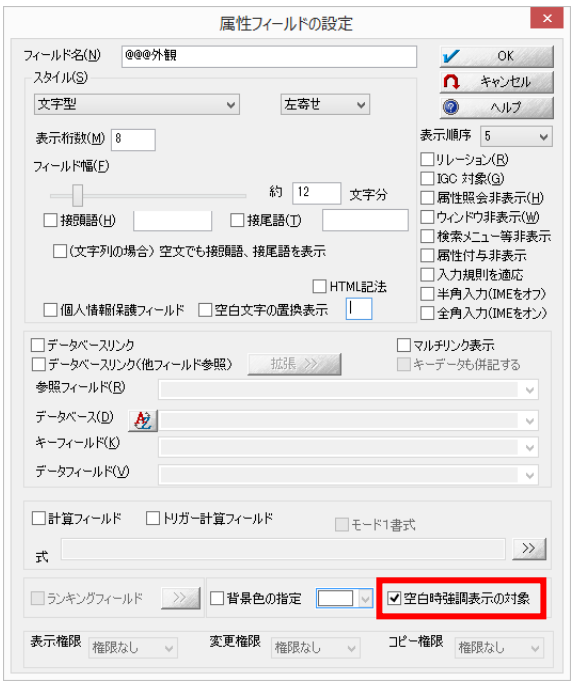
メッセージボックスは、【OK】ボタンで閉じてください。

8.6. 『出簡調』プロジェクトの設定を変更する

『PC-MAPPING HT』を使用して、『出簡調』プロジェクトの設定を変更することができます。

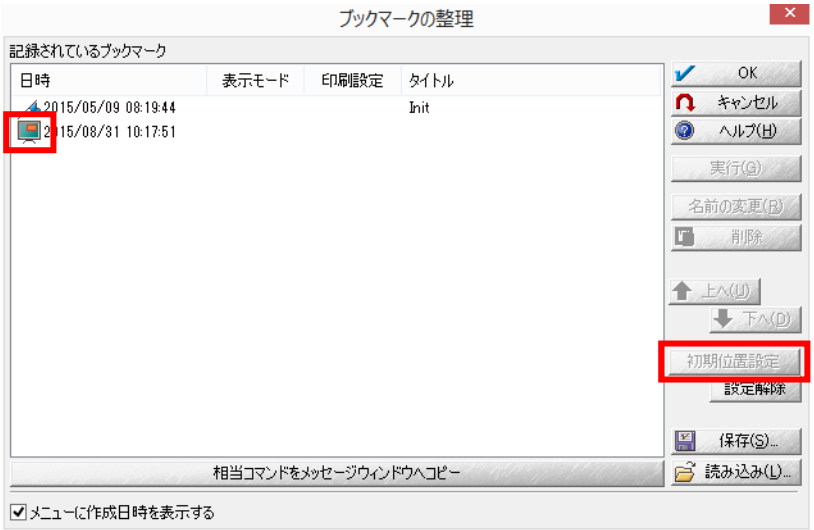
8.6.1. 必須入力項目の設定

『PC-MAPPING HT』で必須入力項目を設定する場合は、対象となるフィールドの[属性フィールドの設定]ダイアログボックスを開き、「空白時強調表示の対象」チェックボックスをONにしてください。



8.6.2. 初期表示領域の設定

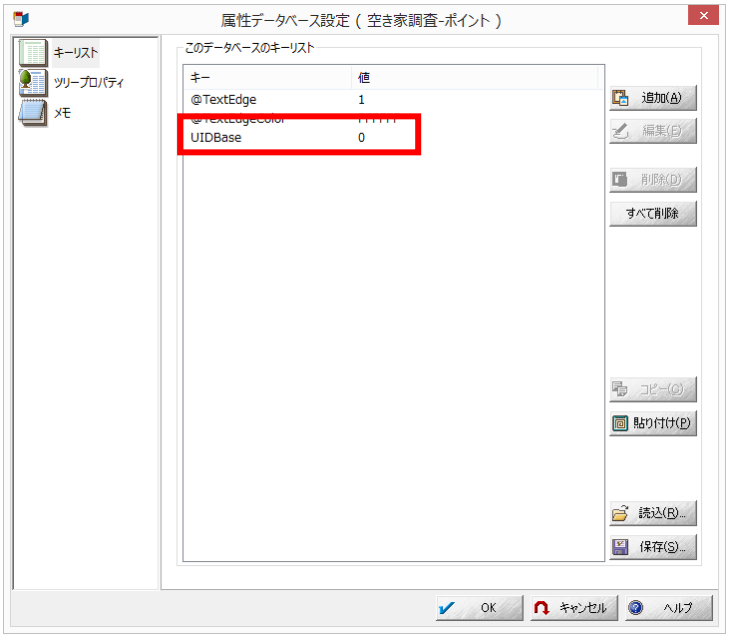
『出簡調』で設定した初期表示領域は、『PC-MAPPING HT』ではプロジェクトのブックマークに格納されます。
[ブックマークの整理]ダイアログボックスで「初期位置設定」に設定されているブックマークが『出簡調』起動時に表示領域の初期状態としてセットされます。
定義ファイルによって新規にプロジェクトを生成した場合には生成時に指定するKML又はURLによってブックマークが登録されます。



8.6.3. UID の初期値の設定

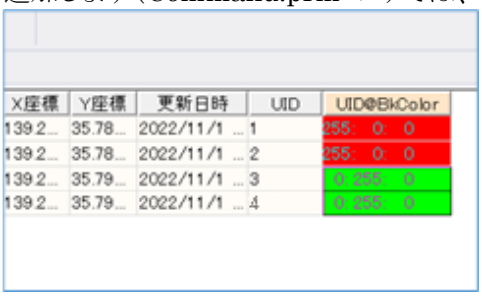
UID の初期値はプロジェクト**定義ファイル**及び『**新規プロジェクト生成ツール**』にて設定が行えます。プロジェクト定義ファイル、新規プロジェクト生成ツールのどちらにも値が設定されていた場合は、最終的に設定される初期値はそれらを合算した値となります。

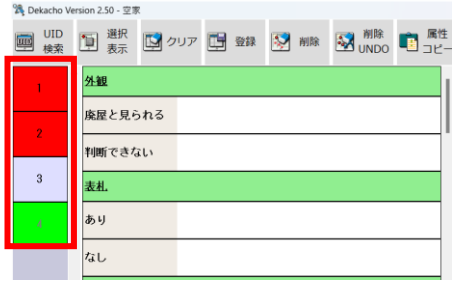
設定された初期値はレイヤーのポイント属性データベースのキーリストに「UIDBase」として設定されます。
『PC-MAPPING HT』でこの値を変更することで、『**出簡調**』プロジェクトの UID の初期値を変更することができます。



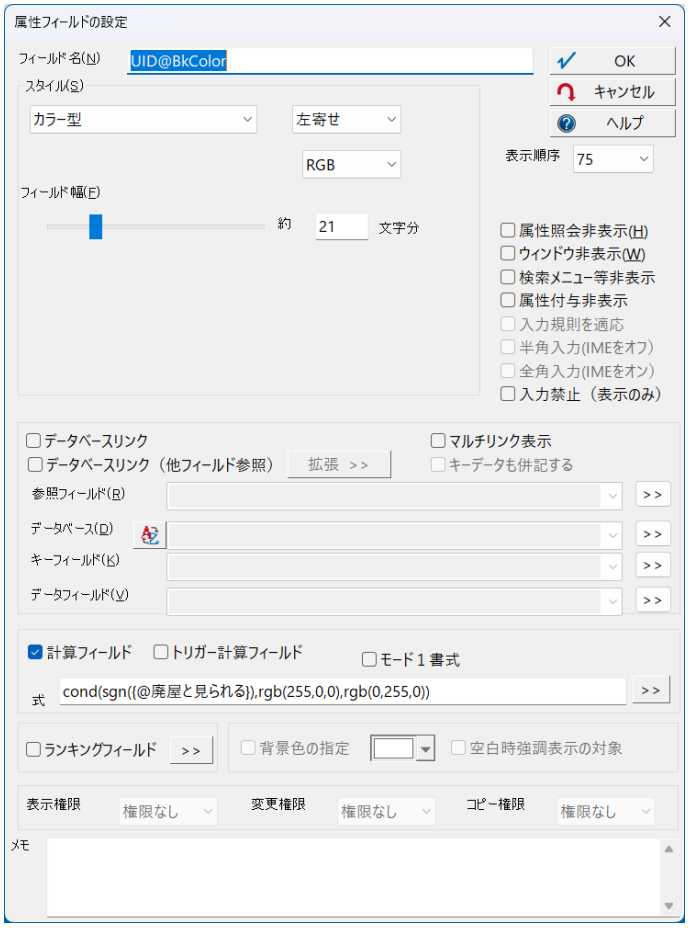
8.6.4. UID リスト背景色の設定（UID 部分の色を設定する）

UID リストの未選択時の背景色の設定は、メニュー設定ファイル Command.prm でも可能ですが（「7.5.システム制御コマンド」-「@ID 背景色」を参照（Command.prm））、ポイント毎に個別に設定を行いたい場合は、PC-MAPPING でポイント内部属性にカラー型フィールド「UID@BkColor」を追加します（Command.prm のみでは、レコードごとの個別の制御は行えません）。



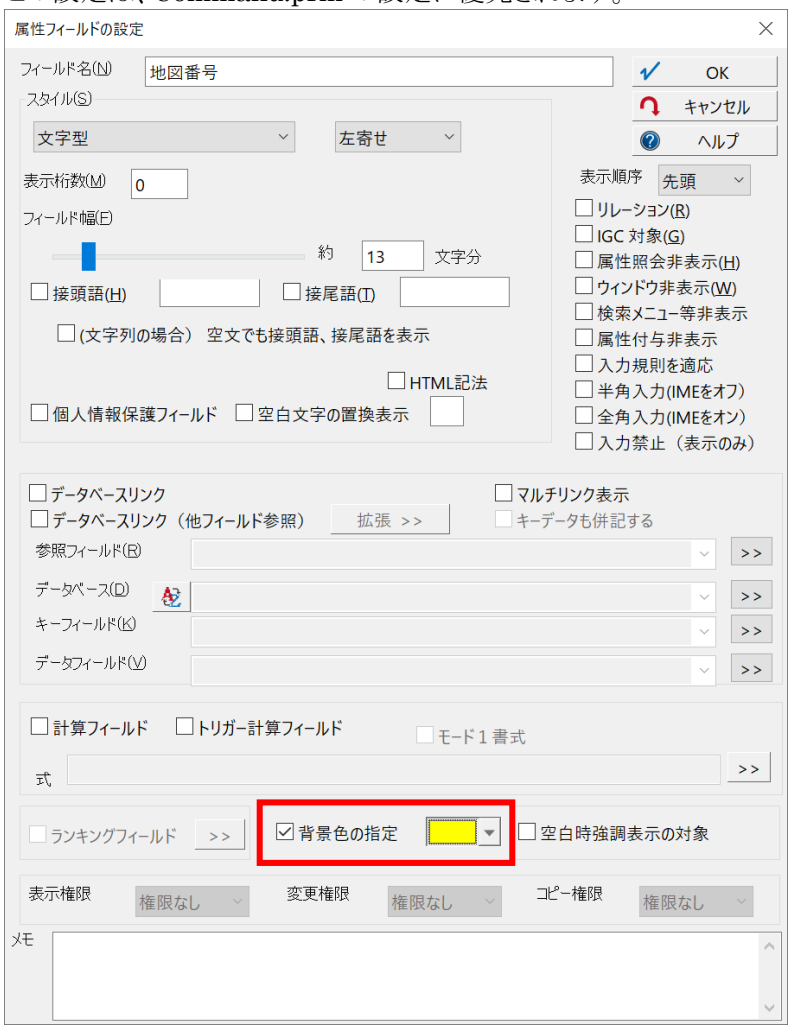


計算フィールドの利用により、調査項目の入力値による背景色の制御が可能です。
例：Cond(sgn({(フィールド名)}),rgb(255,0,0) rgb(0,255,0))
　当該項目が入力の場合背景色を赤、未入力済の場合背景色を緑に設定する。



8.6.5. 属性リストボックスの背景色の設定

属性リストボックスの背景色の設定は、メニュー設定ファイル Command.prm でも可能ですが（「7.5.システム制御コマンド」-「@択一項目タイトル色」等を参照（Command.prm））、個別に設定を行いたい場合は、PC-MAPPING で［属性フィールド設定］ダイアログの「背景色の指定」のチェックをオンにし、任意の背景色を指定します。
この設定は、Command.prm の設定に優先されます。



8.6.6. ポイント描画キーの設定

ポイントの描画キーは次の三種類で構成されます。

数値	内容
0	未調査(ポイントを作成したまま属性の入力が行われていない状態)
1	調査済(作成したポイントの必須項目について属性が入力されている状態)
2	調査済(作成したポイントに属性が入力されているが必須項目について未入力箇所がある状態)

ポイントの凡例のキャプションは Dekacho.pcm の描画パラメータセット「Survey」に設定されているキャプションに依存しています。
プロジェクト定義ファイルで指定したシンボルアイコンはプロジェクト生成時に Dekacho.pcm の描画パラメータセット"Survey"に設定されているシンボルから置き換えて設定されます(定義ファイル上でシンボルが未設定の場合には Dekacho.pcm で設定されているデフォルトのシンボルが設定されます)。
この描画パラメーターを編集することで、『出簡調』プロジェクトのシンボルを変更することができます。

8.6.7. コンパス・センターマーカーの設定

表示・非表示の切り替えは地図回転コマンド「ZoomRotate」で表示されるダイアログにて行います。
設定はプロジェクトに保存されます。

キーリスト	内容
Compass	コンパスの表示設定(0:非表示／1:表示)
CenterMarker	センターマーカーの表示設定(0:非表示／1:表示)

設定はシステム終了時の状態が保持されます。

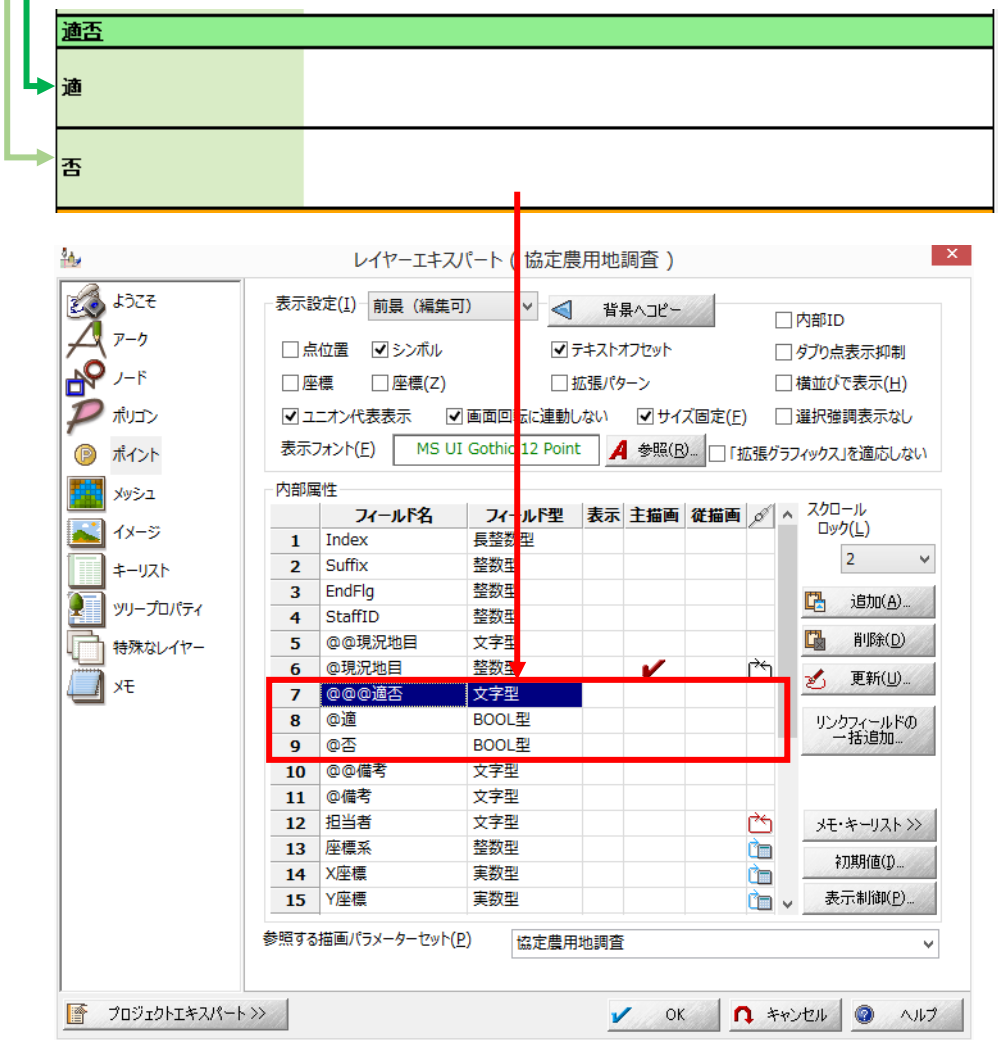
8.6.8. 調査項目の設定

調査レイヤーのポイント内部属性を編集することで、『出簡調』プロジェクトの調査項目を変更することができます。

<u>択一選択（1 項目＝1 行）</u>

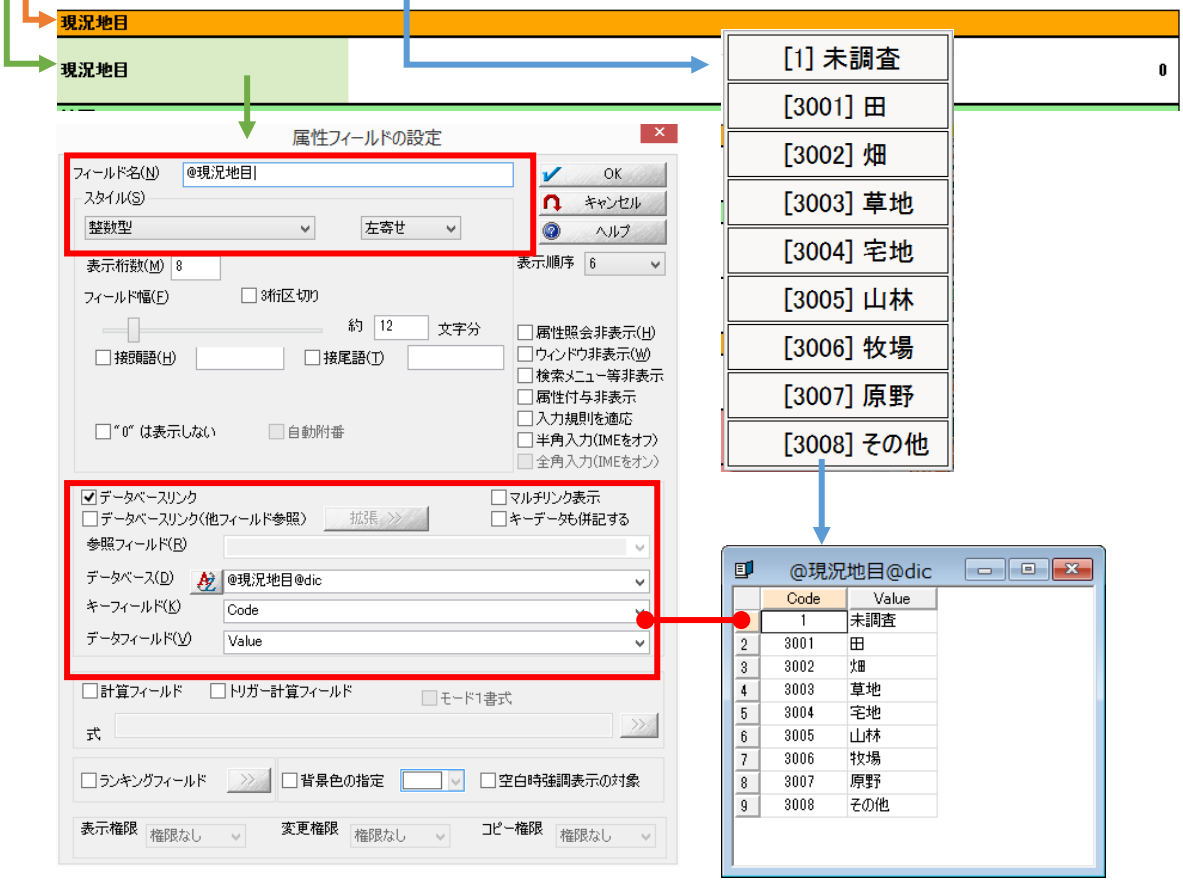
調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
択一選択（1 項目＝1 行）項目	記述例：@@@適否 調査項目名とする文字列の前に“@@@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
選択肢	記述例：@適 「適否」フィールドの選択肢をフィールドとして追加します。 選択肢とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「BOOL 型」を選択します。

※フィールド名の頭に「#」を付けると、グレーアウトし、編集不可項目になります。



択一選択(辞書引き)

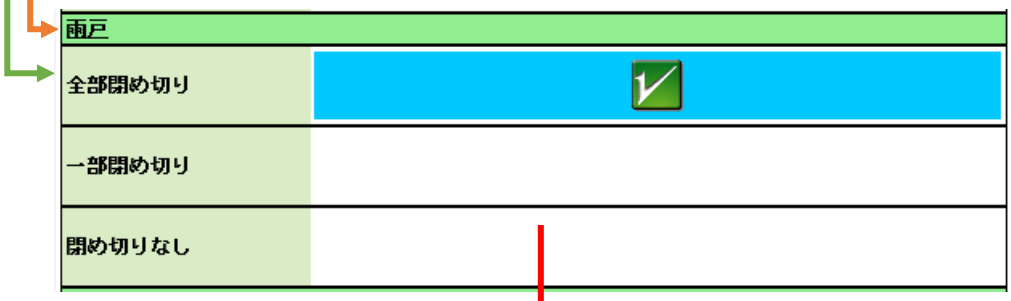
調査項目の種類	NAV ポイント内部属性(フィールド名)
択一選択(辞書引き)タイトル	記述例:@@現況地目 タイトルとする文字列の前に"@@"を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
択一選択(辞書引き)項目	記述例:@現況地目 調査項目名とする文字列の前に"@"を付加します。 スタイルは「整数型」を選択します。
選択肢	「現況地目」フィールドの選択肢として、@現況地目@dic 属性データベースに「Code」、「Value」を追加します。 また、「@現況地目」フィールドの「属性フィールドの設定」で「@現況地目@dic」属性データベースにデータベースリンク設定を行います。 • 「データベースリンク」チェックボックス:ON • 「データベース」:@現況地目@dic • 「キーフィールド」:Code • 「データフィールド」:Value

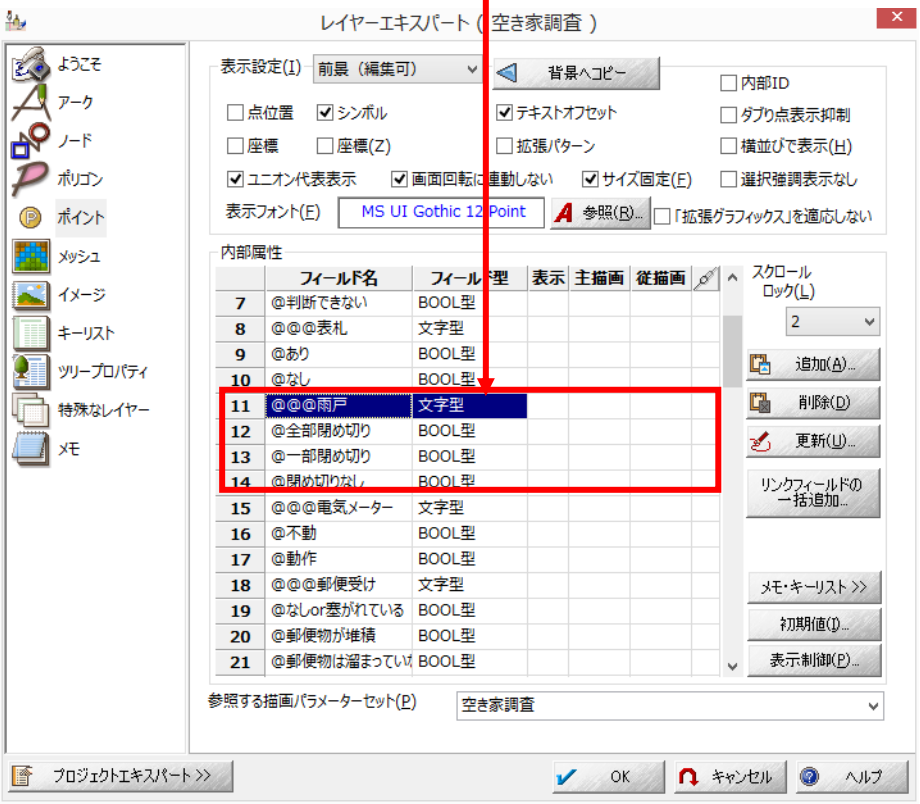


ヒント
PC-MAPPING において、データベースリンクをしているフィールドでは、データ入力時に、データベースリンクの選択肢以外に「その他」として手入力が可能です。
出簡調では、PC-MAPPING 同様に、ini ファイル(Dekacho.ini)への記述で「その他手入力」が有効になります。ただし、入力時は属性フィールドのスタイルに依存するため、選択肢のフィールドで「文字型」を選択してください。

複数選択(1 項目＝1 行)

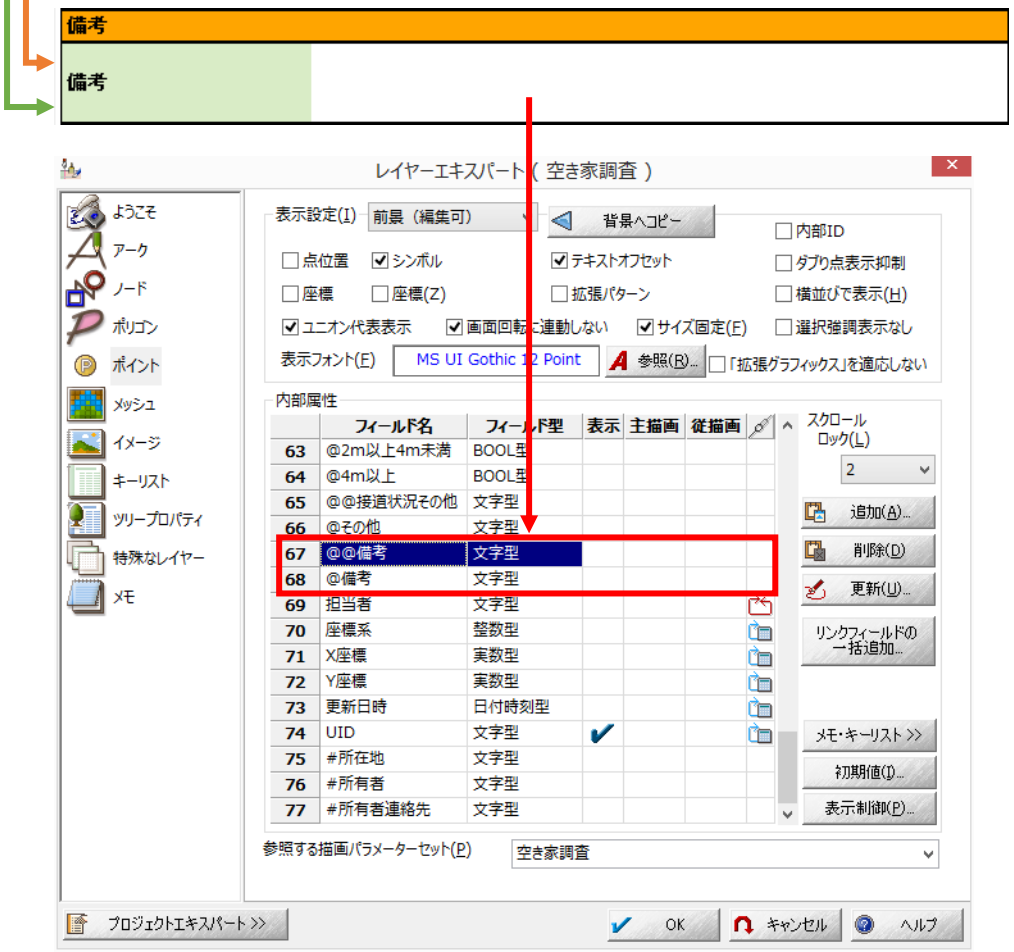
調査項目の種類	NAV ポイント内部属性(フィールド名)
複数選択(1 項目＝1 行)項目	記述例:@@雨戸 調査項目名とする文字列の前に“@@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
選択肢	記述例:@全部閉め切り 「雨戸」フィールドの選択肢をフィールドとして追加します。 選択肢とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「BOOL 型」を選択します。





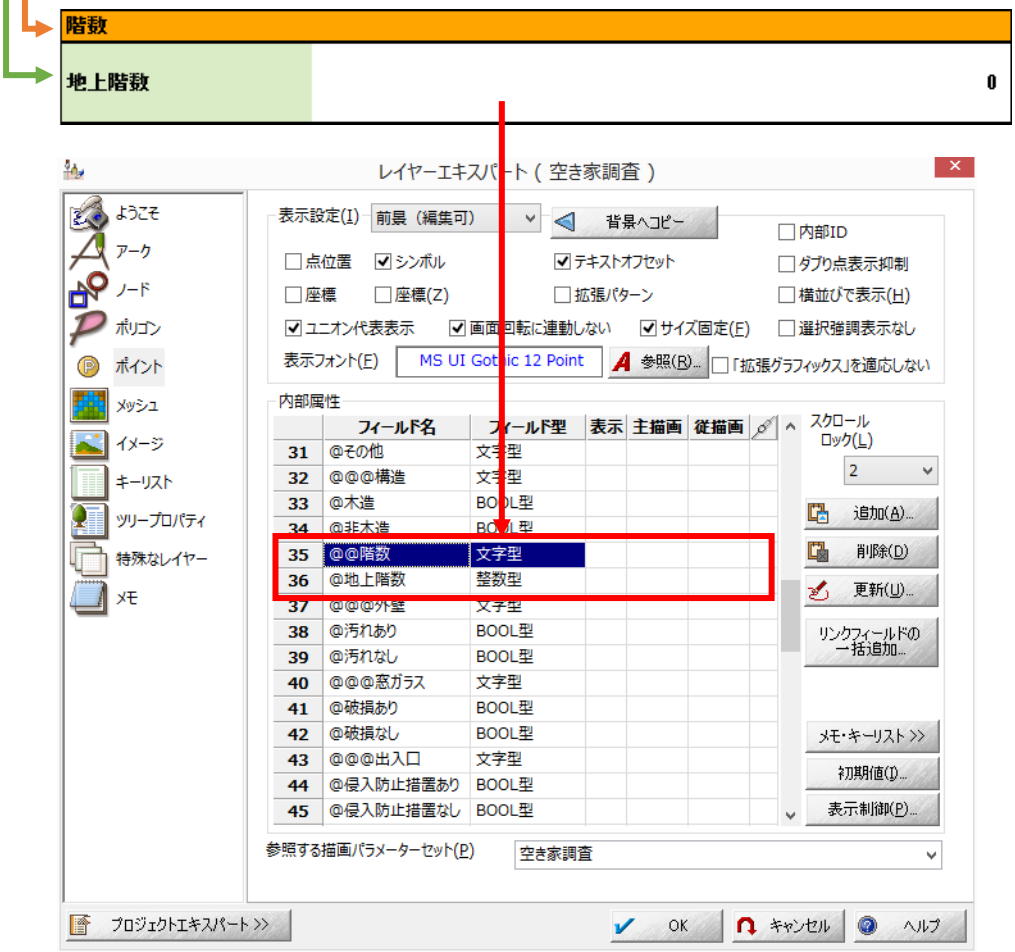
文字入力

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
文字入力タイトル	記述例：@@備考 タイトルとする文字列の前に“@@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
文字入力項目	記述例：@備考 調査項目名とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。



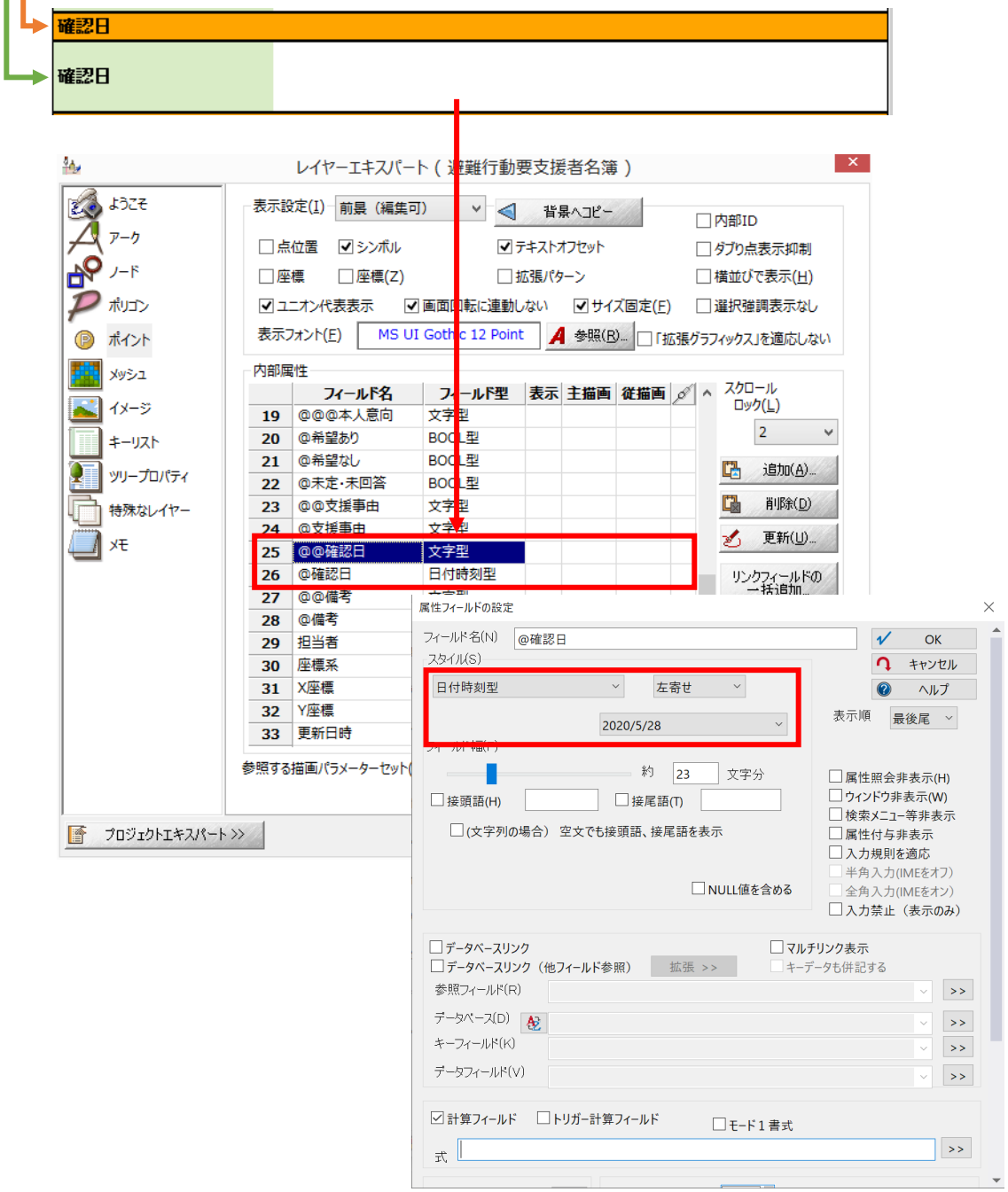
数値（整数、長整数、実数）

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
数値入力タイトル	記述例：@@階数 タイトルとする文字列の前に“@@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
数値入力項目	記述例：@地上階数 調査項目名とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「整数型」、「長整数型」、「実数型」を選択します。



日付・時刻

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
日付・時刻入力タイトル	記述例：@@確認日 タイトルとする文字列の前に“@@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
数値入力項目	記述例：@確認日 調査項目名とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「日付時刻型」を選択します。 「属性フィールドの設定」のスタイルで、表示スタイルを選択します。

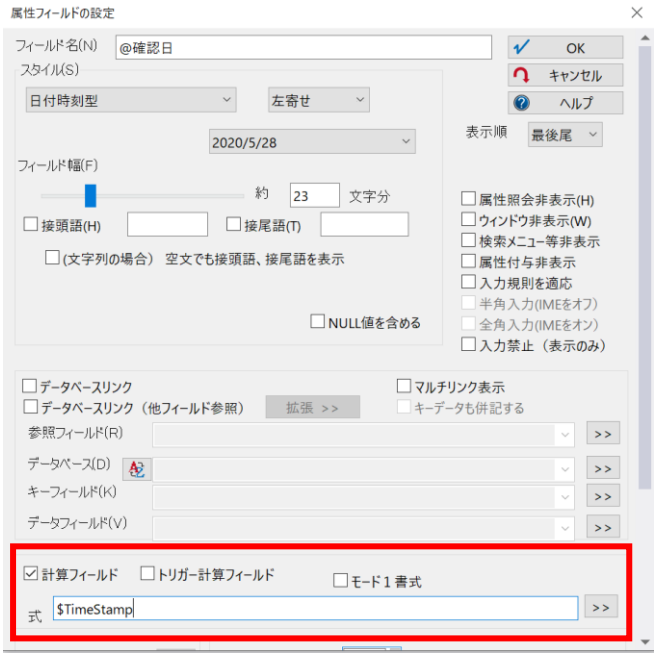


ヒント：計算フィールド「環境変数」の使用

各ベクターの内部属性フィールドの「属性フィールドの設定」において、「計算フィールド」チェックボックスを ON にし、計算式（$から始まる環境変数）を入力すると、その結果を参照して『出簡調』の当該調査項目欄に表示させることができます。

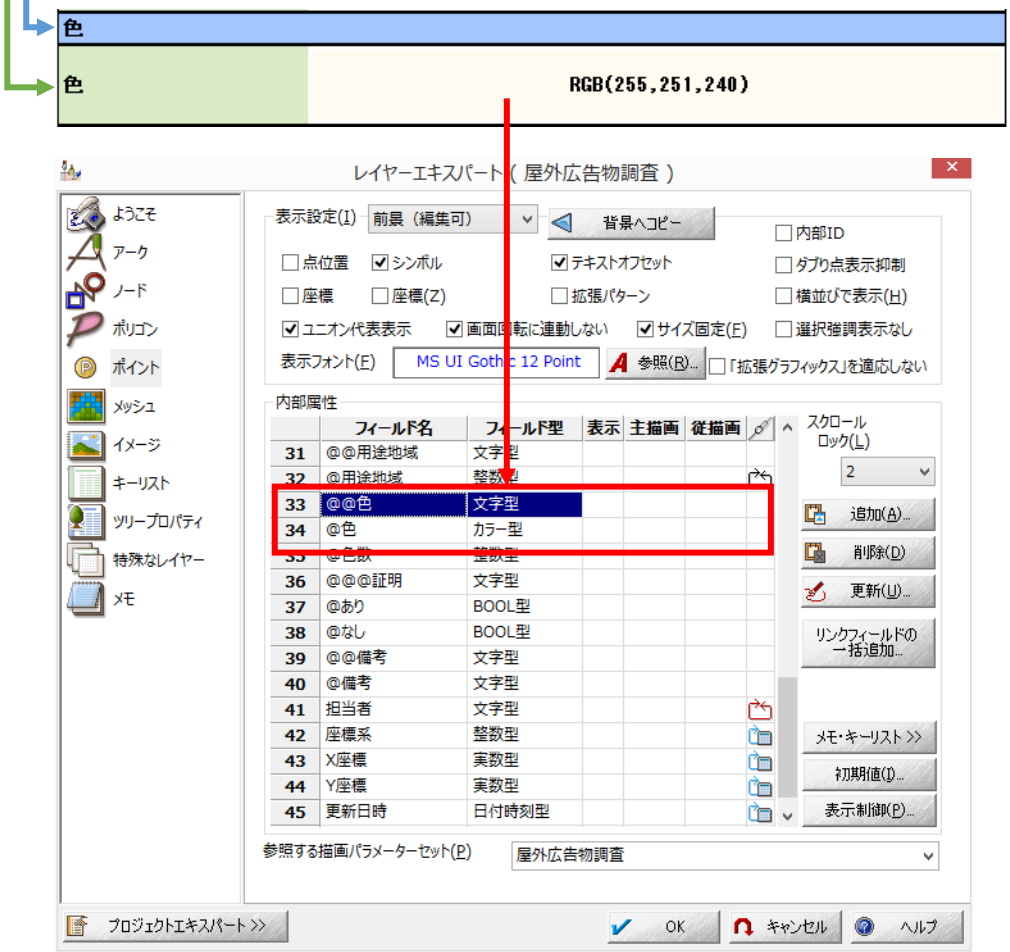
≪更新日時の自動取得≫

例えば、ベクターの更新日時を取得する関数「$TimeStamp」を入力することによって、『出簡調』で調査項目を入力し登録したときに、自動的に更新日時を取得して表示することができます。



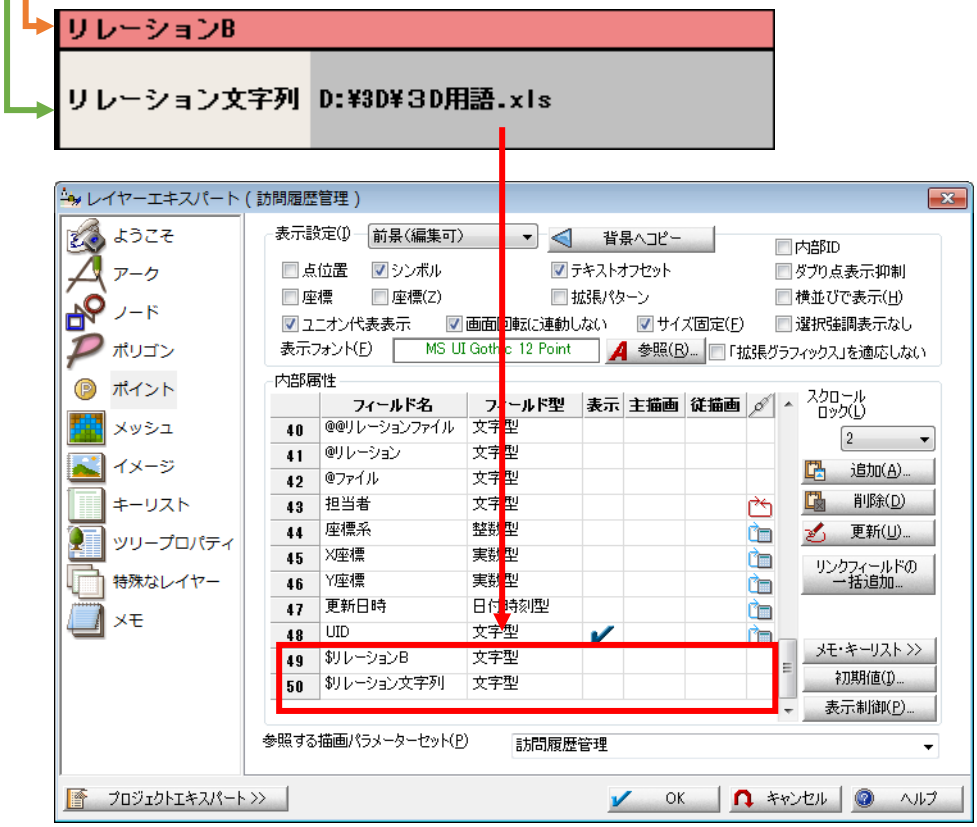
色

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性(フィールド名)
色入力タイトル	記述例:@@色 タイトルとする文字列の前に“@@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
色入力項目	記述例:@色 調査項目名とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「カラー型」を選択します。 色の選択肢は、ini ファイル(Dekacho.ini)または「Color」属性データベースで設定することができます。



リレーション（固定）

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
リレーションタイトル	記述例：$リレーション B タイトルとする文字列の前に“$”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
文字入力項目	記述例：$リレーション文字列 調査項目名とする文字列の前に“$”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。 該当フィールドの「属性フィールドの設定」ダイアログボックス「リレーション」チェックボックスを ON にします。



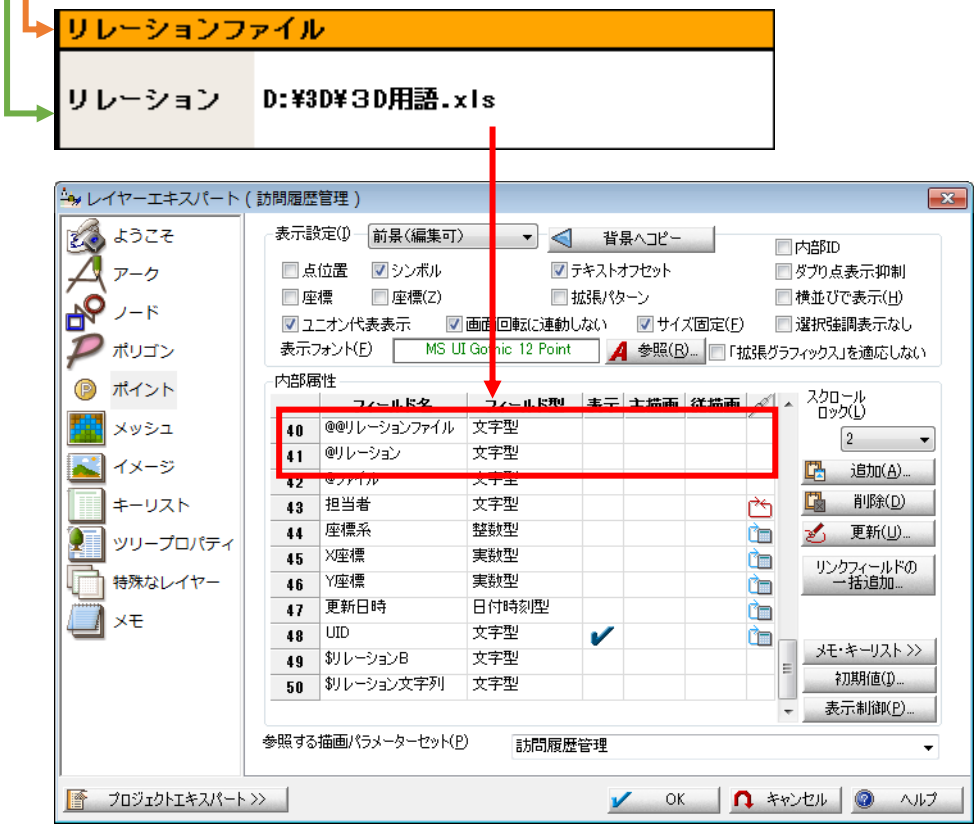
※この設定によるリレーションは、『出簡調』で編集は行えません。タップすると同時にリレーションファイルが開きます。

※あらかじめ対象となるファイルを登録しておきます。
このときに計算フィールドを使用して
「"G:¥¥保存管理計画書¥¥ファイリング¥¥" & {指定地番号} & "¥¥0¥¥*.jpg"」
のようにワイルドカードを指定して複数のファイルを指定することも可能です。

※参照フィールドで計算フィールドを使用してリレーションを設定した場合、『PC-MAPPING HT』等ではディレクトリ指定でリレーション起動時に指定したフォルダが開くように設定できますが『出簡調』ではこの機構はサポートされません。設定しても『出簡調』では無反応となります。

リレーション

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
リレーションタイトル	記述例：@@リレーションファイル タイトルとする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
文字入力項目	記述例：@リレーション 調査項目名とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。 該当フィールドの「属性フィールドの設定」ダイアログボックス「リレーション」チェックボックスを ON にします。

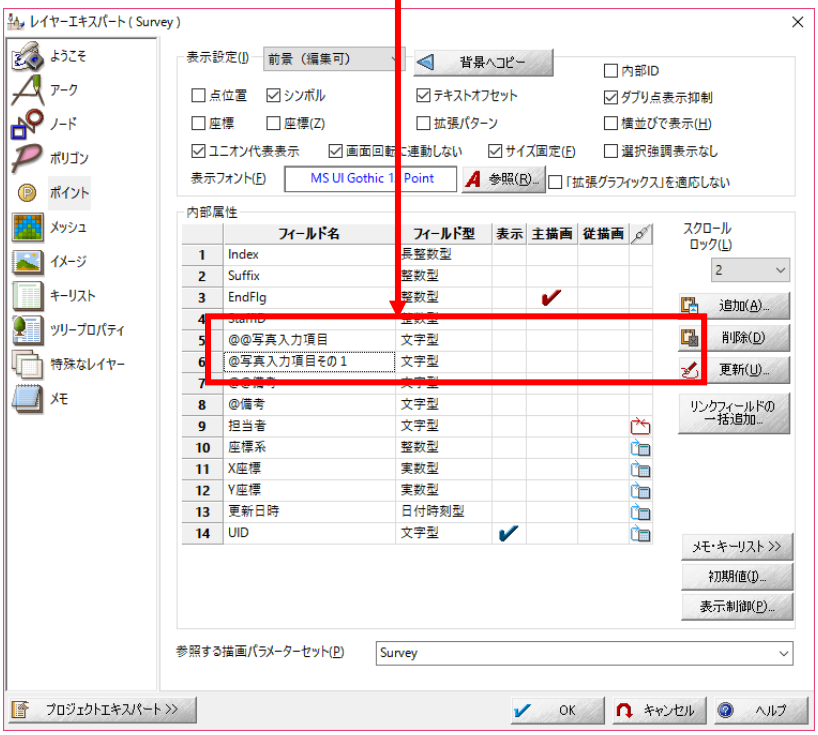


※この設定の場合、DoRelation コマンドで、リレーションフィールドを指定する必要があります。

写真入力項目

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
写真入力項目タイトル	記述例：@@写真入力項目 タイトルとする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
文字入力項目	記述例：@写真入力項目その１ 調査項目名とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。 該当フィールドの「属性フィールドの設定」ダイアログボックス「リレーション」チェックボックスを ON にします。 該当フィールドの「メモ」欄に固定文字列” @PHOTO@”を記述します。

写真入力項目	
写真入力項目その１	C:¥Dekac...¥1-20170621-173047-1.jpg

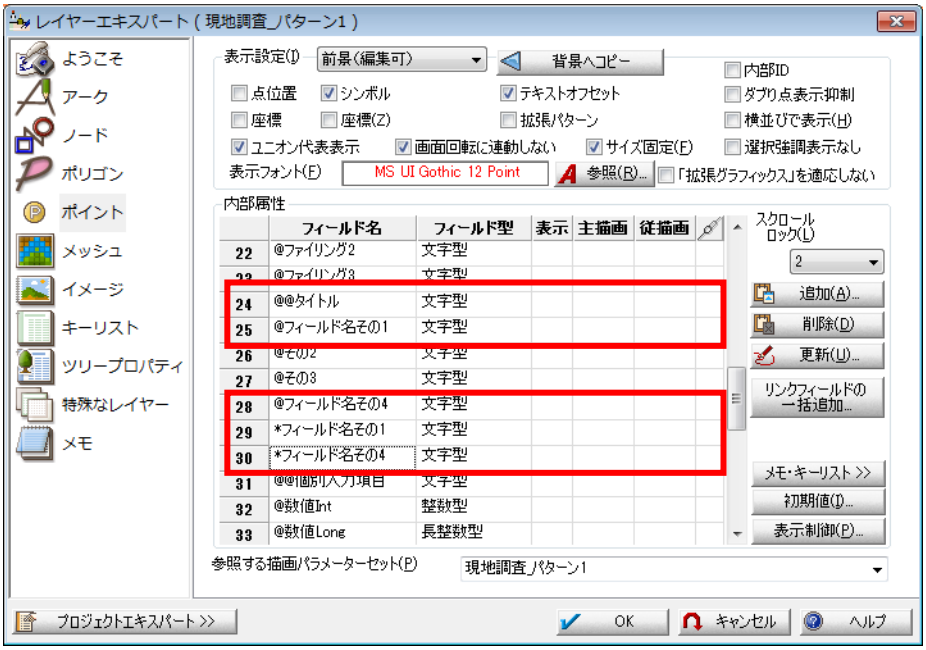


属性データの比較

「@フィールド名」と同じ文字列を持つ「*フィールド名」がある場合、「*フィールド名」を編集不可の参照用データとして「@フィールド名」と同じレコードに表示します。

調査項目の種類	NAV ポイント内部属性（フィールド名）
タイトル	記述例：@@タイトル タイトルとする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは「文字型」を選択します。
文字入力項目 下図①	記述例：@フィールド名その 1 @フィールド名その 4 調査項目名とする文字列の前に“@”を付加します。 スタイルは限定しません。
参照用文字表示項目 下図②	記述例：*フィールド名その 1 *フィールド名その 4 参照項目名とする文字列の前に“*”を付加します。 「@フィールド名」のフィールド名と一致するフィールド名を参照して表示します。 『出簡調』では、編集不可フィールドになります。記述する順番は問いません。

タイトル		
フィールド名その1	過去文字列 ②	現在文字列 ①
その2	参照なし	
その3		
フィールド名その4	過去その４ ②	現在その４ ①



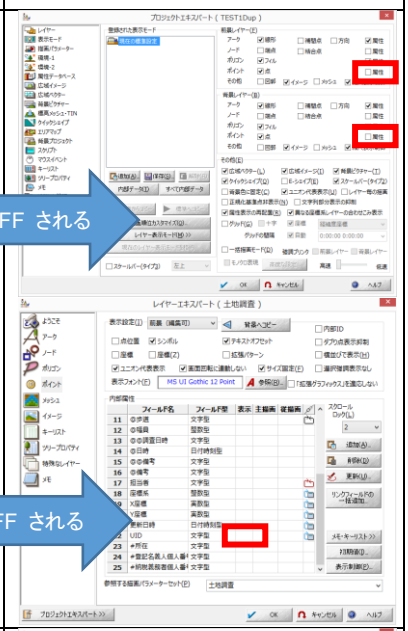
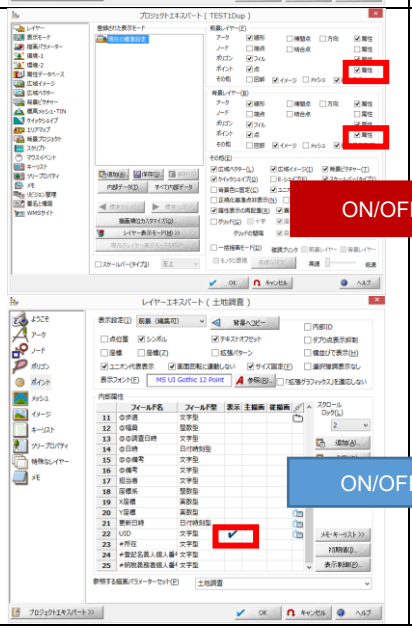
8.7. PC-MAPPING との連携（オプション）

PC-MAPPING HT での操作

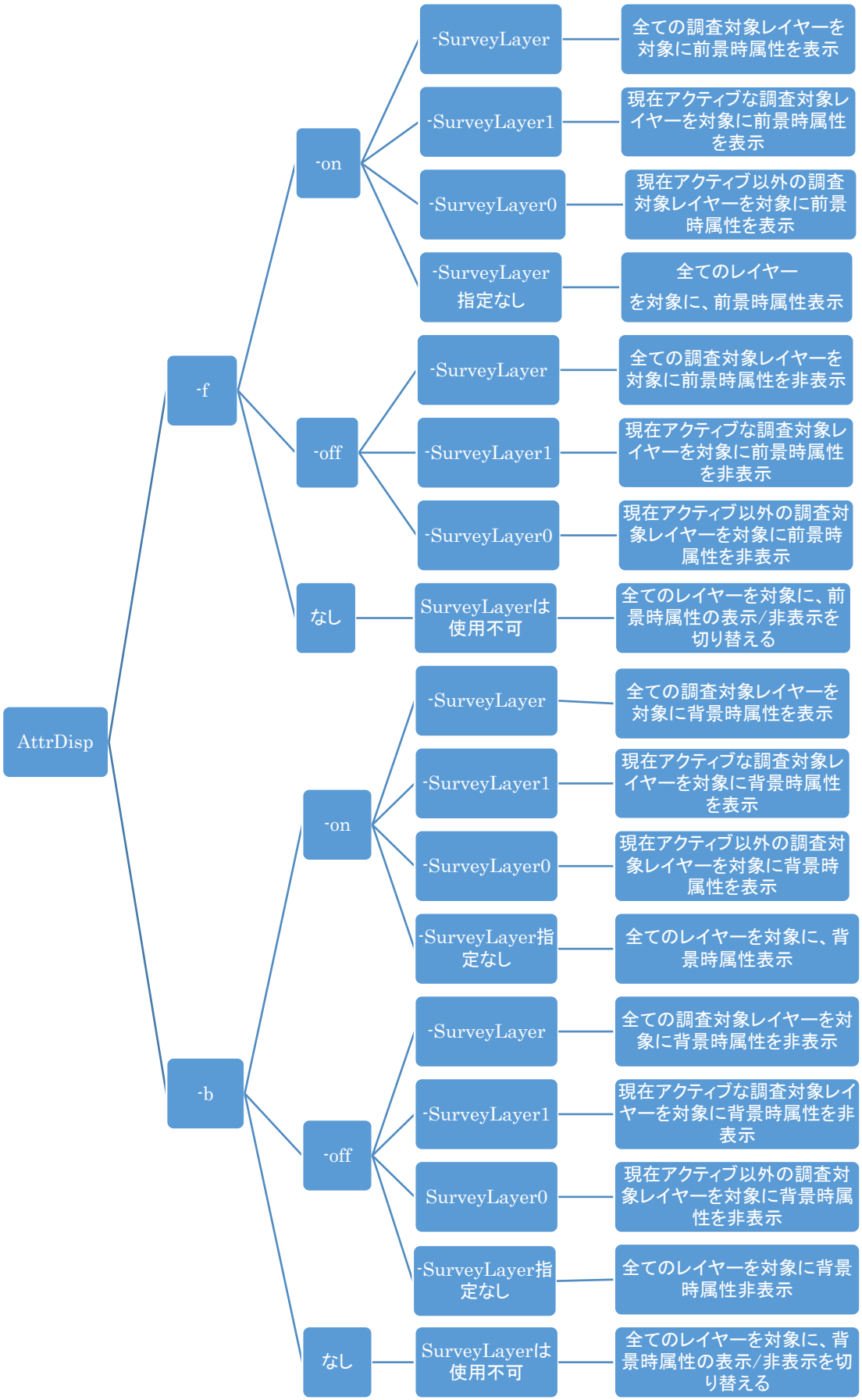
『出簡調』プロジェクトのデータに対する設定で、『出簡調』をより便利にご利用いただけます。

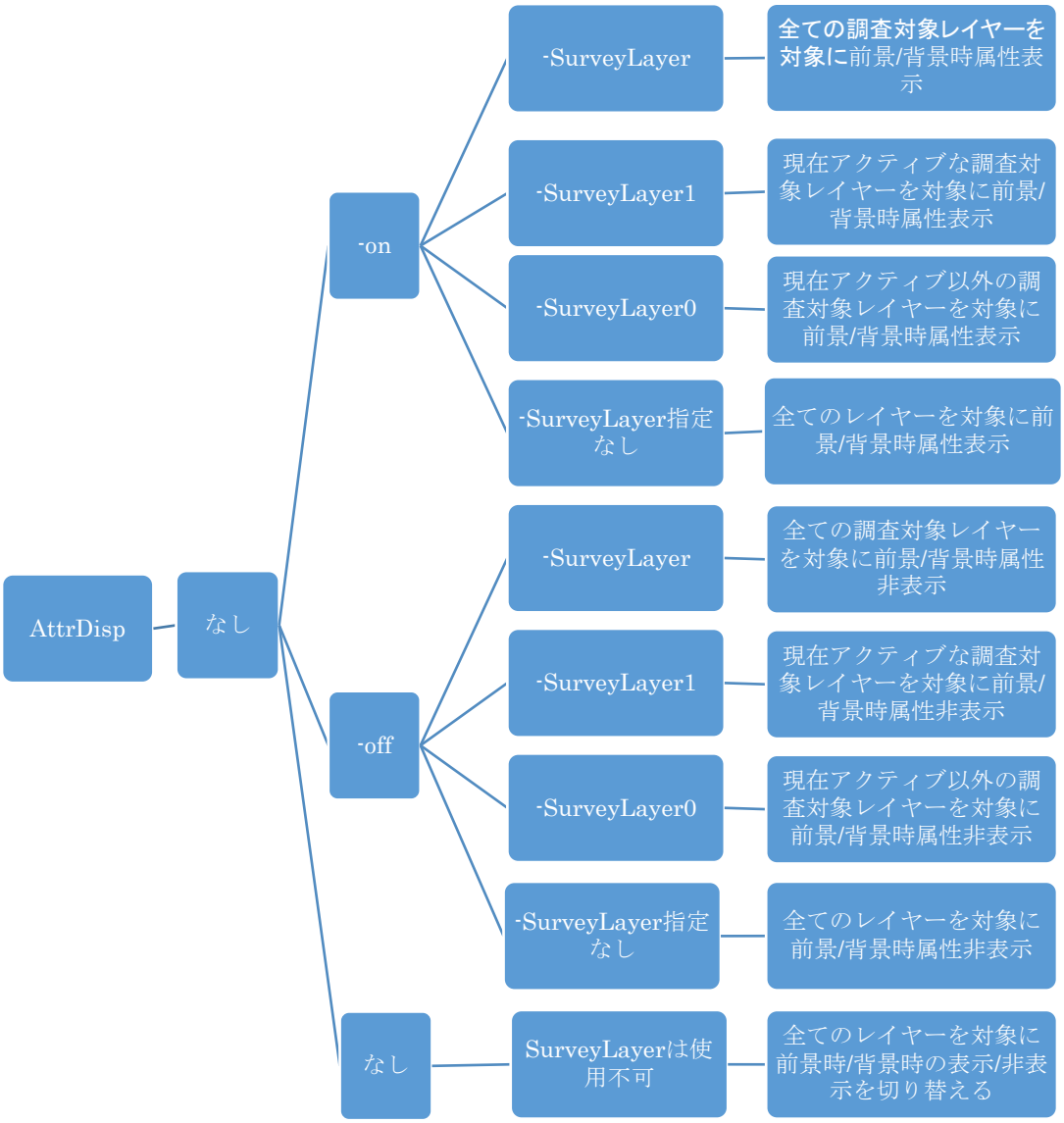
8.7.1. AttrDisp コマンドオプション

AttrDisp コマンドオプション「-SurveyLayer」がある場合とない場合の動作の違いは以下の通りです。
「SurveyLayer」オプションがない場合は、表示モードの属性チェックも ON/OFF される
「SurveyLayer」オプションがある場合は、表示モードの属性チェックは ON/OFF されない

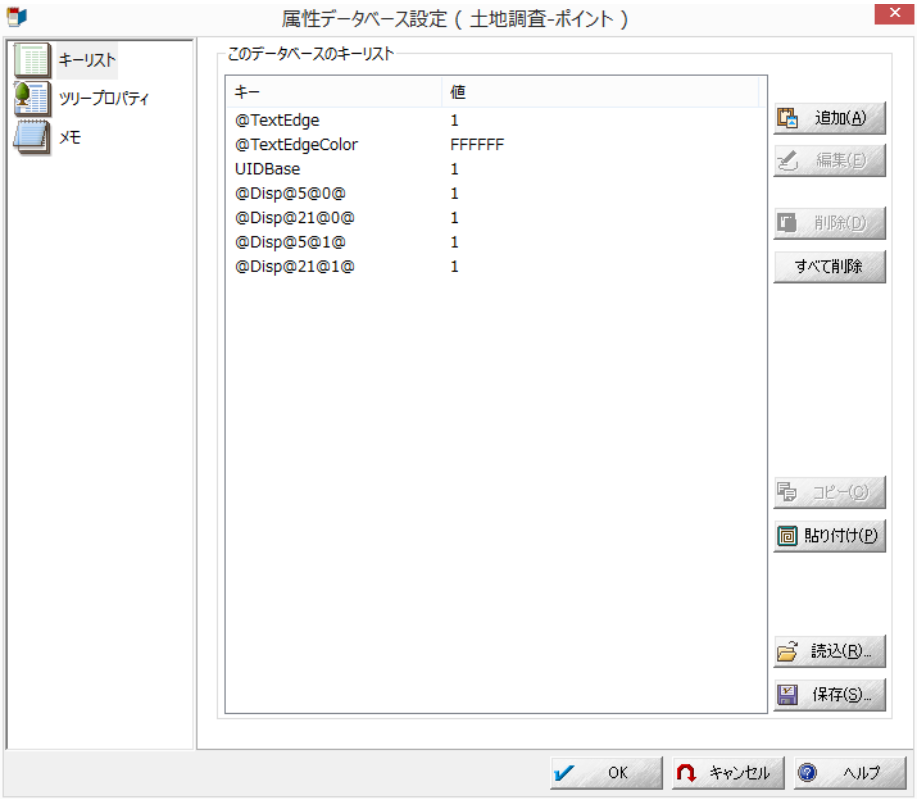
Command.prm での指定	On	Off
-SurveyLayer なし ⇒ ［表示モード］のポイントに対して「属性」チェックが ON/OFF かつ レイヤーエキスパートの「表示」チェックが ON/OFF オプション-f ：前景レイヤーのみ対象 オプション-b ：背景レイヤーのみ対象		
-SurveyLayer あり ⇒ レイヤーエキスパートの「表示」チェックが ON/OFF オプション-f ：前景レイヤーのみ対象 オプション-b ：背景レイヤーのみ対象		

8.7.2. AttrDisp オプションの組み合わせ




AttrDisp
なし
-on
-SurveyLayer
全ての調査対象レイヤーを対象に前景/背景時属性表示
-SurveyLayer1
現在アクティブな調査対象レイヤーを対象に前景/背景時属性表示
-SurveyLayer0
現在アクティブ以外の調査対象レイヤーを対象に前景/背景時属性表示
-SurveyLayer指定なし
全てのレイヤーを対象に前景/背景時属性表示
-off
-SurveyLayer
全ての調査対象レイヤーを対象に前景/背景時属性非表示
-SurveyLayer1
現在アクティブな調査対象レイヤーを対象に前景/背景時属性非表示
-SurveyLayer0
現在アクティブ以外の調査対象レイヤーを対象に前景/背景時属性非表示
-SurveyLayer指定なし
全てのレイヤーを対象に前景/背景時属性非表示
なし
SurveyLayerは使用不可
全てのレイヤーを対象に前景時/背景時の表示/非表示を切り替える

表示対象の属性フィールドは、レイヤーの内部属性のキーリストに保存されます。



@Disp@から始まるキーが属性表示を管理するキー
@Disp@5@0@
5:フィールドの内部番号（内部属性のフィールド順-1 の値となる）
0:0=前景、1=背景

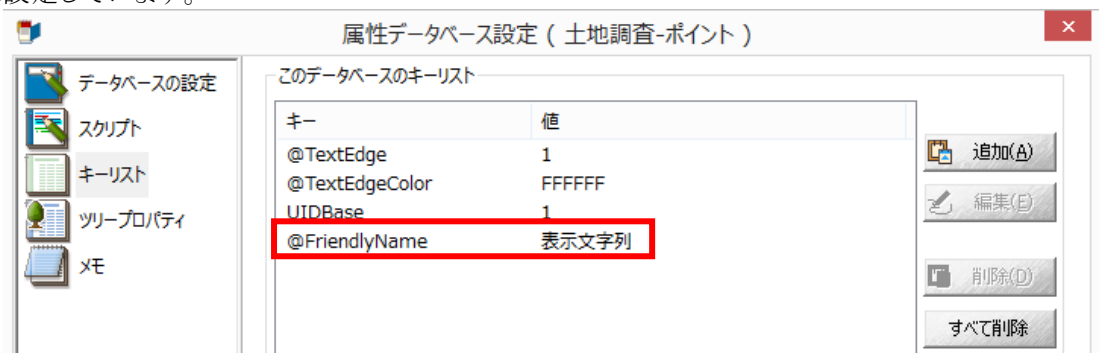
『PC-MAPPING HT』で属性フィールド（調査項目等）を追加・削除した場合は、この属性表示対象とするフィールドの内部番号を変更してください。

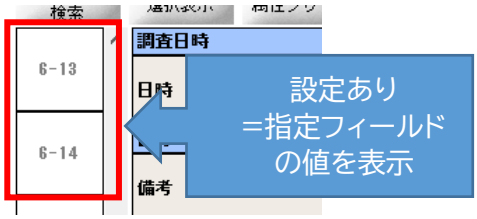
8.7.3. UID を見出し項目を変更する

「出簡調」の画面左端に表示している「UID」をユーザーがわかりやすい値（任意のフィールド値）に変更します。

調査対象レイヤーポイント内部属性のキーリストで、
　　キー：@FriendlyName
　　値：UID の代わりに表示したいフィールド名
と設定することで、任意のフィールド値を UID の代わりに表示します。

下図では、「土地調査」レイヤーのポイント内部属性「表示文字列」フィールドの値を表示するように設定しています。



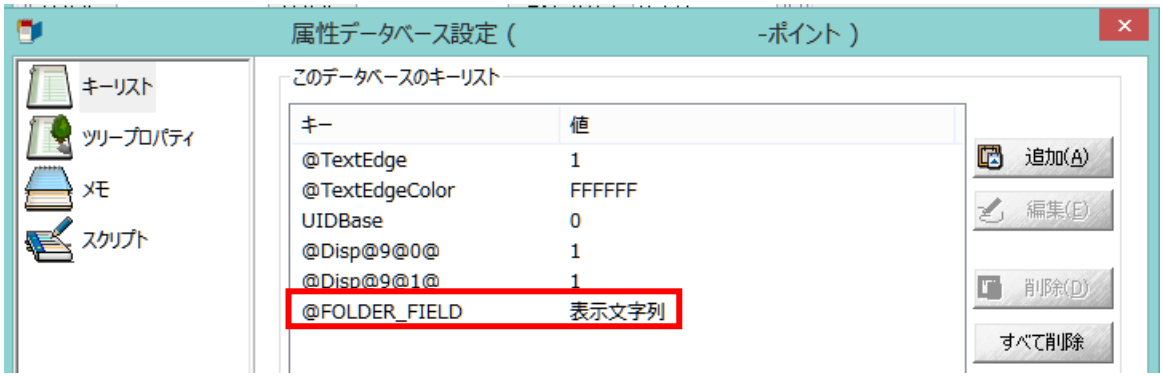


8.7.4. 現地写真フォルダ名を変更する

「出簡調」で撮影した現地写真は、デフォルトでは「UID」フォルダとなります。
写真フォルダ名をわかりやすくするために、「UID」以外に調査対象レイヤーの属性を写真フォルダ名に指定することができます。

調査対象レイヤーポイント内部属性のキーリストで、
　　キー:@FORDER_FIELD
　　値:UID と併せて表示したいフィールド名
と設定することで、任意のフィールド値を UID の代わりに表示します。
値に指定するフィールドは、属性値に重複があると正常に動作しません。ご注意ください。

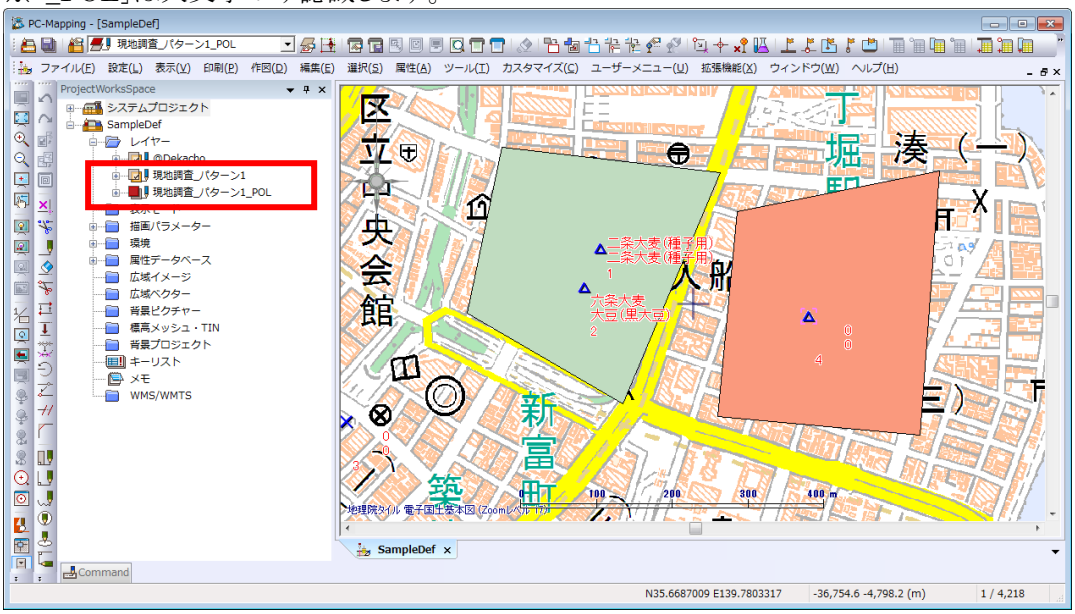
下図では、「土地調査」レイヤーのポイント内部属性「表示文字列」フィールドの値を表示するように設定しています。



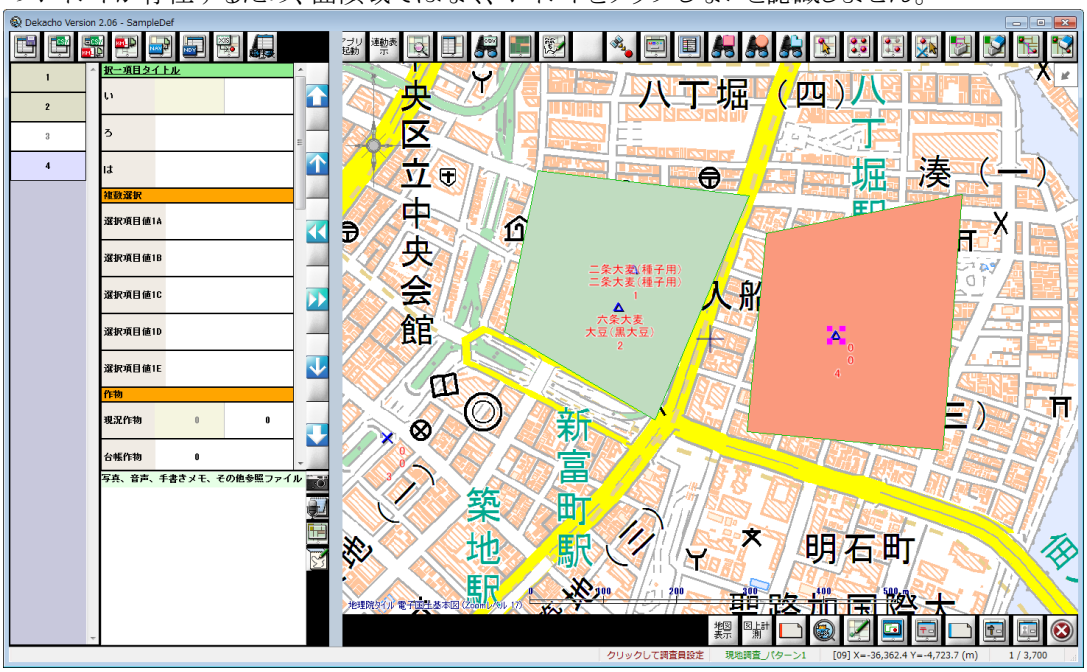
8.7.5. 調査対象物を面として扱う

調査ポイントと対になる面が背景にある場合、面をタップすると、調査ポイントを選択します。
面の中にポイントが1つの場合のみ、面をタップすると、ポイントをタップした時と同じ状態になります。

① PC-MAPPING で、「調査対象レイヤー名_POL」レイヤーを作成し、ポリゴンを作成します。
※「_POL」は大文字のみ認識します。



② 出簡調を起動し、面をダブルタップすると、ポイントをタップした時と同じ状態になることが確認できます。
下図では、右側の面にはポイントが１つだけなので、認識していますが、左側のポリゴンには２つのポイントが存在するため、面領域ではなく、ポイントをタップしないと認識しません。



③ 【属性検索】(FindByAttr)実行時に、選択されたポイントが存在する範囲に面が存在する場合、その面も同時に強調表示します。
この時は、ポイントと面の対応は１対１でなくてもかまいません。

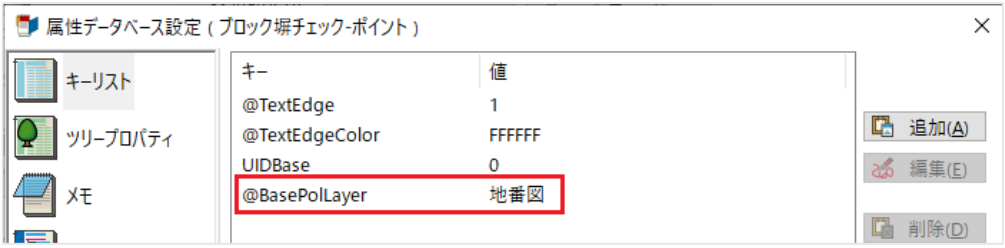
選択の解除は通常の【選択クリア】(ClearSel)実行時に、調査レイヤーのポイントだけでなくポリゴンについても選択を解除します。

8.7.6. 背景レイヤーのポリゴンから属性を転記する

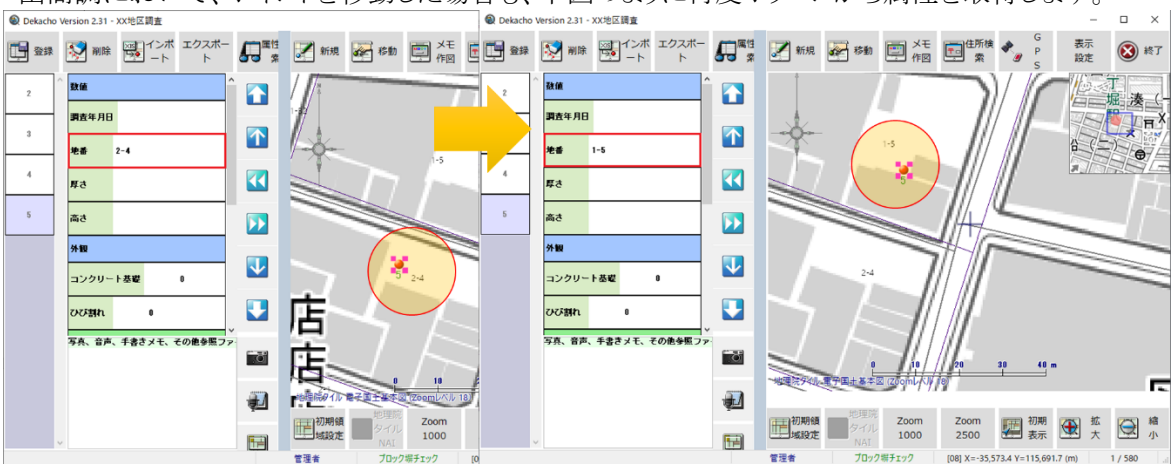
調査ポイント発生時に、ポイントを包含するレイヤーのポリゴンからフィールド名の一致する属性を転記できます。
予め、調査レイヤーとポリゴンのレイヤーとで、転記したいフィールド名は同一のものとしておきます。

① PC-MAPPING で調査レイヤーのレイヤーエキスパートを開きます。

② ポイント内部属性のキーリストに
　キー:@BasePolLayer
　値:ポリゴンがあるレイヤー名
と設定することで、ポイント発生時に包含するポリゴンから属性を転記します。



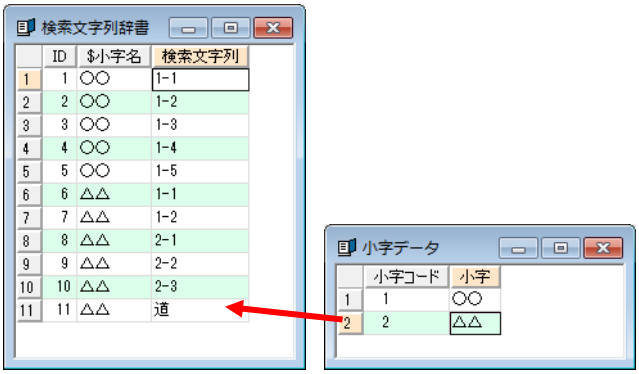
出簡調において、ポイントを移動した場合も、下図のように再度ポリゴンから属性を取得します。



8.7.7. 属性検索時の絞り込み表示

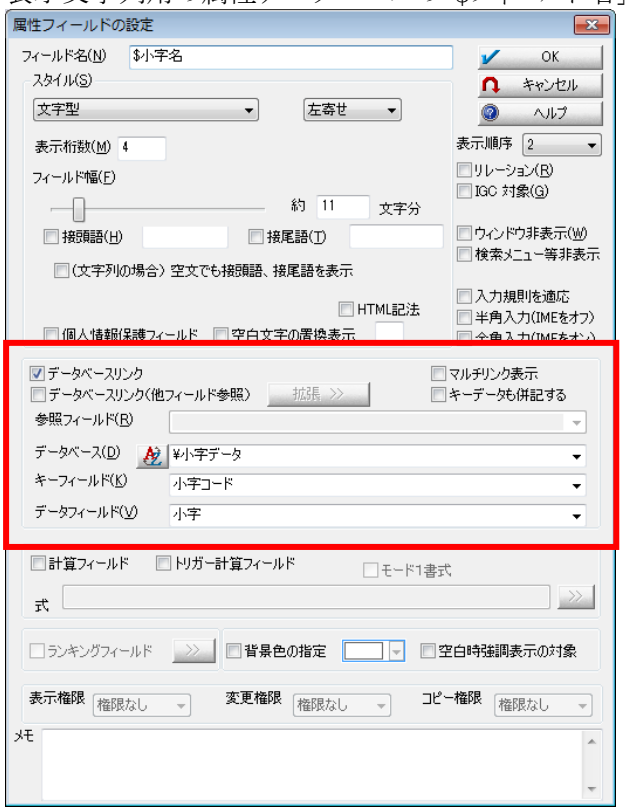
PC-MAPPING で、データベースリンクを行うと、属性検索時に絞り込み表示を行うことができます。
設定方法については、PC-MAPPING ヒント集をご参照ください。
https://www.mapcom.co.jp/support/hint/data/hint4.htm
【ヒント集】データベースリンクの絞込み表示

① PC-MAPPING で、検索文字列用の属性データベースと、絞込み用の属性データベースを作成します。

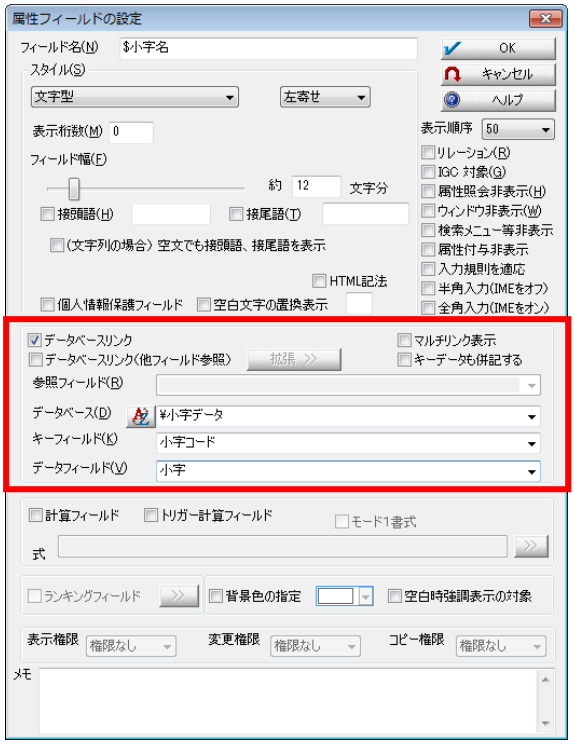


ID:整数型
$フィールド名:絞込み用属性データベースとリンク
検索文字列:検索文字列のリスト

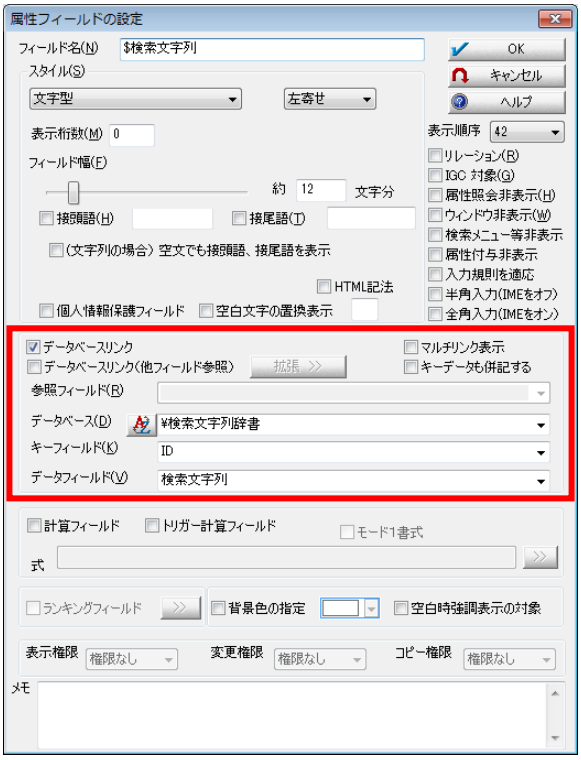
表示文字列用の属性データベースの「$フィールド名」には、以下のように設定します。



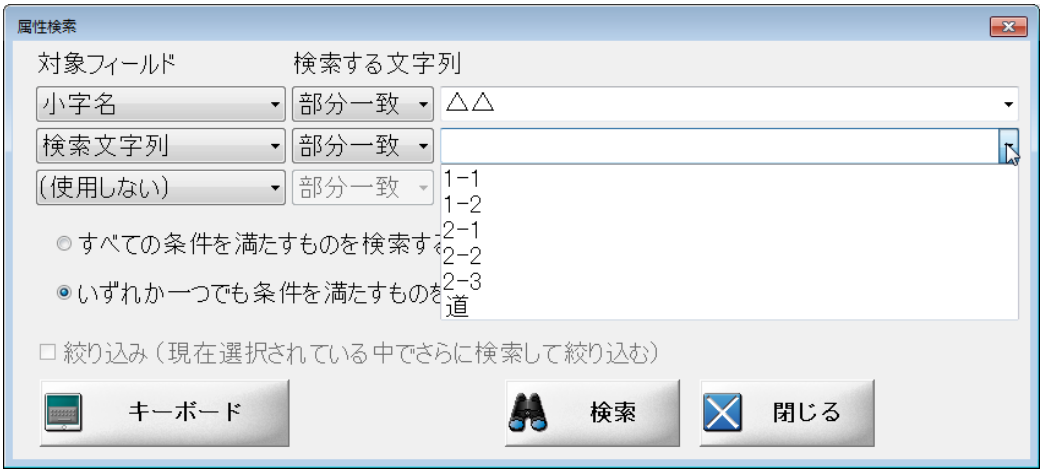
② 「調査対象レイヤー名」レイヤーのポイント属性に「$フィールド名」と同じ名称、設定のフィールドを追加します。



③ 「調査対象レイヤー名」レイヤーのポイント属性に絞込み表示用のフィールドを追加します。



④ 出簡調で、【属性検索】(FindByAttr)実行時に、②で指定したフィールドに連動し、③で指定したフィールドが絞り込まれて表示されます。

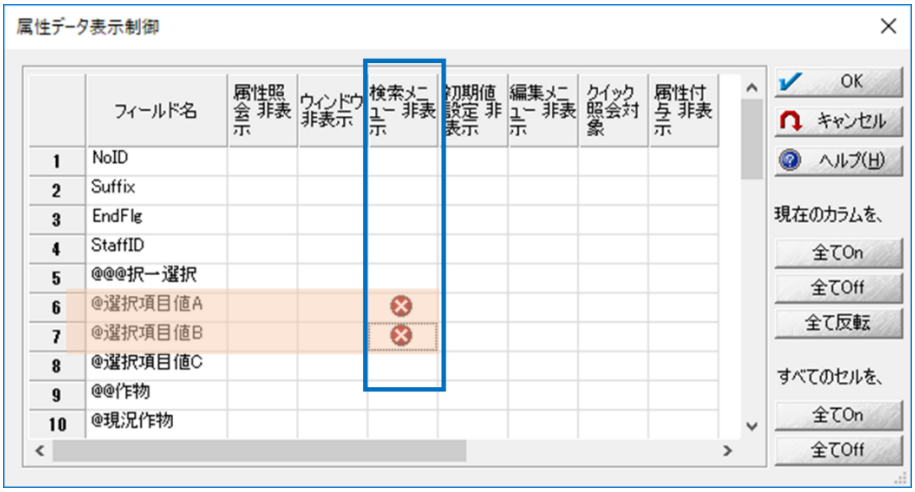


8.7.8. 属性検索対象フィールドの制御

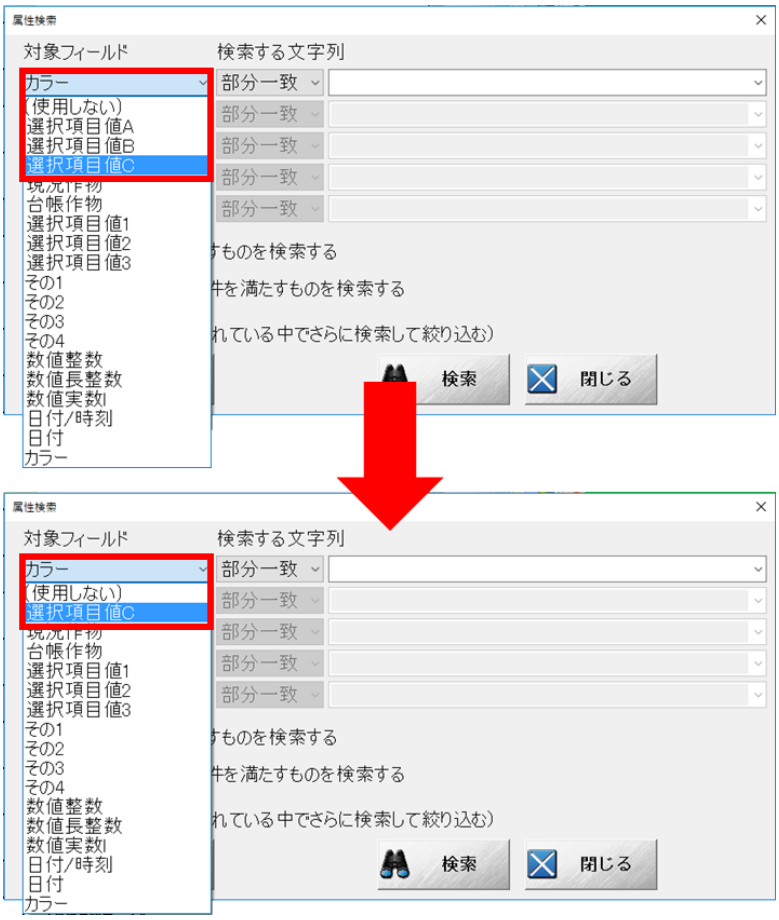
PC-MAPPING で表示の設定を行うと、属性検索時に検索に必要なフィールドのみを表示することができます。

① PC-MAPPING で調査レイヤーのレイヤーエキスパートを開きます。

② レイヤーエキスパート[表示制御]から、出簡調の【属性検索】で表示しないフィールドに対し、「検索メニュー非表示」を On にします。



③ 出簡調で【属性検索】(FindByAttr) 実行時に、②で設定したフィールド以外を属性検索対象とします。



8.7.9. 背景レイヤー（調査レイヤー以外）を属性検索する

PC-MAPPING で背景地図として、調査レイヤー以外のレイヤーを追加した場合、そのポイントを出簡調の【属性検索】（FindByAttr）で検索対象とすることができます。
※検索対象はポイントのみです。

コマンドの設定
属性検索： FindByAttr△-Layer△レイヤー名
選択解除： ClearSel△-Layer△レイヤー名

メニュー設定ファイル Command.prm に登録、もしくはコマンドパッドから実行してください。

8.7.10. 背景レイヤーの属性をツールチップで表示する(クイック属性照会)

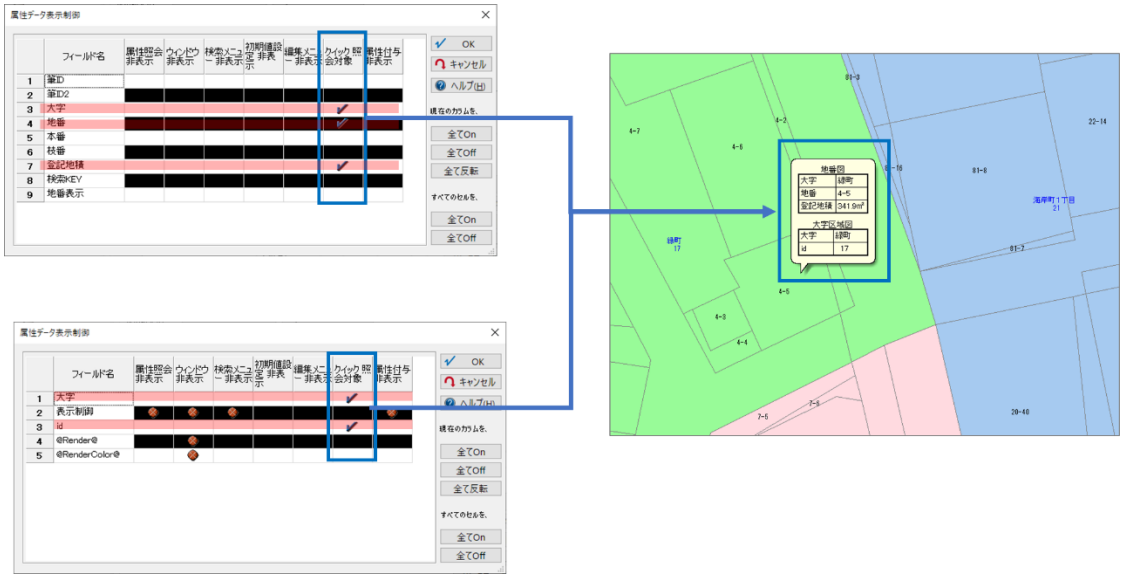
図面をタップすることで、背景レイヤーの属性情報を、ツールチップで表示することができます。
本機能は、PC-MAPPING におけるクイック属性照会の設定を、出簡調でも同様の表現を可能としました。
※ただし、出簡調は独自のツールチップのため、PC-MAPPING と同じ動作は保証していません

ツールチップ表示の設定

① PC-MAPPING でツールチップ表示させたいレイヤーのレイヤーエキスパートを開きます。

② レイヤーエキスパートの各ベクター設定パネルの[表示制御]から、出簡調でツールチップ表示させるフィールドに対し、「クイック照会対象」を On にします。

③ PC-MAPPING でツールチップ表示の設定が完了しました。
広域ベクターも同様の設定で出簡調でツールチップ表示が可能です。



ツールチップでフィールドタイトルを非表示にする

① PC-MAPPING でツールチップ表示させたいレイヤーのレイヤーエキスパートを開きます。

② レイヤーエキスパートの各ベクター設定パネルの内部属性[メモ・キーリスト>>]をクリックすると、「属性データベース設定」ダイアログが開きます。

③ キーリストパネルに下記のように設定してください。
キー:AttrTipNoField
値:1
PC-MAPPING では表現されませんが、出簡調で開くと下図のように表示されます。

◀ 地番図レイヤーのポリゴンのみに設定した例
※大字区域図レイヤーには設定していないため、フィールドタイトルが表示されています

※PC-MAPPING でのフィールドタイトル非表示の設定と異なります。

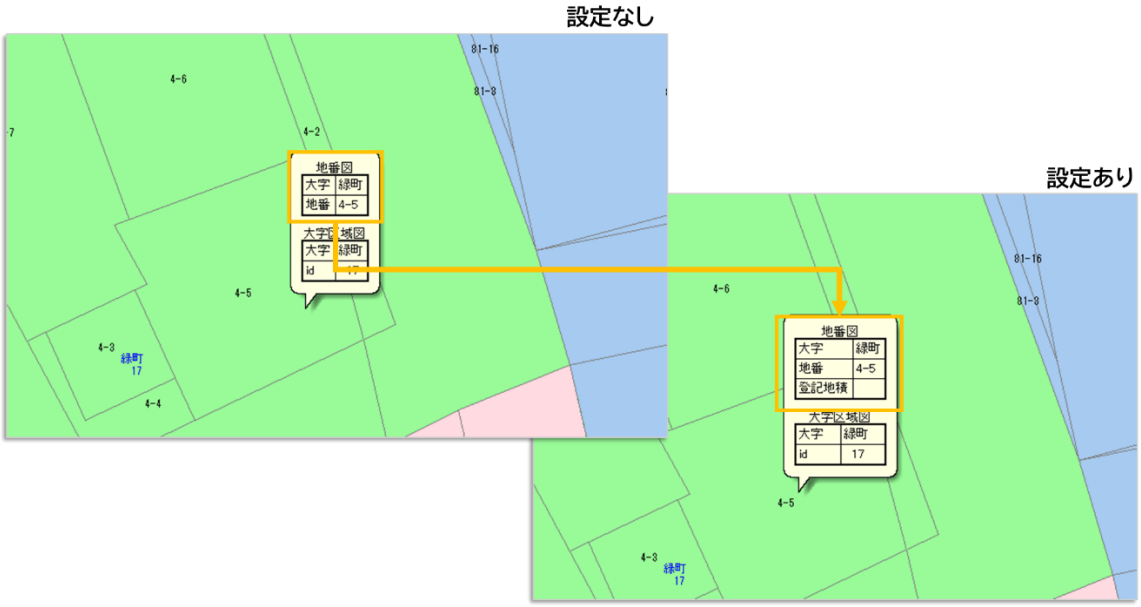
値が空白の場合、スキップ表示する

ツールチップでは、値が空白のものはスキップして表示します。下記の設定を行うことで、値がない場合でも表示させることができます。

① PC-MAPPING でツールチップ表示させたいレイヤーのレイヤーエキスパートを開きます。

② レイヤーエキスパートの各ベクター設定パネルの内部属性[メモ・キーリスト>>]をクリックすると、「属性データベース設定」ダイアログが開きます。

③ キーリストパネルに下記のように設定してください。
キー:@SkipBlank
値:0



上図のように、キーリストへの設定を行うと、値がない場合でもフィールドタイトルを表示します

8.8. PC-MAPPING との連携（スクリプト）

PC-MAPPING HT での操作

スクリプトを利用して調査項目に対して属性の保存時にメッセージを表示したり、調査項目の使用可・使用不可、背景色の設定を行います。
この機能を使用することにより、

① 入力された値のチェックを行い条件に合致した場合に保存時にメッセージを表示して保存するかどうかを確認する。(Validate 関数)

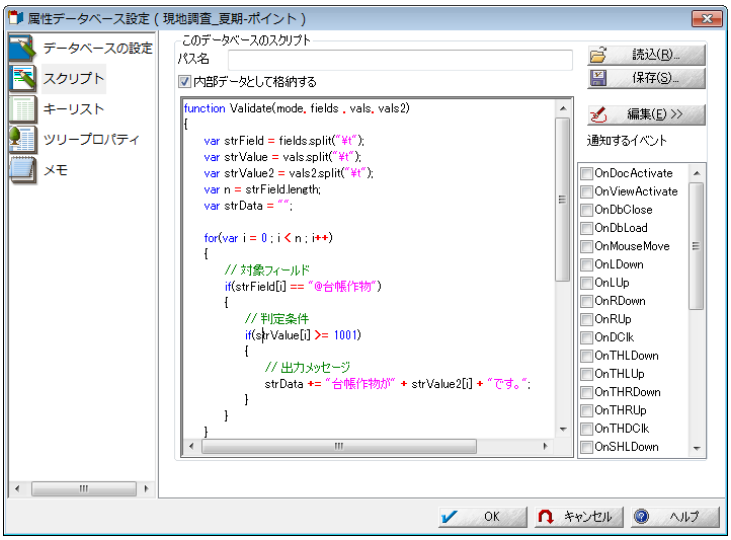
② 属性の入力時に入力されている値に応じて、特定の調査項目の背景色を変更したり、入力可・入力不可に設定する。(CheckField 関数)

などを行うことが可能です。
この機能を使用するためには PC-MAPPING HT が必要です。

8.8.1. 設定方法

① スクリプトの準備
Validate 関数、CheckField 関数のスクリプトを用意します。
スクリプトは制御を行うどちらかの関数、もしくは両方を用意します。
なお、本機能で使用できるスクリプト言語は JavaScript(JScript)のみとなり VBScript には対応していません。

② スクリプトの登録
PC-MAPPING HT を使用して制御を行う Survey レイヤーのポイント内部属性 DB のスクリプトに登録します。



この際に[スタート]-[システム環境]-[システム環境設定]-[操作 3]パネルで「使用するスクリプト言語」を「JScript(JavaScript)」に設定していない場合は、スクリプトを登録後にこの画面上で直接スクリプトを編集するとキーワードの英文字の大小が VBScript に合わせて自動的に変換されてしまうので注意が必要です。

8.8.2. メッセージボックスを表示する(入力値チェック)

Validate 関数

属性の保存時に条件で指定された調査項目の値を判定して条件に合致した場合に保存するかどうかのメッセージを表示します。
表示されたメッセージで【はい】をタップした場合にのみ保存が実行され【いいえ】をタップした場合には保存が中断されます。
この関数は登録コマンド(AttachAttr)の実行時に実際に登録される前に呼び出されます。

書式 function Validate(*mode, fields , vals, vals2*)

mode 未使用(スクリプトでは使用しません)
fields フィールド名のリスト、¥t(タブ)で区切られている
vals フィールドデータ(辞書引き前)のリスト、¥t(タブ)で区切られている
vals2 フィールドデータ(辞書引き後)のリスト、¥t(タブ)で区切られている
files *当該レコードに登録されている JPEG ファイルの数*
"NumOfJpeg nn"(¥t(タブ)で区切られている)

使用例:入力値チェック

```
function Validate(mode, fields , vals, vals2, files)
{
	// タブで区切られたフィールド名を分割して配列に格納します
	var ffp = fields.split("¥t");

	// タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き前の値を分割して配列に格納します
	var vvp = vals.split("¥t");

	// タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き後の値を分割して配列に格納します
	var vvp2 = vals2.split("¥t");

	// フィールド数をカウントします
	var n = ffp.length;

	// メッセージ文字列を初期化します
	var sret = "";

	// フィールドの数分だけ処理を行います
	for(var i = 0 ; i < n ; i++)
	{
		// 対象フィールド(ここでは「@現況作物」フィールドを対象としています)
		if(ffp[i] == "@現況作物")
		{
			// 判定条件
			if(vvp[i] >= 8001)
			{
				// 出力メッセージ
				sret += "現況作物が" + vvp2[i] + "ですがこのまま保存しますか。";
			}
		}
	}

	// 結果出力
	return (sret);
}
```

赤字部分が対象フィールド及び条件判定になります。

使用例：写真登録チェック

```
function Validate(mode, fields, vals, vals2, files)
{
	// タブで区切られたフィールド名を分割して配列に格納します
	var ffp = fields.split("¥t");

	// タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き前の値を分割して配列に格納します
	var vvp = vals.split("¥t");

	// タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き後の値を分割して配列に格納します
	var vvp2 = vals2.split("¥t");

	// フィールド数をカウントします
	var n = ffp.length;

	// メッセージ文字列を初期化します
	var sret = "";

	// JPEG ファイル数文字列を分解して配列に格納します
	var nn = files.split("¥t");

	// 条件判定
	if(nn[1] == 0)		// 登録されている JPEG のファイル数が 0 の場合
	{
			// 出力メッセージ
			sret += "写真が撮影されていません。";
	}

	// 結果出力
	return	(sret);
}
```

赤字部分が条件判定になります。

8.8.3. 調査結果入力欄をグレーアウトする

CheckField 関数

属性の入力時に指定された調査項目の入力されている値に応じて、特定の調査項目の背景色を変更して強調(Mark)、強調解除(UnMark)したり、値の入力を入力可(Enable)に設定したり入力不可(Disable)に設定します。
設定により Disable、Mark にしたものは、条件が元に戻れば同じスクリプト内で、Enable、UnMark する必要があります。(システムは自動的に設定を解除することはありません)
この関数は属性を入力時に呼び出されます。

書式 function CheckField(*mode, fields , vals, vals2*)

mode	未使用(スクリプトでは使用しません)
fields	フィールド名のリスト、¥t(タブ)で区切られている
vals	フィールドデータ(辞書引き前)のリスト、¥t(タブ)で区切られている
vals2	フィールドデータ(辞書引き後)のリスト、¥t(タブ)で区切られている

設定値

Disable,*フィールド名*	そのフィールドを入力不可にする(背景がグレーとなる)
Enable,*フィールド名*	そのフィールドを入力可にする
Mark,*カラー指定,フィールド名*	そのフィールドの背景色を指定して強調する
UnMark,*フィールド名*	そのフィールド背景色の指定を解除する

使用例

```
function CheckField(mode , fields , vals ,vals2)
{
    // タブで区切られたフィールド名を分割して配列に格納します
    var ffp = fields.split("¥t");

        // タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き前の値を分割して配列に格納します
    var vvp = vals.split("¥t");

        // タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き後の値を分割して配列に格納します
    var vvp2 = vals2.split("¥t");

    // フィールド数をカウントします
    var n = ffp.length;

    // メッセージ文字列を初期化します
    var sret = "";

    // 条件判定
    // 調査項目の背景色を変更します(7 番目のフィールドの値が「1005」かどうかを見ています)
    sret += (vvp[6] == 1005 ? "Mark, #FF0000" : "UnMark") + "," + ffp[19] + "¥r¥n";
    // 調査項目の背景色を変更します(5 番目のフィールドの値が「大豆(種子)」かどうかを見ています)
    sret += (vvp2[5] == "大豆(種子)" ? "Disable" : "Enable") + "," + ffp[6] + "¥r¥n";

    // 結果出力
    return (sret);
}
```

赤字部分が対象フィールド及び設定内容になります。

1. 参考: JavaScript(JScript)における条件判定に使用される主な演算子

==	*expression1* == *expression2*	*expression1* と *expression2* が一致するかどうか
!=	*expression1* != *expression2*	*expression1* と *expression2* が不一致かどうか
<	*expression1* < *expression2*	*expression1* が *expression2* 未満かどうか
>	*expression1* > *expression2*	*expression1* が *expression2* より大きいかどうか
<=	*expression1* <= *expression2*	*expression1* が *expression2* 以下であるかどうか
>=	*expression1* >= *expression2*	*expression1* が *expression2* 以上であるかどうか

? *boolexpression* ? *statement1* : *statement2*

statement1	*boolexpression* が真(true)の場合に実行されます
statement2	*boolexpression* が偽(false)の場合に実行されます

8.8.4. 調査結果入力欄の背景色を変更する（入力値チェック）

※サンプル：背景色変更サンプル.txt

```
function CheckField(mode , fields , vals )
{
        var ffp = fields.split("¥t");
        var vvp = vals.split("¥t");

        var sret = "";

        //「@計（設備等（住家外）」フィールド（フィールド番号 87）が 5 より大きい場合、赤色にする
        sret += (vvp[86] > 5 ?   "Mark, #FA8072" : "UnMark") + "," + ffp[86] + "¥r¥n";
        return (sret);
}
```

赤枠内で背景色を変更する条件と、変更する項目、色を指定する。
JavaScript のみ使用可能。

＜実行結果例：入力値によって背景色を変更する＞

計（設備等（住家外）	6

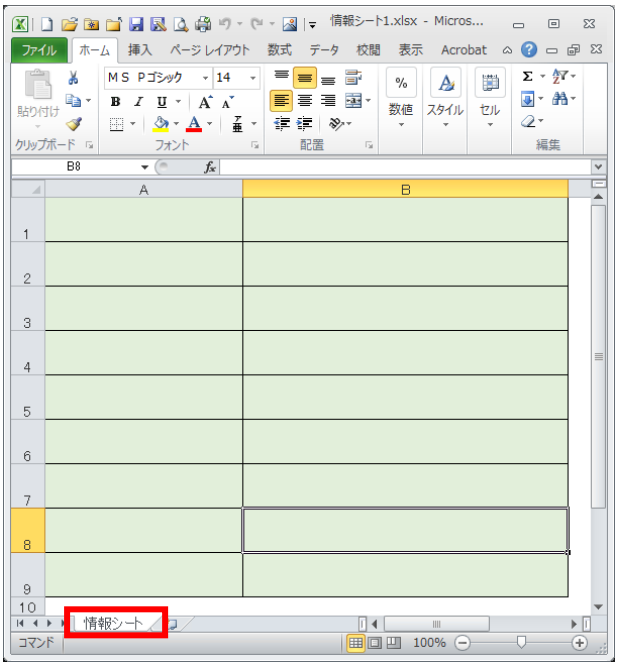
8.8.5. 写真への情報シートの貼り込み機能

予め用意された Excel データ及び対になるスクリプトにより、撮影した写真の中にデータベースの内容を貼り込むことができます。
情報シートを貼り込んだ写真データは、元の写真データとは別のファイルとして保存されます。新しく生成されたファイルのファイル名は末尾に「-BM」が付与されます。
この機能を付与することにより、出簡調上で既存の画像ファイルをタップすると、[**情報シート**を張り付ける]メニューが追加されます(**は、JS ファイル、XLSX ファイル名)。
メニューを実行すると、[**情報シートのはめ込み**]ダイアログボックスが表示され、ダイアログ上で、情報シートを編集することができます。

8.8.5.1. 準備:Excel データを用意する

写真に貼り込むベースとなる Excel データを準備します。
Excel データのファイル名は「情報シート.xlsx」もしくは「情報シート」+任意の名称.xlsx とします(xls 形式も利用可能です)。

例
情報シート.xlsx
情報シート 1.xlsx
情報シート_〇〇調査用.xlsx



シート名は「情報シート」とします。

Excel データは出簡調のインストールディレクトリに格納します。

白色(255,255,255)は透過色のため白色を表現したい場合には 254,254,254 等の色を使用してください。

シートの背景に画像を設定している場合には、作成時に使用した OS・Office と、実行時の OS・Office のバージョンが異なると指定した範囲で貼り込むことができない場合がありますので、作成環境と実行環境で OS・Office のバージョンは同じものを使用してください(背景機能を使用しない場合には異なるバージョンでも問題ありません)。

8.8.5.2. 準備：スクリプトを用意する

Excel データと対になるスクリプトを準備します。
スクリプトのファイル名は対応する Excel データと同じベースファイル名にします。

例
情報シート.xlsx → 情報シート.js
情報シート_〇〇調査用.xlsx → 情報シート_〇〇調査用.js

本機能で使用できるスクリプト言語は JavaScript(JScript)のみとなり VBScript には対応していません。

書式 function CopyPic(*mode, fields , vals, vals2, xfile*)

mode	未使用(スクリプトでは使用しません)
fields	フィールド名のリスト、¥t(タブ)で区切られている
vals	フィールドデータ(辞書引き前)のリスト、¥t(タブ)で区切られている
vals2	フィールドデータ(辞書引き後)のリスト、¥t(タブ)で区切られている
xfile	Excel ファイル名

スクリプト例

```
function CopyPic(mode, fields , vals, vals2, xfile)
{
    // Excel オブジェクトの取得
    var xls = new ActiveXObject("Excel.Application");

    // Excel ファイルロード
    var xlsBook = xls.Workbooks.Open(xfile);

    // シートオブジェクト取得
    var xlsSheet = xlsBook.Sheets("情報シート");

    // タブで区切られたフィールド名を分割して配列に格納します
    var ffp = fields.split("¥t");

    // タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き前の値を分割して配列に格納します
    var vvp = vals.split("¥t");

    // タブで区切られたフィールドに格納されている辞書引き後の値を分割して配列に格納します
    var vvp2 = vals2.split("¥t");

    // フィールド数をカウントします
    var n = ffp.length;

    // フィールドの値をシートに埋め込みます
    xlsSheet.Range("A1") = ffp[n - 1].replace(/[@$#]/g, ""); //UID
    xlsSheet.Range("B1") = vvp2[n - 1]; //UID
    xlsSheet.Range("A2") = ffp[4].replace(/[@$#]/g, "");
    xlsSheet.Range("B2") = vvp2[4];
    xlsSheet.Range("A3") = ffp[5].replace(/[@$#]/g, "");
    xlsSheet.Range("B3") = vvp2[5];
    xlsSheet.Range("A4") = ffp[6].replace(/[@$#]/g, "");
    xlsSheet.Range("B4") = vvp2[6];
    xlsSheet.Range("A5") = ffp[7].replace(/[@$#]/g, "");
    xlsSheet.Range("B5") = vvp2[7];
    xlsSheet.Range("A6") = ffp[8].replace(/[@$#]/g, "");
    xlsSheet.Range("B6") = vvp2[8];
    xlsSheet.Range("A7") = ffp[9].replace(/[@$#]/g, "");
    xlsSheet.Range("B7") = vvp2[9];
    xlsSheet.Range("A8") = ffp[10].replace(/[@$#]/g, "");
    xlsSheet.Range("B8") = vvp2[10];
    xlsSheet.Range("A9") = ffp[n - 2].replace(/[@$#]/g, ""); //更新日時
    xlsSheet.Range("B9") = vvp2[n - 2]; //更新日時
```

```
// Office2010 において背景を利用している場合に背景がずれるのを防止します
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = true;
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = false;
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = true;
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = false;

//  指定範囲を画像としてコピー(ここでは A1:B9 の範囲が指定されています)
xlsSheet.Range("A1:B9").CopyPicture(1, -4147);

// Excel 終了及びオブジェクト破棄
xlsSheet = null;
xlsBook = null;
xls.DisplayAlerts = false;
xls.Quit();
xls = null;
```

赤字部分が Excel シートのセルにデータベースの値を埋め込む記述になります。

フィールド ID は 0 からの連番でユーザーが定義した調査項目以外のシステムで定義されるフィールドのフィールド ID を指定するためには以下のように指定します。

ユーザー定義フィールド	フィールド ID:4～n-7（n:全フィールド数）
UID フィールド	フィールド ID:n-1（n:全フィールド数）
更新日時フィールド	フィールド ID:n-2（n:全フィールド数）
担当者フィールド	フィールド ID:n-6（n:全フィールド数）

フィールドの指定は、以下のように特定の範囲内のフィールドを各セルに指定する方法もあります。

```
for(var i = 5, j = 0 ; i < 10 ; i++, j++)
{
        xlsSheet.Range("B" +(5 + j)) = ffp[i].replace(/[@$#]/g, "");
        xlsSheet.Range("C" +(5 + j)) = vvp2[i];
}
```

フィールド名を取得する際に取得したフィールド名をそのまま埋め込むと出簡調の表示名の頭に「@」や「$」等の付いた本来のフィールド名で埋め込まれます。
これを回避するためには以下のようにセルに埋め込む際にフィールド名から「@」、「$」等を削除して埋め込むようにします。

```
xlsSheet.Range("A8") = ffp[10].replace(/[@$#]/g, "");
```

Windows7+Office2010、Windows10+Office2010 の組み合わせの場合には作成環境、実行環境を同じものを使用していても指定した範囲で貼り込むことができないので以下の行を Copy Picture の前に挿入するようにしてください。

```
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = true;
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = false;
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = true;
xls.ActiveWindow.DisplayHeadings = false;
```

9. システム要件

本体（対応 OS） Windows11/Windows10/Windows8 (x86 および x64)以上
メモリ 2GB 以上推奨
ハードディスク 500MB 以上
ディスプレイ 1680*1050 以上の解像度

その他 .NET Framework 3.5 以上
※ノートパソコン・デスクトップパソコンでもご利用になれます。

注意事項
＜システム使用上の注意事項＞
● パッケージには地図データは含まれておりません。

＜商標について＞
● Windows11/Windows10/Windows8 は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
● PC-MAPPING は株式会社マプコンの登録商標です。
● その他記載の名称等は各社の商標または登録商標です。

＜データ利用許諾＞
● 国土地理院背景地図等データ利用許諾番号 2102-006 号

10. お問合せについて

出簡調に関するご質問等、操作サポートについては、下記サポート対応メールアドレスまでお問合せ下さい。

お問い合わせ先：query@mapcom.co.jp

バージョンおよび保守サポート加入ライセンスの確認について

出簡調を起動していただき、タイトルバーを長押し（右クリック）で表示されるメニューの最下部にある「バージョン情報」をクリックしてください。
下記のようなダイアログが表示され、現在お使いのバージョンや、ライセンス期限、保守サポートの有効期限をご確認いただけます。

改訂履歴

Ver.	発行日	改訂履歴
Ver.2	2015 年 6 月 1 日	初版発行
Ver.2.01	2015 年 6 月 15 日	Ver.2 の『2.1.インストール』に追補 Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『5.1.2.「管理 2」パネル』に「カメラアプリは手動で起動します」チェックボックスを追加 • 『6.2.Dekacho.ini ファイル』に ➢ 「HandMemo」 ➢ 「ColorCustom」 を追加 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』に ➢ 「DbView」：情報一覧表示 ➢ 「HusenCir」：付箋を巡回表示 ➢ 「HusenClearALL」：全ての付箋を削除 ➢ 「HusenDisp」：付箋の表示状態を切り替える ➢ 「HusenKanri」：付箋管理用ダイアログボックス ➢ 「HusenKML」：付箋を KML ファイルに出力 を追加 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「HusenPaste」：画像を付箋として配置 ➢ 「SakuzuTrack」：メモ作図 に機能を追加 Ver.2 の『8.PC-MAPPING 連携機能』に追補
Ver.2.01.1	2015 年 8 月 5 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『5.1.3.「管理 3」パネル』にバックアップファイルの削除を追加 • 『7.5.システム制御コマンド』に ➢ @スプリットバー色：ウィンドウ分割線の色 ➢ @メインウィンドウ背景色：補足追加 を追加 • 『7.5.システム制御コマンド』に「色の設定について」の説明を追加 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』に ➢ 「DispWai」：表示、非表示、透過度オプション ➢ 「DispWaiLayer」：表示、非表示、透過度オプション ➢ 「RangeOp」：図上計測 ➢ 「HusenCirClra」 を追加 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「SakuzuEdit△2」：図形情報修正 に機能を追加
Ver.2.01.1	2015 年 8 月 5 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア

		(画面右下)で使用可能なメニュー』の ➢ 「NewPnt△1」:連続ポイント追加 ➢ 「AttrDisp」 オプションを追加 ➢ 「DoRelation」 機能追加 • 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』の ➢ 「SaveCsv」 オプションを追加 • 『3.1.5.8.リレーション』機能を追加 • 『8.4.6.調査項目の設定』に「リレーション(固定)」、「リレーション」機能を追加
Ver.2.01.2	2015 年 9 月 14 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『5.1.2.「管理 2」パネル』に「GPS 移動方向に画面を回転させる(速度が指定以上の場合)」チェックボックスを追加 • 『7.5.システム制御コマンド』の ➢ @リスト 3 背景色 コマンド追加 ➢ ButtonColor オプション追加 • 『7.7.100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』の ➢ 「MCompass」 コマンド追加 • 『8.4.6.調査項目の設定』に『属性データの比較』機能を追加 • 『8.5.PC-MAPPING との連携(オプション)』に ➢ 『AttrDisp コマンドオプション』 ➢ 『AttrDisp オプション組み合わせ』 を追加
Ver.2.06	2015 年 11 月 19 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 『5.1.2.「管理 2」パネル』に「手書きメモアプリの指定」を追加 • 『7.7.100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』の ➢ 「FullMap」 ➢ 「DbView2」 ➢ 「SumEndFlg」 ➢ 「FindByCSV」 ➢ 「SlaveView」 ➢ 「HandMemoExec」 を追加 ➢ 「FindByAttr」 ➢ 「FindbyRect」 ➢ 「FindByCir」 ➢ 「FindByArea」 ➢ 「ClearSel」 に追補 • 『6.2.Dekacho.ini ファイル』に ➢ [FindByAttrMDlg]セクション追加 ➢ [HxGdi]セクション追加 ➢ [DekachoDlg]セクション追加

		➢ ［APP］セクションに「MinSS」追加 • 『8.5.3.見出し項目を変更する』を追加 • 『4.1.新規プロジェクト生成ツールの起動』に、⑨「該当領域の道路中心線タイルを予めダウンロードしておく」を追加 • 『4.2.新規プロジェクト生成ツール』の画像変更 • 『8.5.4.調査対象物を面として扱う場合』を追加 • 『8.5.5.属性検索時の絞込み表示』を追加 • 『8.6.PC-MAPPINGとの連携（スクリプト）』を追加 • 『8.3.［拡張機能］-［出簡調 2 プロジェクト生成］』の、［Dekacho2 プロジェクト生成］ダイアログボックスに「（個別タイルではなく）ピラミッド型 TIFF ファイルに統合する」チェックボックス、「該当領域の道路中心線タイルをあらかじめダウンロードしておく（評価用）」チェックボックス追加
Ver.2.06.1	2015 年 12 月 1 日	• 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「AutoCameraBoard」 を追加
Ver.2.06.4	2016 年 2 月 29 日	• 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「CopyUpdate」 を追加 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「LayerDisp」 ➢ 「SurveyDisp」 オプション追加 • 『6.2.Dekacho.ini ファイル』に ➢ ［PcmTrackMAttr］セクション追加
Ver.2.11	2016 年 5 月 30 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「CalcSum」 ➢ 「Stamp」 ➢ 「StampCir」 ➢ 「SearchAll」 を追加
Ver.2.11.1	2016 年 7 月 19 日	• 『6.2.Dekacho.ini ファイル』の ➢ 「CameraNoDateTime」 を追加 • 『7.5.システム制御コマンド』の ➢ 「@ButtonColor」 追補 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「DispWaLineSlot」 を追加 • 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』の ➢ 「AttachAttr」 ➢ 「SetCameraFHD」 オプション追加
Ver.2.11.2	2016 年 9 月 28 日	• 『6.2.Dekacho.ini ファイル』の

		➢ [App]セクションに「DPIMul」を追加 • 『6.2.Dekacho.ini ファイル』に ➢ [DbListWnd]セクション追加 • 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』の ➢ 「FromPattern」追補 • 『7.7.100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』の ➢ 「SakuzuTrack」 @dialog を追加 • 『8.6.2.メッセージボックスを表示する(入力値チェック)』の ➢ 「Validate」関数に第 5 パラメーター“files”を追加 • 『8.3.[拡張機能]-[出簡調 2 プロジェクト生成]』の、[Dekacho2 プロジェクト生成]ダイアログボックスに「現プロジェクトを Dekacho2 プロジェクトとして、分割して生成する」チェックボックス追加
Ver.2.11.*	2016 年 12 月 26 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『5.1.2.「管理 2」パネル』の、「Windows8 標準のカメラアプリを利用する」を、「ストアアプリ(Windows8 以降)のカメラアプリを利用する」に変更。
Ver.2.13.	2017 年 5 月 1 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『8.5.6.属性検索対象フィールドの制御』追加 • 『7.7.100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』に ➢ 「GoogleMaps」:オプション追加 • 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』の ➢ 「SaveCSV」:有償オプション追加
Ver.2.13.1	2017 年 5 月 15 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『8.5.7.現地写真フォルダ名の変更』追加
Ver.2.13.2	2017 年 6 月 30 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『3.1.8.個別写真フィールドの設定方法』追加 • 『8.4.6.調査項目の設定』変更
Ver.2.15	2018 年 6 月 25 日	• 『6.2.Dekacho.ini ファイル』の ➢ [App]セクションに「InitViewMode」を追加
Ver.2.15.1	2019 年 1 月 7 日	• 『2.1.インストール』に ➢ 「(ショートカット等を)全ユーザー共通フォルダに作成」チェックボックスを追加
Ver.2.16.0	2019 年 5 月 17 日	• 『6.2.Dekacho.ini ファイル』の [DbListWnd]セクションに「DicOther」を追加
Ver.2.32.0	2020 年 2 月 20 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い追加・改訂 • 『8.PC-MAPPING 連携機能』の章全体を見直し、下記の章立てを追加 ➢ 『4.3『出簡調』プロジェクトのフォルダ構成』 ➢ 『8.3『出簡調』プロジェクトに地図データを追加する』
		• 『6.2.Dekacho.ini ファイル』 ➢ DelayedUpdate を追加 • 『7.7.100 番台エリア(画面右上)、200 番台エリア(画面右下)で使用可能なメニュー』 ➢ 「DoCamera」

		➢ 「DoUpdate」 ➢ 「HideUIDList」 を追加 • 『8.7.5.背景レイヤーのポリゴンから属性を転記する』を追加
		• 『10.お問合せについて』を追加 • 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』 ➢ 「Attachattr△-NextRec」 を追加 • 『8.6.6 調査項目の設定』「日付・時刻」の ➢ 「ヒント：計算フィールド『$TimeStamp』の使用」 を追加 • 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』 ➢ 「Attachattr」 の内容（※）を追加
	2020 年 6 月 25 日	• 『6.2.Dekacho.ini ファイル』 ➢ 「DicHideKey=1」 を追加
	2020 年 8 月 24 日	• 『5.1.3.「管理 3」パネル』にネット認証を追加
Ver.2.33.0	2020 年 10 月 14 日	• 『7.7. 100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』 ➢ 「DispModeCheck」を追加
	2020 年 11 月 24 日	• 『7.7. 100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』の ➢ 「DispWaiLayer」にパラメーターを追加
Ver.2.41.0	2022 年 12 月 24 日	Ver.2 の仕様一部変更に伴い改訂 • 『6.2. Dekacho.ini ファイル』 ➢ [DKShapeMenuDlg]セクションに「Sym」を追加 • 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』 ➢ 「FindByAttr」に追補 • 『8.7.9.背景レイヤー（調査レイヤー以外）を属性検索する』を追加 • 『8.7.10.背景レイヤーの属性をツールチップで表示する（クイック属性照会）』を追加
Ver.2.42.0	2022 年 3 月 31 日	『設定管理ツール』リニューアルに伴い改訂 • 『3.2.定義ファイルの作成（『設定管理ツール』）』を改訂
	2022 年 6 月 2 日	『設定管理ツール』改訂 • Windows8.1 対応（既存ユーザー向け） 内部更新のみ
Ver.2.44.0	2022 年 6 月 9 日	• 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』 ➢ 「SaveShapeAsShp」 を追加
	2022 年 6 月 13 日	• 『2.2.ライセンスプロテクト装置のドライバーインストール』追加
	2022 年 7 月 7 日	• 『7.4.クイックメニュー』の図と文更新

	2022 年 7 月 22 日	• 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』 ➢ 「SelPnt」 を追加
		• 『6.2.Dekacho.ini』 ➢ 「MapControlView」-「LButtoFlag」 を追加
Ver.2.48	2022 年 9 月 5 日	• 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』 ➢ 「SaveCsv」 オプション「-Field」を追加
Ver.2.49	2022 年 10 月 6 日	• 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』 ➢ 「SaveCsv」 オプション「-Dic」を追加
Ver.2.50	2022 年 11 月 1 日	• 『8.6.4.UID リスト背景色の設定』追加
Ver.2.50	2023 年 2 月 27 日	• 『8.6.5.属性リストボックスの背景色の設定』追加
Ver.2.51	2023 年 4 月 25 日	• 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』 ➢ 「AttachAttr」 オプション「-CopyIniRec」を追加
Ver.2.51	2023 年 5 月 24 日	• 『6.2.Dekacho.ini』 ➢ 「MapCtrlView」-「MAttr」 を追加
Ver.2.52	2023 年 6 月 5 日	• 『6.2.Dekacho.ini』 ➢ ［MapCtrlView］ -「EnablePaintCancelButton」 を追加
Ver.2.52	2023 年 6 月 16 日	• 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』 ➢ 「NewPnt」 オプション「-ask」・「-r」を追加
Ver.2.56	2023 年 7 月 12 日	• 『6.2.Dekacho.ini』 ➢ ［DbListWnd］-「PackSharp」 を追加
Ver.2.58	2023 年 8 月 18 日	• 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』 ➢ 「FindByAttr」 オプション「-AllField」を追加
	2023 年 9 月 1 日	• 『7.8.300 番台エリアで使用可能なメニュー』 ➢ 「DelPnt」 ➢ 「DelUndo」 補足説明追加
Ver.2.66	2024 年 3 月 25 日	• 『7.7.100 番台エリア（画面右上）、200 番台エリア（画面右下）で使用可能なメニュー』 ➢ 「FindByAttr」 オプションを追加

株式会社マプコン
URL https://www.mapcom.tokyo
E-Mail info@mapcom.co.jp

モバイル調査システム『出簡調』 Ver.2.66
2024 年 3 月 25 日